

# 2024 年度 シラバス (講義要綱)

2022 年度以前入学生  
環境情報学部



四日市大学

# 目 次

## 【環境情報学部】卒業必要単位数

### 【2022年度以前入学生】

区分		卒業必要単位数				
全学共通教育科目	基礎科目	必修	6単位			
	語学科目	必修	4単位 留学生は日本語で4単位			
		選択	4単位以上 留学生は日本語で4単位以上			
	情報科目	必修	6単位			
		選択				
	地域科目	選択	4単位以上			
	一般教養科目	社会科学系列	選択	4単位以上		
		人文科学系列	選択	4単位以上		
		自然科学系列	選択	4単位以上		
	キャリア科目	必修	4単位			
		選択				
	※特別科目	選択				
スキル科目	社会調査士養成ユニット	選択	いずれかのユニットから10単位以上			
	公務員養成ユニット	選択				
	おもてなし経営ユニット	選択				
	英語力養成ユニット	選択				
	メディアデザインユニット	選択				
専門教育科目	学部基礎科目	必修	6単位			
	セミナー	必修	12単位			
	自然環境分野	選択必修	いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上	選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上	左記の条件を満たし、さらに8単位以上	
	メディア情報分野					
	自然環境分野	選択				
	メディア情報分野					
分野共通科目	選択					

50単位以上

全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上

合計130単位以上

62単位以上

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

## カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、専攻・分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
配当年次	<p>科目が開講されている学年・学期を記載します。</p> <p>○ ……半期週1回開講</p> <p>◎ ……半期週2回開講</p> <p>集 ……集中講義</p> <p>▲ ……その他の開講</p> <p>□ ……不開講科目</p>
講師区分	<p>本学の教員かそうでないかを記載します。</p> <p>兼 ……他学部所属教員</p> <p>非 ……他大学、他組織所属教員</p> <p>空白……本学部所属の教員</p>
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
ページ	シラバス掲載ページを記載します。
備考	特記事項を記載します。

区分	2017～2022年度以降入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
必修	「人間たれ」	「人間たれ」I	②	○									鬼頭 浩文 他	1		
	入門演習 I	入門演習a	②	○									池田 幹男 大八木 麻希 樋口 晶子 前川 督雄 柳澤 翔士	2		
	入門演習 II	入門演習b	②		○								池田 幹男 大八木 麻希 樋口 晶子 前川 督雄 柳澤 翔士	3		
必修	基礎英語 I	基礎英語 I	②	○									青木 陽子 樋口 晶子	4		
	基礎英語 II	基礎英語 II	②		○								青木 陽子 樋口 晶子	5		
	基礎日本語 I	基礎日本語 I	②	◎								兼 非 非	加納 光 安田 由紀子 伊藤 晴苗	6	留学生科目	
	基礎日本語 II	基礎日本語 II	②		◎							兼 非 非	加納 光 安田 由紀子 伊藤 晴苗	7	留学生科目	
選択必修	英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション I	2			○							青木 陽子 樋口 晶子	8 9		
	英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション II	2				○						兼 ゴードン リース 青木 陽子 樋口 晶子	10 11 12		
	中国語 I	中国語 I	2			○							兼 加納 光	13 14		
	中国語 II	中国語 II	2				○						兼 加納 光	15		
	ポルトガル語 I	ポルトガル語 I	2				○						兼 フェリペ フェハーリ	16		
	ポルトガル語 II	ポルトガル語 II	2					○					兼 フェリペ フェハーリ	17		
	海外語学研修a(英語)								▲							
	海外語学研修b(中国語)									▲						
	日本語中級 I	日本語中級 I	2			○							非 非	伊藤 晴苗 安田 由紀子	18	留学生科目
	日本語中級 II	日本語中級 II	2				○						非 非	伊藤 晴苗 安田 由紀子	19	留学生科目
	日本語上級 I		2					○					非 非	伊藤 晴苗 安田 由紀子	20	留学生科目
	日本語上級 II		2						○				非 非	伊藤 晴苗 安田 由紀子	21	留学生科目
	必修	コンピュータリテラシー	基礎コンピュータ I	④	○									片山 清和 牧田 直子	22	
基礎コンピュータ II					○								片山 清和 牧田 直子			
選択	情報倫理		②		○								田中 伊知郎	23		
	情報科学	情報科学概論	2	○									池田 幹男	24		
選択	情報と職業	地域社会とメディア情報	2		○								黒田 淳哉 柳瀬 元志	25		
	アプリケーション演習 I															
選択	アプリケーション演習 II	文書表現ツール2	2				○						柳澤 翔士	26		
	四日市学	四日市学	2	○									兼 岡 良浩 他	27		
地域科目	地域社会の歴史		2	○									兼 浅井 雅	28		
	市民教育		2	○									兼 フェリペ フェハーリ	29		
	人権論	「人間たれ」II	2		○								兼 小林 慶太郎 他	30		
	地域社会と環境	地域社会と環境	2	○									野呂 達哉	31		
	地域防災		2	○									鬼頭 浩文	32	オンデマンド	
	地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2			▲							兼 倉田 英司	33		
	地域連携特別講義b															

全学共通教育科目

情報科目

地域科目

区分	2017～2022年度以降入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
一般教養科目	経営学		2		○							兼	川崎 綾子	34		
	経済学	経済学概論	2		○							兼	鬼頭 浩文	35		
	政治学	政治学概論	2	○								兼	吉川 和伸	36		
	社会学	社会学概論	2	○								兼	三田 泰雅	37		
	ジェンダー論		2		○							兼	高田 晴美 三田 泰雅	38		
	メディアリテラシー	メディアリテラシー	2	○									前川 督雄	39		
	社会福祉概論	社会福祉概論	2		○							兼	松本 彩月	40		
	日本国憲法	日本国憲法概論	2	○								兼	中西 紀夫	41		
	法学		2		○							兼	中西 紀夫	42		
	民法入門	民法概論	2		○							非	土志田 佳枝	43		
人文科学系	倫理学		2		○							兼	フェリペ フェハリー	44		
	哲学	哲学概論	2	○								兼	フェリペ フェハリー	45		
	文学	文学概論	2	○								兼	永井 博	46		
	文章表現論		2	○								兼	永井 博	47		
	文化論		2		○							兼	高田 晴美 富田 与 永井 博 三田 泰雅	48		
	教育学	教育学概論	2		○							非	長谷川 誠	49		
	日本史概論	歴史学概論	2	○								兼	浅井 雅	50		
	世界史概論		2		○							兼	浅井 雅	51		
	地理学概論															
	地誌															
自然科学系	科学的思考論		2	○								非	吉山 青翔	52		
	科学思想史															
	自然科学概論															
	数学概論	数学概論	2	○								非	金岩 稔	53		
	化学概論	化学概論	2	○									牧田 直子	54		
	地学概論	地学概論	2	○								非	森 康則	55	オンデマンド	
	生物学概論	生物学概論	2		○								田中 伊知郎	56		
	生物と進化	野生動物学	2		○								野呂 達哉	57		
	環境論		2		○							非	吉山 青翔	58		
	心理学	心理学概論	2		○								田中 伊知郎	59	オンデマンド	
必修	キャリア基礎Ⅰ	キャリア基礎b	②		○							兼	三田 泰雅 他	60		
	キャリア基礎Ⅱ		②			○						非	吉山 青翔	61		
特別科目	キャリア基礎Ⅲ	キャリア基礎a(再)	2				○					兼	高田 晴美	62	オンデマンド	
	ボランティア活動a	ボランティア活動a	2	▲								兼	松本 彩月	63		
	ボランティア活動b	ボランティア活動b	2	▲								兼	松本 彩月	64		
	国際協力研修	国際協力研修	2		集							兼	岩崎 祐子	65		
	インターンシップ	インターンシップa	2			▲						兼	鬼頭 浩文 岡 良浩	66		
	他大学開放科目a	他大学開放科目a	2			▲										
	他大学開放科目b	他大学開放科目b	2			▲										
	他大学開放科目c	他大学開放科目c	2			▲										
	他大学開放科目d	他大学開放科目d	2			▲										
	他大学開放科目e	他大学開放科目e	2			▲										
公務員養成ユニット	公務のための数的推理	公務のための数的推理	2		○							兼	高田 晴美	67	オンデマンド	
	公務のための判断推理	公務のための判断推理	2	○								兼	高田 晴美	68		
	公務のための現代文		2		○							兼	高田 晴美	69	オンデマンド	
	公務のための政治学	公務のための政治学	2				○					兼	小林 慶太郎	70		
	公務のための経済学	公務のための経済学	2			○						兼	鬼頭 浩文	71	オンデマンド	
	公務のための法学	公務のための法学	2			○						兼	中西 紀夫	72		
	公務のための人文科学	公務のための人文科学	2				○					兼	浅井 雅	73		
	公務のための自然科学		2					○				兼	高田 晴美	74		
	公務のための英文理解		2						○			兼	ゴードン リース	75	オンデマンド	
	公務のための論文・面接		2							◎		兼	松本 彩月	76		
スキル科目	ビジネスマナー	ビジネスマナー	2		○							非	長野ゆき子	77		
	サービス経営論															
	販売士講座		2			○						非	山川 和美	78		
	ビジネスコミュニケーション		2			○						非	長野ゆき子	79		
	グローバルコミュニケーション		2			○						兼	富田 与	80		
	オペレーション演習															
	ビジネスマネジメント		2					○				兼	岩崎 祐子 二村 建也	81		
	マーケティング演習		2						○			兼	岩崎 祐子 岡 良浩	82		
	おもてなし特別講義a		2			○						兼	岡 良浩 川崎 綾子	83		
	おもてなし特別講義b		2				○					兼	池田 幹男 岩崎 祐子 岡 良浩	84		
英語力養成ユニット	観光英語Ⅰ		2	○								兼	ゴードン リース	85		
	観光英語Ⅱ															
	コンピュータ英語Ⅰ		2	○								非	柴田 啓文	86		
	コンピュータ英語Ⅱ		2		○							非	柴田 啓文	87		
	英語表現Ⅰ		2			○						兼	ゴードン リース	88		
	英語表現Ⅱ		2				○					兼	ゴードン リース	89		
	ビジネス英語Ⅰ		2			○							樋口 晶子	90		
	ビジネス英語Ⅱ		2				○						樋口 晶子	91		
	検定英語Ⅰ		2					○				非	武藤 和成	92		
	検定英語Ⅱ		2						○			非	武藤 和成	93		

区分	2017～2022年度以降入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次							
				前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通教育科目	メディアツールa	グラフィックツール1	2	○								非	西尾 秀樹 山本 努武	94			
					○												
	メディアツールb	グラフィックツール2	2		○							非	西尾 秀樹	95			
	メディアツールc	ビデオツール	2			○						非	田中 麻衣	96			
	メディアツールd	電子音楽ツール	2				○						柳澤 翔士	97			
	Webデザインa																
	Webデザインb	Webデザイン	2						○			非	堀内 敬弘	98			
	Webプログラミングa	Webプログラミング1	2		○									池田 幹男 片山 清和	99		
												柳澤 翔士					
	Webプログラミングb		2			○							池田 幹男	100			
	インターネット論	ITリテラシー	2			○							柳澤 翔士	101			
	基礎数学	データサイエンス I	2	○									古山 歩	102			
	統計リテラシー	データ操作ツール1	2	○									池田 幹男	103			
	確率基礎		2			○						非	金岩 稔	104			
	微分積分	データサイエンス II	2				○						古山 歩	105			
	線形代数		2			○						非	金岩 稔	106			
	データ統計処理		2					○					片山 清和	107			
	データ分析の基礎	統計学入門	2				○						田中 伊知郎	108			
	統計的分析	社会統計学	2				○						田中 伊知郎	109			
	データ解析の技法	データ解析の技法	2				○						古山 歩	110			
学部基礎科目	必修	環境情報学概論 I	環境情報学概論 I	②	○								前川 督雄	111			
		環境情報学概論 II	環境情報学概論 II	②		○							田中 伊知郎	112			
		四日市公害論	都市環境学	②				集				非	前川 督雄	113			
													森 康則	114			
	基礎演習a	基礎演習a	②				○							片山 清和	115		
														黒田 淳哉	116		
														足立 明信			
														柳澤 翔士			
															柳瀬 元志	117	
														野呂 達哉			
										廣住 豊一							
基礎演習b	基礎演習b	②					○						片山 清和	118			
													黒田 淳哉	119			
													足立 明信				
													柳澤 翔士				
											柳瀬 元志	120					
										大八木 麻希							
										野呂 達哉							
専門演習a	専門演習a	②						○					足立 明信	121			
														大八木 麻希	122		
														片山 清和	123		
														黒田 淳哉	124		
														野呂 達哉	125		
														廣住 豊一	126		
														古山 歩	127		
														前川 督雄	128		
														牧田 直子	129		
														柳瀬 元志	130		
専門演習b	専門演習b	②							○				足立 明信	131			
														大八木 麻希	132		
														片山 清和	133		
														黒田 淳哉	134		
														野呂 達哉	135		
														廣住 豊一	136		
														古山 歩	137		
														前川 督雄	138		
専門演習c	専門演習c	②									○		柳瀬 元志	139			
														足立 明信	140		
														大八木 麻希	141		
														片山 清和	142		
														黒田 淳哉	143		
														千葉 賢	144		
														野呂 達哉	145		
														廣住 豊一	146		
専門演習d	専門演習d	②										○	前川 督雄	147			
														柳瀬 元志	148		
														牧田 直子	149		
														柳瀬 元志	150		
														足立 明信	151		
														大八木 麻希	152		
														片山 清和	153		
														黒田 淳哉	154		
											千葉 賢	155					
											野呂 達哉	156					
											廣住 豊一	157					
											前川 督雄	158					
											牧田 直子	159					
											柳瀬 元志	160					

区分	2017～2022年度以降入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
自然環境分野	分野必修 環境基礎	地球環境学総論	地球環境学	2	○								廣住 豊一	161		
		生態学	生態学	2			○						大八木 麻希	162		
		環境保全学	環境保全学	2				○					野呂 達哉	163		
		環境化学	環境化学	2		○							牧田 直子	164		
	環境保全	環境化学実験														
		自然調査法	自然調査法	2				○						大八木 麻希	165	
		地域環境論	地域連携環境講義	2	○									千葉 賢	166	
		環境エネルギー論		2						集			非	森 康則	167	
		資源循環論		2							○		非	森 康則	168	オンデマンド
		地理情報システム														
		環境倫理学	環境科学	2		○								廣住 豊一	169	
		環境政策		2			○							鬼頭 浩文	170	
		環境保全とツーリズム		2				○					兼 兼 兼	浅井 雅 高田 晴美 富田 与	171	
		環境社会学	環境社会学	2				○					非	平 春来里	172	
		環境法		2						○			兼	中西 紀夫	173	
		都市環境論		2							○		兼	本部 賢一	174	オンデマンド
		海洋学	海洋環境学	2	○									千葉 賢	175	
		生物分類学		2					○					大八木 麻希	176	
		環境生態学	海洋調査法	伊勢湾海洋実習	2				集						千葉 賢 古山 歩	177
	環境実験・調査a		環境実験・調査a	2					○					大八木 麻希 廣住 豊一	178	
	陸水学		陸水環境学	2					○					大八木 麻希	179	
	森林学		森林環境学	2							○			田中 伊知郎	180	
	土壌学		土壌環境学	2						○				廣住 豊一	181	
	食糧生産学		食糧生産学	2	○									廣住 豊一	182	
	食品微生物学		環境微生物学	2					○					大八木 麻希	183	
食糧と環境	食品衛生学	生活環境学	2					○					廣住 豊一	184		
	環境実験・調査b	環境実験・調査b	2					○					大八木 麻希 廣住 豊一	185		
	農産物流論		2							○		兼	川崎 綾子	186		
	農業経営論		2								○	兼	鶴田 利恵	187		
	メディア情報と文化	メディア情報と文化	2		○								前川 督雄	188		
	脳・音・光の科学Ⅰ	音と光の科学	2				○						前川 督雄	189		
	ソフトウェア論	ソフトウェア概論	2				○						池田 幹男	190		
	メディアの歴史	メディア概観	2	○									黒田 淳哉	191		
	メディアと社会	情報と感性														
		音楽とまちづくり														
脳・音・光の科学Ⅱ		メディア表現の科学	2					○					前川 督雄	192		
グラフィックデザイン概論																
コミュニケーションデザイン論																
次世代メディア社会			2							○			前川 督雄	193		
コンピュータ音楽論			2							○			柳澤 翔士	194		
コンピュータグラフィックス			2								○	非	山本 努武	195		
ポップカルチャー論			2								○	非	山本 伸	196		
感性と創造		感性と創造	2		○								黒田 淳哉	197		
表現と思想		作品制作	2				○						柳瀬 元志	198		
映像概論		映像概論	2				○						柳瀬 元志	199		
スタジオと制作		照明概論	音響照明技術	2				集						足立 明信	200	
	音響概論	音響照明概論	2					○					黒田 淳哉 足立 明信	201	オンデマンド	
	クリエイティブワークⅠ															
	クリエイティブワークⅡ		2						○				柳瀬 元志	202		
	スタジオ技術論															
	イベント制作演習		2							○			黒田 淳哉	203		
	情報	ハードウェア論	ハードウェア概論	2		○								片山 清和	204	
		プログラミング	プログラミング実習応用1	2				○						足立 明信	205	
		コンピュータ動作論		2				○						片山 清和	206	
		システム管理論	プログラミング実習応用2	2					○					池田 幹男	207	
データベースプログラミング			2							○			足立 明信	208		
情報システム論			2							○			池田 幹男	209		
メディア情報産業論			2							○			前川 督雄	210		
特別講義	環境情報特別講義Ⅰ	海外環境研修	2		▲								青木 陽子	211		
	環境情報特別講義Ⅱ															
	環境情報特別講義Ⅲ		2				○						千葉 賢 前川 督雄	212		
分野共通科目	文化論	音楽史														
		生命－情報－環境														
		日本文化論		2					○				兼	永井 博	213	
		出版文化論		2				○					兼	富田 与	214	
		アジア文化論		2					○				兼	加納 光	215	
		欧米文化論		2				○			非	山本 伸	216			

# シラバスの見方

例

①			②			③		
授業科目名	社会学概論			科目コード	181203		授業コード	100221
担当教員	三田 泰雅	④		科目ナンバリング	GLAS1004 ⑤			
配当年次	1	⑥	開講学期	前学期	⑦	単位数	2.0	⑧ 必修/選択 選 択 ⑨
授業の位置づけ	⑩ 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。							
授業のねらい	⑪ この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。							
到達目標	⑫ 社会学的なものの見方や考え方を身につける							
授業計画	⑬							
	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 私（わたし）とは誰か 第4講 近代をスポーツから考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 社会の中のジェンダー 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市と村落 第11講 国家と国民社会 第12講 まとめ① 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 まとめ② 定期試験							
テキスト・教材（参考文献含む）	⑭ <参考文献> 倉沢進・秋元律郎・岩永雅也，2001，『新訂 社会学入門』放送大学出版協会。 石黒格編，2018，『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房。							
事前・事後学習	⑮ 新聞やニュースに目を通す（毎日20分）							
成績評価方法	⑯ <評価> 小レポート30%， 中間試験15%， 期末試験55%							
授業内の課題・提出方法	⑰ <課題> 毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。							
授業内の課題・提出方法 フィードバック方法	⑱ <フィードバック> 小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。							
アクティブ・ラーニング	⑲ ディスカッション、ミニッツペーパー							
実務経験のある教員	⑳ 民間企業勤務、研究機関勤務経験あり。地方都市の社会生活を研究対象としています。							
担当者から一言	㉑ 学生諸君の積極的な参加を期待します。							



- ① 授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
- ② 担当教員：授業科目担当者です。
- ③ 科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
- ④ 授業コード：時間割順を示すナンバーです。
- ⑤ 科目ナンバリング：別掲の科目ナンバリングを参照のこと。
- ⑥ 配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
- ⑦ 開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
- ⑧ 単位数：単位数を表記しています。
- ⑨ 必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
- ⑩ 授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（DP）と当該授業科目の関連が記載されています。
- ⑪ 授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
- ⑫ 到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
- ⑬ 授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
- ⑭ テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
- ⑮ 事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○I」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
- ⑯ 成績 評価方法：定期試験 60%、小テスト 40%のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
- ⑰ 授業内の課題・提出方法、⑱ フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ⑲ アクティブラーニング：アクティブラーニングの要素（キーワード）が書かれています。
- ⑳ 実務経験のある教員：実務経験がある担当教員が、職種や実務経験を通じどのような授業を行うか等を記載しています。
- ㉑ 担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載しています。

授業科目名	「人間たれ」	科目コード	171001	授業コード	415101
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。				
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。				
授業計画	第1講 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」 第2講 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第3講 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第4講 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第5講 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所の運営経験（齋藤） 第6講 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が全壊（北村） 第7講 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難生活（雁部） 第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講 教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講 教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講 教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講 教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講 教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す				
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成				
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	入門演習 I	科目コード	171002	授業コード	412107
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	GEF1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。				
授業のねらい	<p>大学に慣れて、大学生活を順調に送ることができるよう担当教員がサポートします。学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける上で必要なスキル</li> <li>2. 人間関係の基礎を作るスキル</li> <li>3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること</li> <li>4. 自分が所属する学部のことを知ること</li> </ol>				
到達目標	四日市大学環境情報学部の学生としての自覚を得ること。 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  第2講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する  第3講 スケジュール管理を身に着ける  第4講 授業の受け方、ノートの取り方①  第5講 授業の受け方、ノートの取り方②  第6講 (クラス独自課題) 第7講 図書館(情報センター)の使い方  第8講 リーディング基本①  第9講 リーディング基本②  第10講 リーディング応用①  第11講 リーディング応用②  第12講 レポート作成基本①  第13講 レポート作成基本②/研究倫理  第14講 プレゼンテーション基本①  第15講 プレゼンテーション基本②</p> <p>(クラス担当教員の判断で、必要に応じて講義の順番・内容を変更します)</p>				
テキスト・教材(参考文献)	「知へのステップ 第5版」(くろしお出版) (2019) 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。				
事前・事後学習	<p>新聞の第一面を読む。(1日20分)  授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)  ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)  宿題となった課題を解く。(60分)</p>				
成績評価方法	定期試験を行いません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。				
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。				
アクティブラーニング	調査・発表・議論などの演習を行います。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。				

授業科目名	入門演習Ⅱ	科目コード	171003	授業コード	412506
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	GEF1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。				
授業のねらい	<p>前期「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル</li> <li>2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル</li> <li>3. 調べ、整理した情報をレポートにまとめるスキル</li> <li>4. 資料を発表し、議論するスキル</li> </ol>				
到達目標	大学生としての学修・研究活動へと進むために必要となる基本的なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  第2講 テーマを決める  第3講 調べる①  第4講 調べる②  第5講 読む①  第6講 読む②  第7講 まとめる①  第8講 まとめる②  第9講 まとめる③  第10講 発表する①  第11講 発表する②  第12講 話し合う①  第13講 話し合う②  第14講 話し合う③  第15講 まとめ/基礎演習について  （クラス担当教員の判断で、必要に応じて、講義の順番・内容を変更します）</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>「知へのステップ 第5版」（くろしお出版）（2019）  必要に応じて資料を配布します。  ノートを必ず用意してください。</p>				
事前・事後学習	<p>新聞の第一面を読む。（1日20分）  授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分）  宿題となった課題を解く。（90分）</p>				
成績評価方法	<p>定期試験を行いません。  授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。  また、翌週までの宿題を出すこともあります。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>課題の個別指導を行います。</p>				
アクティブラーニング	<p>調査・発表・議論などの演習を行います。</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。</p>				

授業科目名	基礎英語 I	科目コード	171101	授業コード	415401
担当教員	樋口 晶子	科目ナンバリング	GEL1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	英語を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。				
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。				
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。  第1 講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2 講義 Unit 2 以下 第1 5 講義まで展開				
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。				
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。				
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。				
授業内の課題・提出方法	各担当教員の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各担当教員の指示に従ってください。				
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	高等学校までの英語学習からステップアップし、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、新しい英語学習を始めましょう。				

授業科目名	基礎英語Ⅱ	科目コード	171102	授業コード	415801
担当教員	樋口 晶子	科目ナンバリング	GEL1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	基礎英語Ⅰで修得した力を基礎として、さらに学修を深めます。英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。				
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。				
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。  第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで展開				
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。				
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。				
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。				
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従ってください。				
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	英語の言語能力（聞く・読む・話す・書く）に加え、伝える力・相手を理解する力を養ってコミュニケーション能力を高め、あらゆることに興味を持って視野を広げる気持ちで、積極的に授業に参加してください。				

授業科目名	基礎日本語 I	科目コード	171103	授業コード	413101
担当教員	加納 光	科目ナンバリング	GEL9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。				
到達目標	この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第2講 レポート作成、読解、語彙② 第3講 レポート作成、読解、語彙③ 第4講 レポート作成、読解、語彙④ 第5講 能力試験対策模擬試験①、② 第6講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺				
事前・事後学習	N1までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）				
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。				
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。				
アクティブラーニング	小レポート/小テスト				
実務経験のある教員					
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。				

授業科目名	基礎日本語Ⅱ		科目コード	171104	授業コード	413501	
担当教員	加納 光		科目ナンバリング	GEL9002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解することとまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 日本を知る 論議、発表① 語彙学習① 第2講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習② 第3講 能力試験対策模擬試験①、② 第4講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第5講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進捗および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法スピードマスター』〃 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N1 向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング	小レポート/小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						



授業科目名	英語コミュニケーション I	科目コード	171105	授業コード	411402
担当教員	青木 陽子	科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、様々な会話を聞き、多様なトピックのエッセイを読むことで、英語力を身に付けます。授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。				
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 Unit 1 What is "Black Friday"? 第2講 Unit 1 What is "Black Friday"? 第3講 Unit 2 What is a "leap year"? 第4講 Unit 2 What is a "leap year"? 第5講 Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"? 第6講 Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"? 第7講 Unit 4 Where did "mouthwash" come from? 第8講 Unit 4 Where did "mouthwash" come from? 第9講 Unit 5 What is a "Viking"? 第10講 Unit 5 What is a "Viking"? 第11講 Unit 6 Why are oranges "orange"? 第12講 Unit 6 Why are oranges "orange"? 第13講 Unit 7 Where did "Vaseline" come from? 第14講 Unit 7 Where did "Vaseline" come from? 第15講 Unit 8 Why are flamingos "pink"? 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	Arnold Arao・三原京・巳波義典・木村博是著『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 身近な不思議を英語で学ぶ<準中級>』南雲堂（2022年）定価：2200円（税込）				
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）				
成績評価方法	学習態度 20% 課題・小テスト 30% 定期試験 50% ※5回以上欠席した学生には、原則として単位を与えません。				
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。				
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題				
実務経験のある教員					
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。				

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目コード	171105	授業コード	411202
担当教員	樋口 晶子	科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	基礎レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得をめざします。相手（「読み手」「聞き手」など）があることを意識した英語の使用を実践的に学びます。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能に加え、異文化への理解も深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。				
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。				
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 1 What is Important to You? (2-1) 第2講 Unit 1 What is Important to You? (2-2) 第3講 Unit 2 My Morning Routine (2-1) 第4講 Unit 2 My Morning Routine (2-2) 第5講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-1) 第6講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-2) 第7講 Unit 4 The Best Film Ever (2-1) 第8講 Unit 4 The Best Film Ever (2-2) 第9講 Unit 5 What is a True Friend? (2-1) 第10講 Unit 5 What is a True Friend? (2-2) 第11講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-1) 第12講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-2) 第13講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-1) 第14講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-2) 第15講 Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂） 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。				
事前・事後学習	テキストの内容は必ず予習・復習してください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。 授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。				
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% （毎回、小テストを行います） 定期試験 50% コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。				
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。				
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題				
実務経験のある教員					
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーションする気持ちを自分から示してください。				

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目コード	171105	授業コード	411201
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	<p>楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事がこの講座の狙い。アクティブで英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやロールプレイやリーダーズシアターを利用して、『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造がある。</p> <p>The main goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. This is a learner-centered course, and in order to learn actively, skits, role play and reader's theater will be used. The textbook provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.</p>				
到達目標	<p>1. 英語の聴解力と話す力を高める。</p> <p>2. 英語の語彙を増やす。</p> <p>3. 人の前で英語で話す自信を身につける。</p>				
授業計画	<p>1. Guidance, Greetings and Introductions</p> <p>2. Unit 1- Where are you from? 主語と動詞の一致</p> <p>3. Unit 1- Where are you from? 主語と動詞の一致</p> <p>4. Unit 2- How are you doing? 動詞と一般動詞</p> <p>5. Unit 2- How are you doing? 動詞と一般動詞</p> <p>6. Unit 3- How many classes do you have? 数えられる名詞</p> <p>7. Unit 3- How many classes do you have? 数えられる名詞</p> <p>8. Unit 4- How much food do you need for your party? 数えられない名詞</p> <p>9. Unit 4- How much food do you need for your party? 数えられない名詞</p> <p>10. Unit 5- How many people are there in your family?</p> <p>There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い</p> <p>11. Unit 5- How many people are there in your family?</p> <p>There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い</p> <p>12. Unit 6- When is your report due? Cardinal and ordinal numbers 数</p> <p>13. Unit 6- When is your report due? Cardinal and ordinal numbers 数</p> <p>14. Final presentation- preparation</p> <p>15. プレゼンテーション- 定期試験</p>				
テキスト・教材（参考文献）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368				
事前・事後学習	<p>In addition to homework, after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts and textbook exercises covered in the previous lesson. Also, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following lesson.</p>				
成績評価方法	<p>学習態度 30%</p> <p>課題・小テスト 30%</p> <p>スピーキングテスト・スキット 20%</p> <p>プレゼンテーション-定期試験 20%</p>				
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。				
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター、ロールプレイ、スキット				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。</p> <p>1. 5回以上欠席すると単位なし。</p> <p>2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。</p> <p>3. テキストがないと欠席扱いになる。</p> <p>4. 2回遅刻すると1回の欠席になる。</p>				

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目コード	171106	授業コード	411802
担当教員	青木 陽子	科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、様々な会話を聞き、多様なトピックのエッセイを読むことで、英語力を身に付けます。授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。				
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 Unit 8 Why are flamingos "pink"? 第2講 Unit 9 What is a movie "trailer"? 第3講 Unit 9 What is a movie "trailer"? 第4講 Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? 第5講 Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? 第6講 Unit 11 Why is a billiard table "green"? 第7講 Unit 11 Why is a billiard table "green"? 第8講 Unit 12 Why is film called "footage"? 第9講 Unit 12 Why is film called "footage"? 第10講 Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? 第11講 Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? 第12講 Unit 14 Why are social media apps "blue"? 第13講 Unit 14 Why are social media apps "blue"? 第14講 Unit 15 Where did "makeup" come from? 第15講 Unit 15 Where did "makeup" come from? 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	Arnold Arao・三原京・巳波義典・木村博是著『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 身近な不思議を英語で学ぶ<準中級>』南雲堂（2022年）定価：2200円（税込）				
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）				
成績評価方法	学習態度 20% 課題・小テスト 30% 定期試験 50% ※5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。				
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。				
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題				
実務経験のある教員					
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。				

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目コード	171106	授業コード	411602
担当教員	樋口 晶子	科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	「英語コミュニケーションⅠ」で修得した英語によるコミュニケーション能力をさらに磨きます。相手があることを意識した実践的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）に加え、異文化理解を深めることを重視します。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、学生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。意欲のある学生には、英語資格試験（TOEIC、英検等）への挑戦を期待します。				
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。 5. 本授業を受講後に、英語資格試験（TOEIC、英検等）の受験をめざす。				
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 第2講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-1) 第3講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-2) 第4講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-1) 第5講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-2) 第6講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-1) 第7講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-2) 第8講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-1) 第9講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-2) 第10講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-1) 第11講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-2) 第12講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-1) 第13講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-2) 第14講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-1) 第15講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-2) 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂）【「英語コミュニケーションⅠ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。				
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。				
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% （毎回、小テストを行います） 定期試験 50% コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。				
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。				
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題				
実務経験のある教員					
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生参加型の授業です。下手でもいいので、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。				

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目コード	171106	授業コード	411601								
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GEL1004										
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0								
				必修/選択	選 択								
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。												
授業のねらい	<p>楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事はこの講座の狙い。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやロールプレイやリーダーズシアターを利用して『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造がある。</p> <p>The main goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. This is a learner-centered course, and in order to learn actively, skits, role play and reader's theater will be used. The textbook provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.</p>												
到達目標	<p>1. 英語の聴解力と話す力を高める。  2. 英語の語彙を増やす。  3. 人の前で英語で話す自信を身につける。</p>												
授業計画	<p>1. Guidance/Talking about the past/ "How was your vacation?"  2. Unit 7- How was your weekend?  Past Tense 過去形  3. Unit 7- How was your weekend?  Past Tense 過去形  4. Unit 8- What time is your first class?  Time 時間の表現  5. Unit 8- What time is your first class?  Time 時間の表現  6. Unit 9- Have you ever been to Kyoto?  Present Perfect 現在完了形  7. Unit 9- Have you ever been to Kyoto?  Present Perfect 現在完了形  8. Unit 10- Can I ask you a favor?  Auxiliary Verbs 助動詞  9. Unit 10- Can I ask you a favor?  Auxiliary Verbs 助動詞  10. Unit 11- I'm going to visit my grandparents.  Future Tense 未来形  11. Unit 11- I'm going to visit my grandparents.  Future Tense 未来形  12. Unit 12- I'm on the train  Prepositions 前置詞  13. Unit 12- I'm on the train  Prepositions 前置詞  14. Final presentation- preparation  15. プレゼンテーション- 定期試験</p>												
テキスト・教材（参考文献）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368												
事前・事後学習	In addition to homework, after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead preparing for the following class.												
成績評価方法	<table border="0"> <tr> <td>学習態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>スピーキング・テスト(2)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション-定期試験</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。</p>					学習態度	30%	課題・小テスト	30%	スピーキング・テスト(2)	20%	プレゼンテーション-定期試験	20%
学習態度	30%												
課題・小テスト	30%												
スピーキング・テスト(2)	20%												
プレゼンテーション-定期試験	20%												
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。												
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。												
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター、ロールプレイ、スキット												
実務経験のある教員													
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席すると単位なし。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになります。 4. 2回遅刻すると一回の欠席になる。												

授業科目名	中国語 I	科目コード	171107	授業コード	411203
担当教員	加納 光	科目ナンバリング	GEL1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。				
到達目標	この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やししながら、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要、中国語概要 1 第2講 中国語概要 2、中国概況 1 第3講 声調（4）と単母音（7）の発音、概況 2 第4講 複合母音（13）の発音、概況 3 第5講 鼻母音（16）の発音、概況 4 第6講 子音（21）の発音、概況 5 第7講 発音、表記上の規則、概況 6 第8講 発音のまとめ、小テスト、概況 7 第9講 どうぞよろしく（point 1～4）、概況 8 第10講 お名前は（point 1～4）、概況 9 第11講 ご出身は（point 1～4）、概況 10 第12講 飲み物は（point 1～4）、概況 11 第13講 おいくつ（point 1～4）、概況 12 第14講 和食はいかが（point 1～4）、概況 13 第15講 復習、概況 14 定期試験 注 授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。				
テキスト・教材（参考文献）	1) 教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点（エッセンシャル版）』（朝日出版社）2, 400円+税 2) 参考書：『WHY? に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂） 3) 辞書：『簡約現代中国語辞典』（光生館）				
事前・事後学習	毎回与えられる復習（90分）、予習（90分）のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。				
成績評価方法	①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題（評価した後返却します）20%により総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業内の課題など提出方法はMoodleか、あるいは次回の授業時に直接手渡しのいずれかの方法により提出していただきます。どちらの方法にするかは、授業の際に、そのつど指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	平常授業中に行われる書き取りテストは採点后返却し、フィードバックします。課題などの提出物も状況に応じて返却しフィードバックする予定です。				
アクティブラーニング	小テスト/小レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。				

授業科目名	中国語Ⅱ	科目コード	171108	授業コード	411603
担当教員	加納 光	科目ナンバリング	GEL1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この授業は中国語Ⅰを継続するものです。中国語Ⅰと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。 コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。				
到達目標	中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。				
授業計画	「中国語Ⅰ」からの継続 第1講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（1） 第2講：家庭訪問（2）、買い物（1） 第3講：買い物（2）、道案内（1） 第4講：道案内（2）、中秋節（1） 第5講：中秋節（2）、食事の前は（1） 第6講：食事の前は（2）、第1～5講の復習（1） 第7講：第1～5講の復習（2） 第8講：手作り料理（1） 第9講：手作り料理（2）、カニの季節（1） 第10講：カニの季節（2）、スキー場で（1） 第11講：スキー場で（2）、おみやげ（1） 第12講：おみやげ（2）、空港まで（1） 第13講：空港まで（2）、第6～12講の復習（1） 第14講：第6～12講の復習（2） 第15講：総復習とまとめ 定期試験 注 授業内容、進度はクラスの状態に応じて、変更する場合があります。 毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。				
テキスト・教材（参考文献）	1) 教材：『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂 他 2) 副教材：『中国語の文法書』（同学社） 3) 辞書：『中国語辞典』（光生館） 4) 参考書：『中国語はじめての一步』（ちくま新書）				
事前・事後学習	授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分+復習90分）。 加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。				
成績評価方法	学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題（採点后返却します）20%をもとにして、総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業内の課題や宿題は、Moodleないしは次回の授業の際に直接手渡し、いずれかの方法により提出していただきます。いずれの方法かは、授業時にその都度指示をします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題、宿題などの提出物は採点后返却しフィードバックします。				
アクティブラーニング	小レポート/小テスト				
実務経験のある教員					
担当者から一言	予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。				



授業科目名	ポルトガル語 I		科目コード	171109	授業コード	411403	
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GEL1007			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したため、日伯関係（日本-ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 アルファベットと発音 第3講 挨拶と自己紹介 第4講 名詞の性と数 第5講 冠詞と数字 第6講 ser動詞（1） 第7講 ser動詞（2） 第8講 所有表現（1） 第9講 所有表現（2） 第10講 所有表現（3） 第11講 gostar動詞 第12講 規則動詞（1） 第13講 規則動詞（2） 第14講 規則動詞（3） 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0点になります。						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
アクティブラーニング	教科書/参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ		科目コード	171110	授業コード	411803	
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GEL1008			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本-ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第1講 前期の総合復習 第2講 前置詞 第3講 不規則動詞：ir 第4講 不規則動詞：terとfazer 第5講 不規則動詞：poder 第6講 不規則動詞：querer 第7講 estar動詞 第8講 ser動詞とestar動詞の違い 第9講 現在分詞と現在進行形 第10講 規則動詞の過去形（1） 第11講 規則動詞の過去形（2） 第12講 規則動詞の過去形（3） 第13講 様々な表現（1） 第14講 様々な表現（2） 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0点になります。						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
アクティブラーニング	教科書/参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	日本語中級 I	科目コード	171113	授業コード	415302
担当教員	安田 由紀子	科目ナンバリング	GEL9003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。				
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことをはかり知る能力を身につけることを目標とする。				
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 文章読解④ 語彙学習④ 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 * 授業の進度および内容はクラスの状態により、若干変更する場合があります。日本語能力試験 のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習していきます。				
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 語彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。				
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておきましょう（90分）。				
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期末試験50%。				
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。				

授業科目名	日本語中級Ⅱ		科目コード	171114	授業コード	415702	
担当教員	安田 由紀子		科目ナンバリング	GEL9004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことを活字からはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 文章読解④ 語彙学習④ 第11講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 * 授業の進度および内容はクラスの状態により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。						
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておきましょう（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語上級 I	科目コード	171115	授業コード	413203
担当教員	安田 由紀子	科目ナンバリング	GEL9005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。				
到達目標	この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。 （*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる）				
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 文章読解④ 語彙学習④ 第11講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 * 授業の進度および内容はクラスの状態により、若干変更する場合があります。日本語能力試験 のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。				
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著、その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。				
事前・事後学習	授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。				
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期末試験50%。				
授業内の課題・提出方法	授業での課題はMoodle、あるいは授業の際直接手渡しで返却する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業での小テスト、課題は採点后返却します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。				

授業科目名	日本語上級Ⅱ	科目コード	171116	授業コード	413603
担当教員	安田 由紀子	科目ナンバリング	GEL9006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとにより高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。				
到達目標	この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。 （*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる）				
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 文章読解④ 語彙学習④ 第11講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 * 授業の進度および内容はクラス状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験 のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。				
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）読彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。				
事前・事後学習	授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に 内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと（90分）。				
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期 末試験50%。				
授業内の課題・提出方法	授業での課題はMoodle、あるいは授業内に直接手渡しで提出していただきます。どの方法によるのかは、その都度指示をします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の課題は採点后返却します。 また、フィードバックについては、その都度授業中におこないます。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。				

授業科目名	コンピュータリテラシー		科目コード	171201	授業コード	414102	
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	GEI1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	4.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。						
授業のねらい	現代は情報化社会であり、ネットの利用が前提となっています。このようなネット社会で情報発信を安全に行い、情報受信を行い、情報を適切に活用するために留意しなければならない事があります。この講義では事例を通してどのような事に注意する必要があるかを学びます。またこの講義では情報発信の基盤として、Wordを用いて文章を作成したり、PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成したりすることができるための実習も行います。						
到達目標	①ネット社会で情報を安全に利活用する上での決まりを理解する ②Wordを用いて文章を作成できる ③PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成できる						
授業計画	<p>(前学期)</p> <p>第1講 ガイダンスとクラス分け、タッチタイピング入門、情報モラルチェックと情報セキュリティチェック</p> <p>第2講 メールによるコミュニケーション</p> <p>第3講 Word起動と終了、文字の入力</p> <p>第4講 文書の入力と編集と保存</p> <p>第5講 表の挿入と編集</p> <p>第6講 アイコン、3Dモデルの挿入</p> <p>第7講 画像・テキストボックスの挿入</p> <p>第8講 ワードアートとスクリーンショット</p> <p>第9講 情報モラルと情報セキュリティ</p> <p>第10講 個人情報の適切な取り扱い、デジタル時代の著作権</p> <p>第11講 ネット社会に潜む危険と対策</p> <p>第12講 Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用と管理</p> <p>第13講 PowerPoint起動と終了、プレゼンテーションの作成</p> <p>第14講 PowerPointオブジェクトの挿入とスライショー</p> <p>第15講 タイピングテスト</p> <p>(後学期)</p> <p>第1講 ガイダンス、Word (1)</p> <p>第2講 Word (2)</p> <p>第3講 Word (3)</p> <p>第4講 Word (4)</p> <p>第5講 Excel (1)</p> <p>第6講 Excel (2)</p> <p>第7講 Excel (3)</p> <p>第8講 Excel (4)</p> <p>第9講 Excel (5)</p> <p>第10講 Excel (6)</p> <p>第11講 PowerPoint (1)</p> <p>第12講 PowerPoint (2)</p> <p>第13講 PowerPoint (3)</p> <p>第14講 総合演習問題 (1)</p> <p>第15講 総合演習問題 (2)</p>						
テキスト・教材(参考文献)	<テキスト>「情報リテラシー」(Windows11、Office2021対応)FOM出版 2200円(税込) 「30時間でマスター Word&Excel2021」実教出版 1100円(税込)						
事前・事後学習	<事前学習>第2講、第9講～第12講の前では授業で予定している部分のテキストを読んで問題を解いたり、理由などを調べたりする。第3講～第8講、第13講～第14講の前ではテキストや配付資料を読んで実習内容を理解する。(30分) <事後学習>課題を完成させる。(150分)						
成績評価方法	提出物(70%)とタイピングテスト(30%)の合計で評価します。定期試験は行いません。						
授業内の課題・提出方法	<課題>作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック>Moodleを通して個別にコメントします。						
アクティブラーニング	課題・宿題、ディスカッション、実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。						

授業科目名	情報倫理	科目コード	171202	授業コード	411606
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GEI1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成され、またデジタル技術の進展により、高品位の著作物を皆で共有し楽しめるようになりました。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしていますが、情報の非対称性の問題が生じ、ネットに詳しくない人が被害を受けるようになっていきます。この状況での守り方を身につけてもらいます。				
到達目標	自己に関する情報の使用は自分自身が決めるプライバシーの原則をどのように守るかの理解と、創造物(著作物)は対価を払い、有料で使用することが、創造の発展につながるこの実践を理解してもらいます。				
授業計画	第1講 ガイダンス：IT環境での守り方) 第2講 ネット産業の繁栄その裏側 第3講 不正を働く者の実態 第4講 ウィルスなど不正を働く者への対抗 第5講 通信販売と個人認証：特に、生体認証 第6講 暗号の限界：通信販売の利用の目安 第7講 現代の情報の性質 第8講 プライバシーの原則 第9講 購買履歴分析 第10講 ターゲット広告の拒絶 第11講 創造物の有料利用：著作権 第12講 創造物の二次使用：著作権の保護 第13講 恣意的情報への対処：なぜ広告はすたれたのか 第14講 メディアリテラシー 第15講 まとめ 定期試験 持ち込み不可				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	日常生活におけるネットの使用について、授業内容を振り返り、ネット社会の危険から自分たちの身を守るすべを実習してもらいます。				
実務経験のある教員	京都大学霊長類研究所の研究員(生態・心理分野)の時、自然環境における親から子への情報伝達の研究に従事しました。				
担当者から一言	情報の非対称性から、ネットに詳しい人は、簡単にいろいろな情報を手にできますが、それは他の人のプライバシーを侵す危険があります。そのことをしっかり意識してもらいます。				



授業科目名	情報科学	科目コード	171203	授業コード	413201
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	GEI1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。				
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。				
授業計画	第1講 ガイダンス 人間はどうやって情報を伝えているか 第2講 情報メディア 第3講 身の回りの情報機器 第4講 コンピュータシステム 第5講 文字符号化 第6講 アナログからデジタルへ 第7講 マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講 インターネット 第9講 WWW 第10講 SNS 第11講 ビッグデータと人工知能 第12講 生体認証 第13講 暗号化とセキュリティ 第14講 デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講 情報処理の将来 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。				
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。				
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題と小テスト30%、定期テスト40%で評価します。				
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。				
アクティブラーニング	Moodle でのディスカッション、ミニレポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。				

授業科目名	情報と職業	科目コード	171204	授業コード	413804
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志	科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を志向した学修を通じて地域に貢献する人材になる。</li> <li>・地域の持続発展のために貢献できる。</li> </ul>				
授業のねらい	メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信をおこなっている方々からの声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。</li> <li>・学びを地域に関連した研究活動や、作品制作活動、将来のビジョンに繋げる。</li> </ul>				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 ラジオ 第3講 グラフィックデザイン 第4講 舞台 第5講 TVディレクター 第6講 ケーブルテレビ 第7講 カメラマン 第8講 広告 第9講 イベントホール 第10講 新聞 第11講 シティプロモーション 第12講 情報と職業 1 第13講 情報と職業 2 第14講 情報と職業 3 第15講 まとめ ※講義順は変更の可能性があります。				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	予習 次週の講義に関してインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料を見返し理解を深めること（90分）。				
成績評価方法	定期試験を行いません。受講態度と各回の講義で提出するレポートで評価し、合算します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。				
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツツペーパーやレポートを提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ミニツツペーパー、レポート、ディスカッション				
実務経験のある教員	20年以上メディア業界で経験を積んだ専門家が、この講義の司会進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。				
担当者から一言	必要な作業以外でのスマートフォンの使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。				

授業科目名	アプリケーション演習Ⅱ		科目コード	171206	授業コード	414501	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GEI1006			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	Wordと使いこなす技術は、現代においては重要なスキルです。Word2019を使いこなす技術と知識の習得を目指す。						
到達目標	MOS word 365&2019エキスパート合格レベルの知識技術を習得する事を目指す						
授業計画	1. ガイダンス・基礎知識 2. 文書のオプションと設定の管理1 3. 文書のオプションと設定の管理2 4. 文書のオプションと設定の管理3 5. 編集機能・書式設定機能1 6. 編集機能・書式設定機能2 7. 編集機能・書式設定機能3 8. ドキュメント要素の作成1 9. ドキュメント要素の作成2 10. ドキュメント要素の作成3 11. 高度なWord機能の利用1 12. 高度なWord機能の利用2 13. MOS word 365&2019模擬試験問題1 14. MOS word 365&2019模擬試験問題2 15. MOS word 365&2019模擬試験問題3 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	佐藤 薫 著 「MOS攻略問題集Word 365&2019エキスパート」 日経BP ￥3300						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
アクティブラーニング	Word実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	Wordを使った文書作成において必要となる知識・技術について共に学び、MOS word365 &2019エキスパート合格レベルを目指しましょう。						

授業科目名	四日市学	科目コード	171301	授業コード	415201
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	<p>この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境などを理解し多面的に四日市について考える機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。</p> <p>これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただ</p>				
到達目標	<p>講義は10回にわたる様々なテーマの座学と2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「四日市」を多面的に理解すること</li> <li>2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること</li> <li>3. 地域の課題を発見して考察を行うこと</li> <li>4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること</li> </ol>				
授業計画	<p>第1講(4/05) ガイダンス+フィールドワークの説明 (岡・鬼頭)</p> <p>第2講(4/12) 「四日市公害に向き合う」 (鬼頭 [司会] ; 四日市公害と環境未来館)</p> <p>第3講(4/19) 「四日市の産業」 (岡 [司会] ; 四日市市商工農水部)</p> <p>第4講(4/26) 「四日市の文学者たち」 (永井 [司会・講義] )</p> <p>第5講(5/10) 「四日市の歴史」 (永井 [司会] ; 四日市市博物館学芸員)</p> <p>第6講(5/17) 「四日市の多文化共生」 (青木 [司会] ; 四日市市多文化共生推進室)</p> <p>第7講(5/24) 「四日市の食」 (小林 [司会・講義] ; とんてき協会関連)</p> <p>第8講(5/31) 「四日市の都市計画」 (倉田 [司会] ; 四日市市都市整備部)</p> <p>第9講(6/07) 「四日市の文化財」 (鬼頭 [司会] ; 四日市市文化課)</p> <p>第10講(6/14) 「四日市市のシティプロモーション」 (岡 [司会] ; 四日市市シティプロモーション部)</p> <p>* 講師都合によっては、内容が変更になることがあります。</p> <p>(フィールドワーク)</p> <p>第11～12講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 講義期間中に、博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。</p> <p>第13～15講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 講義期間中に、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。</p>				
テキスト・教材 (参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。				
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報を見る準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。				
成績評価方法	成績評価は、1～10週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度 (50%)、2回のフィールドワークに関するレポート (30%)、学期末試験 (20%) で総合評価します。				
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出 (Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	地域社会の歴史		科目コード	171302	授業コード	412203	
担当教員	浅井 雅		科目ナンバリング	GEC1002			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	地域社会の歴史・文化を知ること、政治だけでなく人々の営みを理解し、自分たちも未知なる社会に立ち向かう態度を先人たちの経験を追体験することにより養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会の歴史・文化に関する知識を身につける。</li> <li>2. 知識を活用し、発信できる力を身につける。</li> <li>3. 地域社会から日本や世界の課題を探り、検討する姿勢を身につける。</li> </ol>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 時代区分等歴史の基礎知識 第3回 考古 第4回 古代 (1) 第5回 古代 (2) 第6回 中世 (1) 第7回 中世 (2) 第8回 中世 (3) 第9回 近世 (1) 第10回 近世 (2) 第11回 近世 (3) 第12回 近世 (4) 第13回 近代 (1) 第14回 近代 (2) 第15回 現代 期末レポート						
テキスト・教材 (参考文献)	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示する。						
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。(60分) 事後学習については、毎回の講義に関して不明点を残さないように調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。(60分)						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート(コメントペーパー) = 30% 期末レポート = 70%  なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。(病欠・公欠等は別途相談のこと)						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。  期末レポートはMoodie内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート(コメントペーパー)はすべて目を通し、全体で共有すべきフィードバック方法ことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為(スマホ・イヤホンなどを含む)をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	市民教育	科目コード	171303	授業コード	415304
担当教員	フェリペ フェハリー	科目ナンバリング	GEC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	マイケル・サンデルによると、「公共哲学」の目的が日常生活にある政治的及び法的問題や矛盾を見出し、道徳哲学の立場から現代社会を分析することです。本講義の目的は、「哲学」の公共性の歴史の学びながら、倫理的な生活への道具としての「哲学」を考えることです。				
到達目標	哲学の立場から、現代社会の問題を議論すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス・「公共哲学」とは何か 第2講 マイケル・サンデルにおける「公共哲学」 第3講 日常生活の哲学 第4講 道徳と倫理 第5講 エートス 第6講 「力」と「責任」 第7講 「民主主義」と「権威主義と」 第8講 ファシズムの脅威 第9講 『ウェイブ』（Die Welle） 第10講 「悪の平庸さ」 第11講 マイノリティー 第12講 動物の権利 第13講 人工知能のチャレンジ 第14講 これからの哲学の問題 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。				
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。				
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%				
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。				
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	真剣に哲学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず哲学的に生活していると思いませんか？一緒に現代社会における哲学の価値と「公共哲学」の意味を探しましょう。				

授業科目名	人権論	科目コード	171304	授業コード	415501
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。				
授業計画	<p>第1講（9/27） ガイダンス 「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林）</p> <p>第2講（10/4） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（岩崎）</p> <p>第3講（10/11） ダイバーシティと「人間たれ」（小林）</p> <p>第4講（10/18） 日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省 津財務事務所）</p> <p>第5講（10/25） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（小林）</p> <p>第6講（11/1） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員））</p> <p>第7講（11/8） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（三田）</p> <p>第8講（11/15） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（浅井）</p> <p>第9講（11/22） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（倉田）</p> <p>第10講（11/29） 世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林）</p> <p>第11講（12/6） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ラマ・カンチャさん）</p> <p>第12講（12/13） 外国で働くということ（オイスカ）</p> <p>第13講（12/20） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑥（永井）</p> <p>第14講（1/10） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑦（フェハリー）</p> <p>第15講（1/17） 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について（小林）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。				
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。				
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	171305	授業コード	415306	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	GEC1005			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。授						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						



授業科目名	地域防災	科目コード	171306	授業コード	415305
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)				
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。				
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド</p> <p>1 4/5 ガイダンス(対面)/補講1；近年の災害 2 4/12 第1講；地震・津波/第2講；気象災害・風水害/第9講；行政の災害対策 3 4/19 第7講；ハザードマップ/補講2；耐震補強/第20講；災ボラ/第17講；自主防 4 4/26 第11講；復旧・復興/第12講；災害医療/第18講；避難所 5 5/11 午前；防災士養成講座(会場研修)① 6 5/11 午後；普通救命講習(場所：体育館) 7 5/12 午前；防災士養成講座(会場研修)② 8 5/12 午後；防災士養成講座(会場研修)③ 9 5/18 午前；防災士養成講座(会場研修)④ 10 5/18 午後；防災士養成講座(会場研修)⑤ 11 5/24 第3講；土砂災/第4講；火山/第5講；火災 12 5/31 第6講；予報・警報/第8講；災害情報/第10講；行政 13 6/7 第13講；ライフライン/第14講；事業継続/第15講；地震への備え 14 6/14 第16講；風水害への備え/補講3；損保 15 6/21 第19講；多様性/第21講；防災士/補講4；訓練 学期末試験：6/28 ★8月3日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。				
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。				
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。				
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。				
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。				
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。				
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。				

授業科目名	地域連携特別講義 a		科目コード	171307	授業コード	416504	
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GEC1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	<p>10月上旬 「ガイダンス」 13:00-14:00 現状把握と課題解決の考え方 14:10-15:10 ご当地グルメを活用した町おこし 15:20-17:00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13:00-15:30 展示見学・講義 15:40-17:00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10:00-12:00 施設見学・体験 12:00-13:00 昼食・移動 13:00-14:00 農を活かした観光開発 14:10-16:10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10:00-16:10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13:00-17:00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13:00-16:00 成果発表会 16:00-17:00 講評・まとめ</p> <p>※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですが、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	経営学		科目コード	171401	授業コード	413701	
担当教員	川崎 綾子		科目ナンバリング	GLAS1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本講義では、経営学の諸理論を理解し身につけることで、受講生の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する。経済社会や企業に潜む問題を自ら発見し、解決する能力の育成を目指す。						
到達目標	経営の理論的な用語を駆使し、企業社会の問題解決に自ら分析的に取り組むことができる。 文献などの資料から必要な証拠を収集し、説得性の高い論理的なレポートの作成能力をもつ。						
授業計画	第1講 ガイダンス/単位取得に関する注意事項 第2講 経営の目的(1)/顧客価値の提供 第3講 経営の目的(2)/価値提供のための組織づくり 第4講 組織と不確実性 第5講 人のマネジメント(1) 第6講 人のマネジメント(2) 第7講 組織デザインと分業(1)/外部業者の活用 第8講 組織デザインと分業(2)/アウトソーシングと製品のモジュラー化 第9講 組織デザインと統合 第10講 様々な取引形態 /取引コストと信頼 第11講 資源依存理論 第12講 提携の様々な形 /製作委員会とプロデューサー 第13講 商品開発 第14講 モノづくり産業における製品開発 第15講 流通のしくみ						
テキスト・教材(参考文献)	教科書は指定しない。資料を配布する。						
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、理論的用語の予習や復習、 マネジャーの立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい(毎週3時間程度)。						
成績評価方法	中間レポート 50% 最終レポート(レポート試験) 50%						
授業内の課題・提出方法	① 毎回の出席確認の質問への解答は、講義中にmoodleから提出すること。 ② 中間レポートと最終レポートも、moodleから提出してもらう予定。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義中にコメントする。 優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても、優秀な解答は講義中に紹介する場合がある。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが、1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります。  ※2回以上、私語の注意を受けた人には原則、単位を認めません。 また許可された時間以外にスマホを使用した場合、 2回目の注意を受けた時点でその日は原則、欠席扱いとなります						

授業科目名	経済学	科目コード	171402	授業コード	412801
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GLAS1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的考え方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならなくなる。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。				
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に付けることが到達目標である。				
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：金融制度の表側と裏側を知る 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：日本経済における「働き方」の変化 9：文化・スポーツなどの経済活動 10：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 11：企業経営の事例から経済を学ぶ① 12：企業経営の事例から経済を学ぶ② 13：インバウンド・外国人と日本経済 14：経済のいまを映像で知る 15：復習とレポート試験の説明				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。				
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。				
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートを取り、写真に撮影してMoodleに提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。				

授業科目名	政治学	科目コード	171403	授業コード	412201
担当教員	吉川 和狭	科目ナンバリング	GLAS1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	<p>「政治」と聞くと難しそうだと感じる人も多いでしょう。しかし、私たちは不可避に政治に出会うこととなります。それは「政治」が、独りでは生きていけない私たちのあいだのルールを決める営みだからです。本講義ではこのような集意的意思決定としての政治について学習します。</p> <p>本講義前半（4～10回）では政治制度や政治に参加する集団の行動原理について「利益」の観点から分析し、政治学の基礎的知識を身に着けます。</p> <p>本講義後半（11～14回）では「利益」の観点から離れた別の視点から政治の世界を眺め、単なる利益闘争には還元できない政</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する</li> <li>・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる</li> </ul>				
授業計画	<p>01.ガイダンス/政治とは何か？</p> <p>02.政治のとらえ方</p> <p>03.分配的正義</p> <p>04.国家という枠組み</p> <p>05.政治体制</p> <p>06.選挙と多数決</p> <p>07.政党と政党システム</p> <p>08.政権とアカウンタビリティ</p> <p>09.政策過程と官僚制・利益団体</p> <p>10.安全保障と平和</p> <p>11.民主主義とは何か？</p> <p>12.「投票」だけが民主主義か？</p> <p>13.「私」のことも政治か？</p> <p>14.「市民である」とはどういうことか？</p> <p>15.まとめ：政治学概論</p> <p>定期試験</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂川庸介、稗田健志、多湖淳（2020『政治学の第一歩 [新版]』）有斐閣</li> <li>・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望（2017）『ここから始める政治理』）有斐閣</li> </ul>				
事前・事後学習	<p>事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分）</p> <p>事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分）</p> <p>事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）</p>				
成績評価方法	<p>成績は以下の配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45%</li> <li>・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%</li> </ul>				
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。				
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通じた自主的な質問と、フィードバックを行う				
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり				
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。また、2/3以上の出席が認められない学生については原則として単位を認めません。				

授業科目名	社会学	科目コード	171404	授業コード	411301
担当教員	三田 泰雅	科目ナンバリング	GLAS1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる存在でもあります。私たちはどのように社会を作り、そして社会に作られているのか。この両面から社会の仕組みを考えてゆく授業です。				
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を理解する				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族を考える 第7講 ジェンダーとは 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生				
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.				
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す				
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とリアクションペーパーの内容で評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内でリアクションペーパーを作成し提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回の課題は翌週以降の授業内で適宜まとめてコメントします。				
アクティブラーニング	リアクションペーパー				
実務経験のある教員					
担当者から一言	学生諸君の積極的な参加を期待します。				

授業科目名	ジェンダー論		科目コード	171405	授業コード	412702	
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GLAS1005			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決するものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識して、自分でも気づけるようになってもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は2名の教員（高田・三田）で実施します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。</li> <li>2 社会の中にあるジェンダーに気づき、問題として意識することができる。</li> <li>3 性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。</li> </ol>						
授業計画	第1講 ガイダンス、ジェンダーバイアス（高田） 第2講 ネーミング問題（高田） 第3講 〈女らしさ〉の罨—女はつらいよ（高田） 第4講 ハッピーエンドとプリンセス—ポストフォーディズムとジェンダー（三田） 第5講 家制度と選択的夫婦別姓問題（高田） 第6講 おばあさんは川へ洗濯に？—近代社会の性別役割分業（三田） 第7講 不払い労働、見えない家事問題（高田） 第8講 メディアにおけるジェンダー表現①—フィクション編（高田） 第9講 メディアにおけるジェンダー表現②—CM・広告編（高田） 第10講 〈男らしさ〉の罨—男もつらいよ—男性学の視点（三田） 第11講 続く〈男らしさ〉の罨—男性性とホモソーシャルな関係（三田） 第12講 それでも僕であるために—弱者男性論（三田） 第13講 身体にまつわる問題（高田） 第14講 ジェンダーに関わるハラスメント（高田） 第15講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉（高田） 講義の順番は入れ替わる可能性があります。また、ジェンダーにまつわるニュースがあった場合は、内容が変わる可能性もあります。						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からニュースなどに目を通しておく。（毎日20分程度） （授業後）学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面に、授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。（40分）						
成績評価方法	毎回の小レポート 50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート（コメント）については、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。						
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「女性学」「男性学」の視点を持った2人の教員が、それぞれの専門や持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。						

授業科目名	メディアリテラシー		科目コード	171406	授業コード	411406	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	GLAS1006			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力を言う。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもある。 社会のなかでのメディアの有り様は、変革を続けている。今のメディア状況の概要を知るとともに、生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前と思うことが互いに異なることに気づくこと、そして、メディアの向こうにある存在との付き合い方を考えることを手助けする授業となる。						
到達目標	現代社会に展開されている多様なメディアの特徴と危険性を知るとともに、自身が一個人として、社会人として責任あるメディア行動をとる見識を得る。						
授業計画	第1講 ガイダンス/メディアとは/メディアリテラシーとは 第2講 デジタルネイティブ 第3講 Society5.0/DX 第4講 国家・ネット企業が握る個人情報 第5講 メタバース 第6講 XR・VR・AR・MR 第7講 AIとの付き合い方 第8講 メディアエコロジー 第9講 スマホ依存 第10講 SNSでのふるまい 第11講 フェイクニュース 第12講 インターネットとマスメディア 第13講 メディアの身体性 第14講 コミュニケーションの実質 第15講 まとめ (内容・順序を変更することがあります)						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（90分）。毎回の授業を受けて自分のメディア行動を振り返り、考えを深めて下さい（90分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言							



授業科目名	社会福祉概論		科目コード	171407	授業コード	411604	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GLAS1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11版』ミネルヴァ書房（2019年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、グループワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	日本国憲法	科目コード	171408	授業コード	412401
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	GLAS1008		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。				
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 憲法の機能 第3講 天皇と国民の関係 第4講 国民の三大義務 第5講 基本的人権とその種類 第6講 環境権（判例的考察） 第7講 憲法上の権利と義務 第8講 法の下での平等 第9講 絶対平和主義 第10講 国家機密と国民の知る権利 第11講 平等な投票にするための権利義務 第12講 行政救済 第13講 国際私法 第14講 憲法改正問題 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）				
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくといよいでしょう。				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。				
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。				
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で「憲法」を中心に法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	法学	科目コード	171409	授業コード	415602
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	GLAS1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	法学の発達の歴史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。				
到達目標	社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思っておりますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 六法の意味、社会規範 第3講 実定法と自然法、法源 第4講 制定法の体系、法の形式による分類 第5講 法の種別（国内法）、国内法と国際法 第6講 公法と私法、裁判による権利の実現 第7講 法の適用、法解釈における問題点 第8講 権利と義務、権利義務の主体と客体 第9講 罪刑法定主義 第10講 法と裁判（裁判の仕組み） 第11講 民事裁判、刑事裁判、行政裁判 第12講 司法権の独立と公開主義 第13講 自由心証主義、今日までの裁判の課題 第14講 裁判員制度とその課題 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）				
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくといよいでしょう。				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。				
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。				
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	民法入門	科目コード	171410	授業コード	413801
担当教員	土志田 佳枝	科目ナンバリング	GLAS1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくても、テレビを持っていないとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。				
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思えます。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。				
授業計画	1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約①債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約②未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）				
テキスト・教材（参考文献）	参考文献： 内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634 参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学が民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す <a href="https://ci.nii.ac.jp/books/">https://ci.nii.ac.jp/books/</a> ）。				
事前・事後学習	予習には参考書などで授業に関する範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。				
成績評価方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。				
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定です。				

授業科目名	倫理学	科目コード	171501	授業コード	413803
担当教員	フェリペ フェハリー	科目ナンバリング	GLAH1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	アリストテレスは『政治学』において、「人間は社会的な動物である」と述べました。それは人間が共存し、他の動物には見られない協力することができるという意味です。本講義の目的が社会学の根本的な問題を学び、現代社会の問題を分析することです。				
到達目標	主な社会思想か、の思想を学びながら、現代社会の特色を多面的・多角的に捉えます。				
授業計画	第1講 ガイダンス・社会学とは何か 第2講 社会学の目的 第3講 古代におけるポリス 第4講 国家の誕生 第5講 社会契約論 第6講 コントにおける「社会学」 第7講 実証主義と反実証主義 第8講 イデオロギー 第9講 資本主義の精神 第10講 社会的事実 第11講 社会思想は世界を変える 第12講 フランクフルト学派 第13講 人間解放 第14講 歴史の終わり 第15講 これからの社会思想				
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。				
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。				
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%				
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。				
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	社会的動物として、授業で協力し社会思想史を勉強しましょう。				

授業科目名	哲学	科目コード	171502	授業コード	413401
担当教員	フェリペ フェハリー	科目ナンバリング	GLAH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。				
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か 第2講 哲学の起源 第3講 哲学の三つの伝統 第4講 西洋と東洋 第5講 ソクラテス：無知の知 第6講 プラトン：洞窟の比喻 第7講 アリストテレス：現実とは何か 第8講 中世哲学 第9講 中世から近代へ 第10講 近代哲学 第11講 近代から現代へ 第12講 カント：超越とは何か 第13講 弁証法 第14講 懐疑的解釈学の哲学者たち 第15講 言葉には力がある！				
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。				
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。				
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%				
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。				
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。				

授業科目名	文学	科目コード	171503	授業コード	411404
担当教員	永井 博	科目ナンバリング	GLAH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年2月、イスラエルのガザ地区侵攻は2023年10月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい。				
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日露戦争概説 第3回 与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第4回 陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第5回 トルストイ「汝悔い改めよ」 第6回 幸徳秋水「戦争来」 第7回 内村鑑三の日露戦争非戦論 第8回 前半のまとめと復習（グループワーク） 第9回 ヴェトナム戦争概説 第10回 ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回 武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回 日本国憲法第9条 第13回 加藤周一ほか「9条の会」 第14回 核戦争と「文学者の反核声明」 第15回 全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。				
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）				
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。				
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回の終わりに講義の内容のまとめと、それに関する意見、質問などを簡単に書いて提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニ・レポートは、総評的なコメントとともに点数をつけて翌週に返却する。				
アクティブラーニング	小レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわらなつてはならない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。				

授業科目名	文章表現論		科目コード	171504	授業コード	413206	
担当教員	永井 博		科目ナンバリング	GLAH1004			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。						
到達目標	ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 原稿用紙の使い方① 第3回 原稿用紙の使い方②（実習） 第4回 推敲のしかた① 第5回 推敲のしかた②（実習） 第6回 テーマの決め方 第7回 資料の探し方① 第8回 資料の探し方②（実習） 第9回 論理的文章の書き方① 第10回 論理的文章の書き方②（実習） 第11回 文章作成の実際①（実習） 第12回 文章作成の実際②（実習） 第13回 文章作成の実際③（実習） 第14回 文章作成の実際④（実習） 第15回 文章作成の実際⑤（実習） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	予習としては、文章作成に備えて、文章の素材を探しておくこと。（90分） 復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所の正しい書き方を自分で振り返っておくこと。（90分） また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。						
成績評価方法	提出物50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。						
授業内の課題・提出方法	毎回作文を書いて時間の終わりに提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された作文は添削して翌週以降の講義で返却する。						
アクティブラーニング	小レポート（作文）						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ドリルや説明文の書き方を練習したものなど、ほぼ毎回提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。						



授業科目名	文化論	科目コード	171505	授業コード	415603
担当教員	富田 与	科目ナンバリング	GLAH1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	私たちの日常空間のほとんどは、誰かが何かを表現した表象で構成されています。この講義では、4人の担当教員がそれぞれの専門と関心から、図像（絵画、写真）、テキスト（小説、談話）そしてその組みあわせであるマンガ、アニメ、映画などを材料に、表象読解の理論（イコノロジー、記号論、ジェンダー論、フェミニズム論、テキスト理論など）と実践を紹介します。				
到達目標	表象文化の考え方を踏まえながら、言語や図像による表現を読み解く能力を身に付ける。				
授業計画	第1講：ガイダンス、表象文化とは 富田 第2講：表象の考え方 富田 第3講：「病のアレゴリー」「病」を巡る表象（1） 富田 第4講：「厄払い」「病」を巡る表象（2） 富田 第5講：「く病」をく業として機能させる物語「病」を巡る表象（3） 高田 第6講：「くメンヘラ」を芸術に昇華する「病」を巡る表象（4） 高田 第7講：「病んでいるのは誰か」「病」を巡る表象（5） 三田 第8講：「街路の表象 バンクシーを中心に」「病」と「戦争」を巡る表象 富田 第9講：「戦いの性別役割分業」「戦争」を巡る表象（1） 三田 第10講：「男性性の檻」「戦争」を巡る表象（2） 三田 第11講：「女性が戦争を語るということ」「戦争」を巡る表象（3） 高田 第12講：テキスト理論の基礎 永井 第13講：「捕虜の表象その1」「戦争」を巡る表象（4） 永井 第14講：「捕虜の表象その2」「戦争」を巡る表象（5） 永井 第15講：「井上哲次郎の捕虜言説」「戦争」を巡る表象（6） 永井				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。				
事前・事後学習	業中に出された課題を作成してください（180分）。				
成績評価方法	業内の課題（30%）と最終レポート（70%）で評価します。				
授業内の課題・提出方法	業内の課題はmoodleに提出してください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必用に応じて授業の中でコメントします。				
アクティブラーニング	テーマに応じて講義のなかで議論の時間を設定する。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	講義に参加しながら教員が気づいていない事を見つけてください。そして新しい見方を提案してみてください。表象文化を一緒に楽しんでみましょう。				

授業科目名	教育学	科目コード	171506	授業コード	411605
担当教員	長谷川 誠	科目ナンバリング	GLAH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	教育学概論は、教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題について検討することを目的とします。例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について考えていきます。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目指します。				
到達目標	教育を取り巻く諸問題を整理し、社会における教育の在り方への興味をより具体的なものとして意識し、議論できることを目指していきます。教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養います。				
授業計画	第1講：教育とは何か 第2講：教育と社会 第3講：学歴社会の成立と変貌 第4講：日本の教育政策の動向-諸外国との比較から- 第5講：教育をめぐる格差問題 第6講：いじめ問題 第7講：不登校の課題と対応 第8講：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第9講：懲戒と体罰 第10講：情報社会と教育 第11講：グローバル化と教育 第12講：リスク社会の進展と教育 第13講：若年層就労問題① 第14講：若年層就労問題② 第15講：まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。適宜プリントを配布します。				
事前・事後学習	・教育に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。				
成績評価方法	・課題試験60%（授業で扱った教育課題に対する理解度、教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性） ・平常点40%（リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述的的確性）				
授業内の課題・提出方法	課題：授業内で実施するリアクションペーパー				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週の授業にて適宜コメントします				
アクティブラーニング	適宜、ディスカッションを行います				
実務経験のある教員					
担当者から一言	積極的な授業への参加を期待しています。 現代の教育課題について一緒に考えていきましょう。				

授業科目名	日本史概論	科目コード	171507	授業コード	415303
担当教員	浅井 雅	科目ナンバリング	GLAH1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特徴を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を体験することにより、新たな見方を提供したい。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史と文化・思想のつながりを理解することができる。</li> <li>2. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。</li> <li>3. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。</li> </ol>				
授業計画	第1回 講義のガイダンス、自己紹介 第2回 考古 第3回 古代（1） 第4回 古代（2） 第5回 古代（3） 第6回 中世（1） 第7回 中世（2） & 近世（1） 第8回 中世（3） & 近世（2） 第9回 近世（3） 第10回 近世（4） 第11回 近世（5） 第12回 近世（6） 第13回 近世（7） 第14回 近代（1） 第15回 近代（2） 期末レポート				
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。				
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60～90分）				
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。（病欠・公欠等は別途相談のこと。）				
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。				

授業科目名	世界史概論		科目コード	171508	授業コード	412603	
担当教員	浅井 雅		科目ナンバリング	GLAH1008			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史を単なる為政者の歴史としてとらえるのではなく、様々な側面からとらえ、その実態にアプローチし、当該時代の特徴を理解するとともに新たな見方を発見していく。						
到達目標	歴史を暗記科目と考えるのではなく、そこにある因果関係や影響を考察し、さらには先人たちの営みや知恵を感じ取ること。また、それらを我々の生活に活かしていくことが最終目標である。						
授業計画	第1回 ガイダンス、歴史の基礎知識等 第2回 政治・行政の概要 第3回 戦前の政治・行政（1） 第4回 戦前の政治・行政（2） 第5回 戦前の政治・行政（3） 第6回 戦後の政治・行政（1） 第7回 戦後の政治・行政（2） 第8回 戦後の政治・行政（3） 第9回 産業・経済（1） 第10回 産業・経済（2） 第11回 社会・文化（1） 第12回 社会・文化（2） 第13回 社会・文化（3） 第14回 社会・文化（4） 第15回 社会・文化（5） 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60～90分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。（病欠・公欠等は別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	科学的思考論	科目コード	171601	授業コード	411407
担当教員	吉山 青翔	科目ナンバリング	GLAN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学的な思考方法を展開します。				
到達目標	自然科学の全体的な姿を歴史的に把握する。 科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 古代オリエント科学の概観 第3講 古代ギリシア科学の概観 第4講 中世の科学と近代大学の誕生 第5講 近代科学の開始：コペルニクスの地動説の成立 第6講 地動説をめぐる科学と宗教の闘争：ガリレオ裁判 第7講 万有引力法則の発見と近代力学の成立 第8講 中間テスト 第9講 理髪師から近代解剖学へ 第10講 血液循環説の確立と近代医学の成立 第11講 酸素の発見と近代化学の成立 第12講 進化論の確立と近代生物学の成立 第13講 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生 第14講 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。				
事前・事後学習	事前・事後に授業の内容を確認すること（それぞれ30分程度）。				
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。				
授業内の課題・提出方法	授業後、授業の内容を確認し、質問等に関して、次週の授業前にミニレポートの形で提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったミニレポートに関して、授業中適宜にコメント・補足します。				
アクティブラーニング	授業の内容に関するキーワードを中心に調べ、ミニツツペーパーの形にまとめ、提出してもらおう。				
実務経験のある教員	役場・民間企業等勤務経験あり。				
担当者から一言	人間社会に欠かせない人間の知力の1つ＝科学的思考力を身につけましょう。				

授業科目名	数学概論	科目コード	171604	授業コード	412202
担当教員	金岩 稔	科目ナンバリング	GLAN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。				
到達目標	(1) 数学的な物の考え方ができるようになる。 (2) 基礎的な数学を理解する。				
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数 1 10 関数 2 11 極限 1 12 極限 2 13 回転 1 14 回転 2 15 まとめと確認課題				
テキスト・教材（参考文献）	配布資料				
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。				
成績評価方法	出席（50%）課題（50%）				
授業内の課題・提出方法	講義時間中に配布・提出。 Moodle併用する場合もある。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事後の講義やMoodleにて。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	なるべく数式を使わず、数学の面白さをわかってもらえたらと思います。				

授業科目名	化学概論	科目コード	171605	授業コード	411302
担当教員	牧田 直子	科目ナンバリング	GLAN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を学ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。関連科目は「環境化学」、「自然調査法」、「環境基礎実験」など。特に「環境化学」の前にこの科目を履修することが望ましい。				
到達目標	「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」 「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の学び方 第2講 物質とは何か 第3講 身の回りの物質 第4講 物質の性質 第5講 物質の状態 第6講 原子と電子軌道 第7講 電子配置と周期表 第8講 化学結合1 第9講 化学結合2、物質質量 第10講 気体と溶液の性質 第11講 化学反応 第12講 酸と塩基 第13講 酸化と還元 第14講 光 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編『『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ』化学同人（2007）、2160円（税込）				
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。				
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%				
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。				
アクティブラーニング	課題・宿題				
実務経験のある教員					
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。				

授業科目名	地学概論	科目コード	171606	授業コード	411101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある地学的事象の事例を交えながら学んでいきます。				
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物1 第4講 岩石と鉱物2 第5講 化石 第6講 地質年代1 第7講 地質年代2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害1 第13講 自然災害2 第14講 温泉1 第15講 温泉2				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）レポート課題 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等があれば、Moodleやメールにていつでも受け付けます。				
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。				
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。				



授業科目名	生物学概論	科目コード	171607	授業コード	413601
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GLAN1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。				
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。				
到達目標	類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生物のエネルギー：代謝 第3講 光合成：エネルギーの生産 第4講 呼吸：エネルギーの活用 第5講 生体物質：反応できる窒素 第6講 タンパク質：安定した生体物質 第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA 第9講 遺伝子：DNA内の情報システム 第10講 遺伝子発現の情報処理 第11講 生物の環境応答：刺激の受容 第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム 第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制 第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉 第15講 行動：統合された反応 定期試験 持ち込み不可				
テキスト・教材(参考文献)	なし				
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60% 定期試験 40%				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	学周辺の森の見学(フィールドワーク)をして、自然と人間の相互作用を理解します。				
実務経験のある教員	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻における日本学術振興会特別研究員の時に、生理学の研究に従事し、成果をアメリカ・イギリスの国際英文学術誌(査読付き)に発表しました。				
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。				

授業科目名	生物と進化	科目コード	171608	授業コード	413505
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。				
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に係る法律・条約 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔ら）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。				
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。				
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。				

授業科目名	環境論	科目コード	171609	授業コード	411808
担当教員	吉山 青翔	科目ナンバリング	GLAN1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。				
到達目標	環境問題の全体像を把握し、自分の環境観を形成する。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「自然」の定義と仕組み 第3講 「環境」の定義と仕組み 第4講 「文化」の定義と仕組み 第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性 第6講 環境に関する人類の認識1：ヒポクラテスによる医学上の見解 第7講 環境に関する人類の認識2：C. ダーウィンによる生物学上の見解 第8講 中間テスト 第9講 環境に関する人類の認識3：C. ベルナルによる生理学上の見解 第10講 環境に関する人類の認識4：C. ラッツェルによる地理学上の見解 第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見 第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生 第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告 第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化 第15講 まとめ：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	参考資料 フランク・ユケッター著、和田佐規子訳『ナチスと自然保護』（築地書館株式会社、2015年）、その他（随時に授業内容に関する資料指定・配布します）。				
事前・事後学習	授業前に次回の授業内容を確認し、授業後に授業の内容を確認してください。（それぞれ20分程度）				
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。				
授業内の課題・提出方法	授業の内容に関するミニレポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったレポートを、次回の授業で適宜にコメントします。				
アクティブラーニング	授業の内容に関するキーワードを中心に調べ、ミニツツペーパーの形にまとめ、提出してもらいます。				
実務経験のある教員	役場・民間企業等勤務経験あり。				
担当者から一言	現代社会に求められる現代教養の1つ＝環境観を持ちましょう。				

授業科目名	心理学	科目コード	171610	授業コード	414601
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GLAN1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。				
授業のねらい	情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえぬ情報伝達(教えること)」とはどういうものを明らかにすることを講義のねらいとします。				
到達目標	生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。				
授業計画	第1講 ガイダンス・視覚情報：色彩 色の対処理 第2講 視覚情報・色彩 赤と青を同時に使わない(実習) 第3講 視覚情報・色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用 第4講 資格情報・色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習) 第5講 視覚情報・形 両眼視 第6講 視覚情報・形 アフォーダンス 第7講 視覚情報・アフォーダンス 実習1 ボケの効果 第8講 視覚情報・アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習) 第9講 実験心理学からみた学習 第10講 個体学習と社会学習の違い 第11講 社会学習における課題 第12講 人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布) 第13講 理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感 第14講 実験心理学の技法・統計：因子分析を例にして 第15講 レポート返却(コメント付き)・講評 定期試験 各自のコメントに関連した問題				
テキスト・教材(参考文献)	なし				
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	講義中の実践課題40% レポート 40% 定期試験 20% 講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	視覚情報では、作画実習を行い、理解して使えるようになったかを確認します。情報伝達では、実際に話を伝えるコミュニケーションを行ってもらいます。				
実務経験のある教員	京都大学霊長類研究所の研究員(生態・心理分野)の時、自然環境における親から子への情報伝達の研究に従事しました。				
担当者から一言	教育は一方の情報発信でなく、双方の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。				

授業科目名	キャリア基礎 I	科目コード	171701	授業コード	411701
担当教員	三田 泰雅	科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。				
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。				
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる				
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①働くとは 3 労働②さまざまな働き方 4 労働③日本の働き方 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③日本をとりまく世界の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて				
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。				
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）				
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。				
アクティブラーニング	小レポート グループワーク				
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。				
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。				

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ	科目コード	171702	授業コード	411102
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。				
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。 「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生を前提にその手法を学びながら自己分析・自己PRを行っていただきます。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。				
到達目標	以下の4つの到達目標があります。 ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。 ② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみること。 ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。 ④ 採用試験の基礎を習得すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス4/8 第2講 自己分析のすすめ4/15 第3講 自己分析実習①過去の自分をふりかえる4/22 第4講 自己分析実習②他者の意見を聞く 5/6 第5講 知っておきたい採用試験の基礎⑥ 5/13 第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑦ 5/20 第7講 自己分析実習③自己分析講座 5/27 第8講 自己分析実習④自己分析講座のふりかえり6/3 第9講 業界・企業研究のすすめ6/10 第10講 企業研究実習6/17 第11講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)①6/24 第12講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)②7/1 第13講 知っておきたい採用試験の基礎⑧7/8 第14講 知っておきたい採用試験の基礎⑨7/15 第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑩7/22				
テキスト・教材(参考文献)	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。				
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。				
成績評価方法	期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%				
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。				

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ	科目コード	171703	授業コード	416505
担当教員	高田 晴美	科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。				
授業のねらい	この科目では、大学生としても社会人としても常識として確実に身に付けておくことが求められる基礎学力の習得を目指します。教養としての数学は、文系・理系を問わず、使いこなせる必要があります。また、論理的に文章を読み取る国語の読解力は、あらゆる分野でなくてはならないものです。全15回の授業は、オンデマンドで行います。苦手とする単元は授業動画を繰り返し視聴し、確実に学力を養成していきましょう。				
到達目標	①数学の基礎学力を身に付ける。 ②新聞記事、時事的な文章、評論等の論理的な文章を読み解けるようになる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、数学1 第2講 数学2 第3講 数学3 第4講 数学4 第5講 数学5 第6講 数学6 第7講 数学7 第8講 読解1 第9講 読解2 第10講 読解3 第11講 数学8 第12講 数学9 第13講 数学10 第14講 数学11 第15講 数学12				
テキスト・教材（参考文献）	「キャリア基礎a」用テキストを使用します。				
事前・事後学習	まずはテキストの問題を試しに解いてみる（90分）。 次に、授業動画を視聴しながら、動画の指示に従って、テキストの問題を改めて解く。 復習として、問題を完璧に解けるようになるまで解き直す（90分）。				
成績評価方法	期末試験 100%				
授業内の課題・提出方法	テキストの各章末の確認テスト問題を課題とします。 Moodleに解答を掲示しますので、それを見て自分で答え合わせをしてください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答・解説はMoodleにて示します。 課題や授業内容などについて、疑問がありましたら、メール等で受け付け、返信します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	担当者の高田は、複数の大学や再就職希望社会人向けの就職試験対策講座や公務員試験対策講座の担当経験あり。				
担当者から一言	大学で何を専門的に学ぶにせよ、大学卒の社会人に期待される最低限の学力、特に、多くの人が苦手としがちな数学は身に付けておいた方がよいです。この科目では「やれるまでやる」「基礎学力に自信が持てるようになる」つもりで取り組みましょう。				

授業科目名	ボランティア活動 a		科目コード	171801	授業コード	416105	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GES1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	<p>社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。</p> <p>※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。</p>						
到達目標	<p>1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。</p> <p>2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。</p> <p>3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける</p>						
授業計画	<p>1 対象となる活動</p> <p>① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動</p> <p>② 別に大学の審査により認められたボランティア活動</p> <p>2 単位認定に必要な活動時間</p> <p>実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。）</p> <p>3 活動時期</p> <p>授業や大学行事に支障がないと判断される時期</p> <p>4 事前申請</p> <p>参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。</p> <p>5 単位認定申請</p> <p>実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで）</p> <p>① ボランティア活動 a 単位認定申請書</p> <p>② ボランティア活動団体発行の証明書</p> <p>③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度）</p> <p>注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	<p>（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。</p> <p>（事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。</p>						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						



授業科目名	ボランティア活動 b		科目コード	171802	授業コード	416106	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GESC1002			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	<p>社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。</p> <p>※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。</p>						
到達目標	<p>1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。</p> <p>2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。</p> <p>3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける</p>						
授業計画	<p>1 対象となる活動</p> <p>① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動</p> <p>② 別に大学の審査により認められたボランティア活動</p> <p>2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。）</p> <p>3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期</p> <p>4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。</p> <p>5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで）</p> <p>① ボランティア活動 a 単位認定申請書</p> <p>② ボランティア活動団体発行の証明書</p> <p>③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度）</p> <p>注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	<p>（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。</p> <p>（事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。</p>						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	国際協力研修		科目コード	171803	授業コード	416502	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GESC1003			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。						
到達目標	1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身に付けます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。						
テキスト・教材（参考文献）	（大学の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。 （大学外の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページで、研修先の国の情報を調べてください。						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）						
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50％）活動日誌・レポート（50％） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50％）レポート（50％） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
アクティブラーニング	海外で、国際協力活動、フィールドワークに参加します。						
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国際経済を研究対象としています。						
担当者から一言	2025年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。						

授業科目名	インターンシップ	科目コード	171804	授業コード	416104
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩	科目ナンバリング	GESC1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。				
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること				
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。				
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 4月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布 4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表 5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表 6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 8～9月：インターンシップ 10月：事後面談・・・レポート提出 11月以降：単位認定 *春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。				
テキスト・教材（参考文献）	とくになし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。				

授業科目名	公務のための数的推理		科目コード	172201	授業コード	413802	
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GSPO1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、ほとんどが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理のほとんどのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。						
到達目標	1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、整数の性質 第2講 剰余系の問題、n進法 第3講 比と割合 第4講 方程式と不等式① 第5講 方程式と不等式② 第6講 濃度 第7講 仕事算、ニュートン算 第8講 年齢算、平均算など 第9講 集合 第10講 速さ① 第11講 速さ② 第12講 速さ③ 第13講 場合の数 第14講 確率 第15講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理/資料解釈』エクスピア出版（2021年）1, 650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業、またはMoodleで行います。 その他、質問があれば、対面、メール、Moodleなどで受け付けます。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座担当の経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための判断推理		科目コード	172202	授業コード	413404	
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GSPO1002			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 判断推理の解法を一通り身に付ける。</li> <li>2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。</li> <li>3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。</li> </ol>						
授業計画	第1講 ガイダンス、順序関係 第2講 順序関係 第3講 位置関係 第4講 対応関係 第5講 試合 第6講 数量関係 第7講 命題と論理 第8講 真偽 第9講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』エクスピア出版（2021年）1, 650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で扱った問題の解きなおし（90分）</li> <li>・講義では飛ばした問題を解く（90分）</li> </ul> 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業で行います。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座の担当経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための現代文		科目コード	172203	授業コード	415703	
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GSPO1003			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験科目のうちの「文章理解（国語）」の「現代文」のところと「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解（国語）」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきたいと思います。						
到達目標	1 「文章理解（国語分野）」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。 2 「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、現代文①——内容把握 第2講 現代文②——内容把握 第3講 現代文③——要旨把握 第4講 現代文④——要旨把握 第5講 現代文⑤——文章整序 第6講 現代文⑥——文章整序 第7講 現代文⑦——空欄補充 第8講 資料解釈①——実数 第9講 資料解釈②——実数 第10講 資料解釈③——割合・構成比 第11講 資料解釈④——割合・構成比 第12講 資料解釈⑤——指数・増加率 第13講 資料解釈⑥——指数・増加率 第14講 資料解釈⑦——特殊な問題 第15講 資料解釈⑧——特殊な問題 定期試験 なお、この科目はオンデマンドで行います。						
テキスト・教材（参考文献）	● 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック [改訂版]』実務教育出版（2020年） ● 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理/資料解釈』エクシア出版（2021年）（「公務のための数的推理」と同テキスト）						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・（特に「資料解釈」では）講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	課題は講義の中で説明します。 Moodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、授業もしくはMoodleで示します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員試験対策講座の担当経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための政治学		科目コード	172204	授業コード	412601	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	GSPO1004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第1講 ガイダンス：この授業の進め方 第2講 三権分立と法の支配 第3講 議院内閣制 第4講 国会 第5講 内閣 第6講 官僚制と行政 第7講 裁判所 第8講 地方自治 第9講 直接請求権 第10講 選挙 第11講 政党政治 第12講 政治理論 第13講 各国の政治制度 第14講 国際政治 第15講 時事問題 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%						
授業内の課題・提出方法	原則として毎回、小テストを実施し、授業中に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。						
アクティブラーニング	原則として毎回、小テスト（問題演習）を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	公務のための経済学		科目コード	172205	授業コード	412404	
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GSPO1005			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では、公務員や金融機関、大学院などを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。						
到達目標	経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。						
授業計画	<p>教学課の課題提出ポスト横のテーブルに、全ての回のレジメを置きますので、1回目の授業の前に入手してください。講義はオンデマンド型授業になります。OD授業を一時停止や複数再生しながら内容を理解し、レジメにノートテイクしてください。なお、課題はテキストの指定した範囲の説明部分を自分なりにノートにまとめ、問題は解くだけでなく解答をみて重要なポイントをノートにまとめてください。課題は、それぞれB5ノートで5ページ以上になるよう、しっかりとまとめてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（基礎数学復習と一次関数の演習問題）</li> <li>2. 無差別曲線と消費者の行動①</li> <li>3. 無差別曲線と消費者の行動②&lt;課題①&gt;</li> <li>4. 企業の行動①</li> <li>5. 企業の行動②&lt;課題②&gt;</li> <li>6. 需要の価格弾力性①</li> <li>7. 需要の価格弾力性②&lt;課題③&gt;</li> <li>8. 市場メカニズムと安定性&lt;課題④&gt;</li> <li>9. 比較優位の理論①</li> <li>10. 比較優位の理論②&lt;課題⑤&gt;</li> <li>11. 財政政策・金融政策①</li> <li>12. 財政政策・金融政策②&lt;課題⑥&gt;</li> <li>13. 公共財の供給</li> <li>14. 外部効果(外部経済・不経済)&lt;課題⑦&gt;</li> <li>15. その他の経済学の問題演習</li> </ol>						
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各3～5時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学概論」単位取得後の受講が好ましい。						
成績評価方法	授業を理解した上で課題(7回を予定)を提出すること。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	独学で勉強するテキストの箇所を精読し、ノートにまとめを書き、練習問題を解くだけでなく解説の重要箇所もまとめ、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどでわかりやすく解説する。オンデマンド型授業であるが、毎週のOD講義を決まった曜日・時間帯に視聴し、すぐにノートを提出、課題にも計画的に取り組むこと。						



授業科目名	公務のための法学		科目コード	172206	授業コード	413205	
担当教員	中西 紀夫		科目ナンバリング	GSPO1006			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思ひます。						
到達目標	法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第4講 人権の発達、基本的人権の原理 第5講 日本国憲法における基本的人権の種類 第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第8講 要約（これまでの確認） 第9講 民法、刑法、その他の法律 第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講 社会保障、高齢社会、少子社会 第13講 地球環境問題 第14講 資源・エネルギー問題 第15講 要約（これまでの確認） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕』実務教育出版（2022年）1, 650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。						
事前・事後学習	その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思ひます。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習90分と復習90分）						
成績評価方法	小テスト 30%：授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験 70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	学生さん自身が理解度を確認できるように、テキストの問題だけでなく別の本などの問題も解いてもらうようにしています。また、タイミングを見計らいながら、テキストの復習もしています。						
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思ひます。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	公務のための人文科学	科目コード	172207	授業コード	412802
担当教員	浅井 雅	科目ナンバリング	GSPO1007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	幅広い人文科学の知識を問題演習を通じて学ぶ。公務員試験を目指す者のみならず、様々な業種の就職試験における一般教養も学べる授業となる。				
到達目標	教養としての人文科学を十分に理解し、確実に身につける。				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本史 (1) 第3回 日本史 (2) 第4回 日本史 (3) + 世界史 (1) 第5回 世界史 (2) 第6回 世界史 (3) 第7回 世界史 (4) 第8回 地理 (1) 第9回 地理 (2) 第10回 地理 (3) + 国語 (1) 第11回 国語 (2) 第12回 思想 (1) 第13回 文学・芸術 (1) 第14回 文学・芸術 (2) 第15回 まとめ 定期試験				
テキスト・教材 (参考文献)	『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文学 改訂第3版』実務教育出版、2022年、1500円+税  その他、電子もしくは紙でプリントを配布する場合もある。				
事前・事後学習	事前に次回の授業に向け、当該範囲を予習しておく。(60分) 事後には、授業の内容・範囲について理解を深める。(60分)				
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート(コメントペーパー) = 30% 期末試験 = 70%  なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。(病欠・公欠等は、別途相談のこと。)				
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート(コメントペーパー)はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為(スマホ・イヤホンなどを含む)をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。				

授業科目名	公務のための自然科学		科目コード	172208	授業コード	411304	
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GSPO1008			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の「自然科学」の内容は高校レベルの「物理」「化学」「生物」「地学」です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点ができるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。						
到達目標	公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、生物① 第2講 生物② 第3講 生物③ 第4講 生物④ 第5講 地学① 第6講 地学② 第7講 地学③ 第8講 地学④ 第9講 化学① 第10講 化学② 第11講 化学③ 第12講 化学④ 第13講 物理① 第14講 物理② 第15講 物理③ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	・『大卒程度 警察官・消防官 Vテキスト 3 自然科学 第4版』TAC出版（2018年）、1, 760円 ・『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 自然科学 改訂第3版』実務教育出版（2018年）1, 650円（税込）						
事前・事後学習	次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	定期試験（資料持込不可） 70% 課題 30%						
授業内の課題・提出方法	授業で課題を示します。 Moodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答解説は、授業で示します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員試験対策講座の担当経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための英文理解		科目コード	172209	授業コード	414605								
担当教員	ゴードン リース		科目ナンバリング	GSPO1009										
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択								
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。													
授業のねらい	現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の読解力を向上させる。</li> <li>2. 英語の語彙を増やす。</li> <li>3. 英文法の基礎を身につける。</li> </ol>													
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Guidance/Course introduction/Holidays</li> <li>2. Holidays</li> <li>3. School</li> <li>4. School</li> <li>5. Nature</li> <li>6. Nature</li> <li>7. Free Time</li> <li>8. Free Time</li> <li>9. Food</li> <li>10. Food</li> <li>11. Technology</li> <li>12. Technology</li> <li>13. Travel</li> <li>14. Future Food- Growing cities/Review</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>													
テキスト・教材（参考文献）	<p>Expanding Horizons Charles Browne Nanundo 9784523179061</p> <p>Grammar in Practice 2 Roger Gower Cambridge University Press 9780521665667</p>													
事前・事後学習	After each class spend 60 minutes reviewing handouts, textbook exercises and videos from the previous lesson. Students should also spend about 30 minutes reading ahead in the text for the following lesson.													
成績評価方法	<table> <tr> <td>学習態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>スピーキング テスト(2)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。</p>						学習態度	30%	課題・小テスト	30%	スピーキング テスト(2)	20%	定期試験	20%
学習態度	30%													
課題・小テスト	30%													
スピーキング テスト(2)	20%													
定期試験	20%													
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。													
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。													
アクティブラーニング	プレゼンテーション、リーダーズ・シアター													
実務経験のある教員														
担当者から一言	<p>オンデマンド授業を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 5回以上欠席すると単位がもらえない。</li> <li>2. 履修者が18名を超えた場合は抽選となります。</li> <li>3. テキストがないと欠席扱いになります。</li> <li>4. 2回遅刻すると1回の欠席になる。</li> </ol>													

授業科目名	公務のための論文・面接		科目コード	172210	授業コード	415102	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GSPO1010			
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょうか。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。 この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生は受講しましょう。						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第1講 ガイダンス この授業の進め方 第2講 文章の書き方（実習） 第3講 面接の心構え（実習） 第4講 論文①（実習） 第5講 面接①（実習） 第6講 論文②（実習） 第7講 面接②（実習） 第8講 論文③（実習） 第9講 面接③（実習） 第10講 論文④（実習） 第11講 面接④（実習） 第12講 論文⑤（実習） 第13講 面接⑤（実習） 第14講 論文⑥（実習） 第15講 面接⑥（実習）						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください（60分）。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください（毎日20分以上）。						
成績評価方法	課題等への取り組み状況：45% 講義時に指示する宿題の提出状況：30% 受講態度：25%						
授業内の課題・提出方法	宿題は授業の冒頭で提出してもらいます。 また、授業中にも、口頭で応える課題や書いてもらう課題を課します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	口頭での課題に対しては、その場で適宜指導します。 文書で提出された課題・宿題は、毎回添削して返却します。						
アクティブラーニング	ディスカッション、ペアワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	この講義は、公務員試験に間に合うよう、6月上旬までの期間に集中して週2回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻、携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	172301	授業コード	415601	
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていけばよいかを学びます。そのうえで、一般的なビジネスマナーの知識・考え方・所作を学びます。 表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手部と言った非言語コミュニケーションも含まれます。この応用としてビジネスマナーがあります。 職場内やお客様との間での様々なシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。						
到達目標	社会人としてビジネスマナーの基本を身に付けており、社会生活の中のさまざまなシーンで実践できることです。まずは、相手との関係性において適切な自己表現ができることが目標です。 ①人間関係づくりの考え方を学ぶこと。 ②一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。 ③ビジネスシーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。						
授業計画	① 9/27 ガイダンス・人間関係作り① 価値交流 ② 10/4 人間関係作り② コミュニケーションとは ③ 10/11 人間関係作り③ パフォーマンス学 ④ 10/18 人間関係作り④ 話し方・聞き方 ⑤ 10/25 人間関係作り⑤ 聞き方・考え方 ⑥ 11/1 一般的なマナー① 敬語① ⑦ 11/8 一般的なマナー② 敬語② ⑧ 11/15 一般的なマナー③ 表情・声・身体表現① ⑨ 11/22 一般的なマナー④ 表情・声・身体表現② ⑩ 11/29 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相 ⑪ 12/6 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー ⑫ 12/13 ビジネスマナー③ 一般文書トビジネス文書（メール・封筒・ハガキの書き方） ⑬ 12/20 ビジネスマナー④ プレゼンテーション（原稿作成・言語非言語表現） ⑭ 1/10 ビジネスマナー⑤ クレーム対応（場面に応じた対応） ⑮ 1/17 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。						
事前・事後学習	予習：授業中に宿題内容を指示します。 次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習してきます。 次回講義内容に関係した課題を調べてきます。  復習：毎回の講義で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をしてきます。						
成績評価方法	定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。 小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。 小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、今回の講義内容の重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の初めに、前回授業内容の重要点事項・小テスト内容のポイントなどの振り返り授業を行います。学生を指名して解答して頂いただき、理解度を計ることをしたり、グループディスカッションを通じて定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により学習の形態を変えます。 コメントシート、ミニツツペーパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション原稿を作詞して実技発表。 グループワーク。ペアワーク発表。						
実務経験のある教員	民間企業勤務。企業研修講師。						
担当者から一言	外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。						

授業科目名	販売士講座		科目コード	172303	授業コード	414104	
担当教員	山川 和美		科目ナンバリング	GSHM1003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代において注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。						
到達目標	<p>目標は以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。</li> <li>● 店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。</li> <li>● 店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 講義の概要  第2講 ストアオペレーションのポイント①  第3講 ストアオペレーションのポイント②  第4講 ストアオペレーションのポイント③  第5講 小売業の類型のポイント①  第6講 小売業の類型のポイント②  第7講 小売業の類型のポイント③  第8講 マーチャンダイジングのポイント①  第9講 マーチャンダイジングのポイント②  第10講 販売・経営管理のポイント①  第11講 販売・経営管理のポイント②  第12講 販売・経営管理のポイント③  第13講 リテールマーケティングのポイント①  第14講 リテールマーケティングのポイント②  第15講 まとめ  定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし（必要に応じてプリントを配布します） 【参考文献】日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック（2冊セット）」キャリアック（2019年）						
事前・事後学習	予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（1日15分） 復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・課題60点、定期試験40点						
授業内の課題・提出方法	課題：毎回の講義で簡単な課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、適宜授業でフィードバックします。						
アクティブラーニング	コメントシート グループワーク（初回のみ） 簡単な実習						
実務経験のある教員	郵政省での勤務経験や小売業界での販売経験を活かした講義や実習を行います。						
担当者から一言	店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション		科目コード	172304	授業コード	412402																																													
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1004																																															
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択																																												
授業の位置づけ	希望する進路に応じたスキル、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを習得します。授業を通じて論理的思考力と自己表現力を養います。																																																		
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者を目指して様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るく活き活きと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけ顧客を意識した接客技術・説明力・説得力・プレゼンテーション力に重点を置いたロールプレイング中心となります。担当講師は企業研修講師で実務経験者です。哲学や心理学を含めたエビデンスに基づく講義内容や豊富な経験に基づく多彩な話を織り込んだ講義内容です。																																																		
到達目標	コミュニケーションは人間関係づくりの基本であり欠かせないスキルです。そして実社会では、特に周りとの人間関係を有効に保ちながら主体的に生きるための土台となるものです。ビジネスにおけるコミュニケーションスキルの理論とスキルを実践的に学び、相手目線に立ち臨機応変に対応できるスキルを身に付けることが到達目標です。																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>① 4/9</td> <td>ガイダンスと仕事の意義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 4/16</td> <td>接客マナー「おもてなし」</td> <td>「おもてなしとマナー」</td> </tr> <tr> <td>③ 4/23</td> <td>パフォーマンス学</td> <td>場と関わりの自己表現</td> </tr> <tr> <td>④ 5/7</td> <td>おもてなしの技術①</td> <td>第一印象</td> </tr> <tr> <td>⑤ 5/14</td> <td>おもてなしの技術②</td> <td>接客力</td> </tr> <tr> <td>⑥ 5/21</td> <td>おもてなしの技術③</td> <td>電話・レター・メール</td> </tr> <tr> <td>⑦ 5/28</td> <td>おもてなしの技術④</td> <td>社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」</td> </tr> <tr> <td>⑧ 6/4</td> <td>コミュニケーションスキル①</td> <td>心理学TA</td> </tr> <tr> <td>⑨ 6/11</td> <td>コミュニケーションスキル②</td> <td>アサーション</td> </tr> <tr> <td>⑩ 6/18</td> <td>コミュニケーションスキル③</td> <td>セルフコーチングの基本</td> </tr> <tr> <td>⑪ 6/25</td> <td>ビジネススキル①</td> <td>説明力・説得力</td> </tr> <tr> <td>⑫ 7/2</td> <td>ビジネススキル②</td> <td>合意形成</td> </tr> <tr> <td>⑬ 7/9</td> <td>ビジネススキル③</td> <td>プレゼンテーションⅠ</td> </tr> <tr> <td>⑭ 7/16</td> <td>ビジネススキル④</td> <td>プレゼンテーションⅡ</td> </tr> <tr> <td>⑮ 7/23</td> <td>総復習</td> <td>おもてなし溢れるコミュニケーション</td> </tr> </table> <p>定期試験</p>						① 4/9	ガイダンスと仕事の意義		② 4/16	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナー」	③ 4/23	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現	④ 5/7	おもてなしの技術①	第一印象	⑤ 5/14	おもてなしの技術②	接客力	⑥ 5/21	おもてなしの技術③	電話・レター・メール	⑦ 5/28	おもてなしの技術④	社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」	⑧ 6/4	コミュニケーションスキル①	心理学TA	⑨ 6/11	コミュニケーションスキル②	アサーション	⑩ 6/18	コミュニケーションスキル③	セルフコーチングの基本	⑪ 6/25	ビジネススキル①	説明力・説得力	⑫ 7/2	ビジネススキル②	合意形成	⑬ 7/9	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ	⑭ 7/16	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ	⑮ 7/23	総復習	おもてなし溢れるコミュニケーション
① 4/9	ガイダンスと仕事の意義																																																		
② 4/16	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナー」																																																	
③ 4/23	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現																																																	
④ 5/7	おもてなしの技術①	第一印象																																																	
⑤ 5/14	おもてなしの技術②	接客力																																																	
⑥ 5/21	おもてなしの技術③	電話・レター・メール																																																	
⑦ 5/28	おもてなしの技術④	社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」																																																	
⑧ 6/4	コミュニケーションスキル①	心理学TA																																																	
⑨ 6/11	コミュニケーションスキル②	アサーション																																																	
⑩ 6/18	コミュニケーションスキル③	セルフコーチングの基本																																																	
⑪ 6/25	ビジネススキル①	説明力・説得力																																																	
⑫ 7/2	ビジネススキル②	合意形成																																																	
⑬ 7/9	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ																																																	
⑭ 7/16	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ																																																	
⑮ 7/23	総復習	おもてなし溢れるコミュニケーション																																																	
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。																																																		
事前・事後学習	<p>予習：次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習することです。 次回講義内容に関係した課題を調べることです。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をすることです。</p>																																																		
成績評価方法	<p>定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。</p> <p>小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。</p> <p>小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。</p>																																																		
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に、今回の講義内容を重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。</p>																																																		
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>毎回講義の初めに、前回講義内容の重点事項・小テスト内容の振り返り授業をします。 学生に指名して解答していただき理解度を計ったり、グループディスカッションをして定着度を確認するときもあります。</p>																																																		
アクティブラーニング	<p>毎回の講義内容により学習の形態を変えます。 コメントシート・ミニツツペーパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション実技発表。フィードバックワーク。 ブルーワーク・ペアワーク発表。</p>																																																		
実務経験のある教員	民間企業勤務、企業研修講師。																																																		
担当者から一言	この授業はオペレーション演習を受講する前提となります。外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。																																																		



授業科目名	グローバルコミュニケーション	科目コード	172305	授業コード	411103
担当教員	富田 与	科目ナンバリング	GSHM1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この講義では、「遠く」に住む人あるいは「遠く」から来た人と、自分の「近く」でコミュニケーションを行うための考え方を見ていきます。ここで「遠く」、「近く」というのは必ずしも空間的距離の問題だけではなく、価値観、生活様式、宗教など生活世界を構成する様々な局面での距離感も含まれます。文化人類学の考え方を手掛かりに、他者との対話を継続していくための方策を考えていきたいと思えます。				
到達目標	文化人類学の理論を対話の実践に応用する能力を身に付ける。				
授業計画	第1講：ガイダンス、コミュニケーションとは 第2講：自然と知識 第3講：技術と環境 第4講：呪術と科学 第5講：現実と異世界 第6講：モノと芸術 第7講：贈り物と負債 第8講：貨幣と信用 第9講：国家とグローバリゼーション 第10講：戦争と平和 第11講：子どもと大人 第12講：親族と名前 第13講：ケアと共同性 第14講：市民社会と政治 第15講：まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	『文化人類学の思考法』（村松圭一郎、中川理、石井美保編）世界思想社 1800円				
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）				
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%				
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらおうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。				
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	コミュニケーション技術の発達、お互いの理解促進よりむしろ対立の顕在化を引き起こしているように見えます。技術では克服しにくい距離感の存在とそれへの対応を考えてみましょう。				

授業科目名	ビジネスマネジメント		科目コード	172307	授業コード	412101	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GSHM1007			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義の第2講～第6講（担当：岩崎）は、企業側の立場からみたコーポレートファイナンス（企業の資金調達）の基礎を学びます。 次に、第7講～第15講（担当：二村）は、企業が資金調達をするさいに重要になる、ファイナンスの考え方と経営計画・経営分析を学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレートファイナンスの基本を理解する</li> <li>・ファイナンス理論の基本的な考え方を理解する</li> <li>・経営計画の基本を理解する</li> <li>・経営分析の方法を理解する</li> </ul>						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 企業の資金構成 第3講 コーポレートファイナンスの実際1 第4講 コーポレートファイナンスの実際2 第5講 銀行の役割と課題 第6講 中間試験 第7講 現在価値と将来価値 第8講 リスク 第9講 利益とキャッシュのちがひ 第10講 信用 第11講 経営計画の策定1 第12講 経営計画の策定2 第13講 経営分析1 第14講 経営分析2 第15講 経営分析3・まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料は毎回プリントを配布する。 （参考文献） 西山茂「「専門家」以外の人のための決算書&ファイナンスの教科書」東洋経済新報社（2019年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前：新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ（90分） 事後：授業の復習と関連情報の収集をする。上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、経営計画や経営分析を確認する（90分）						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、授業内レポートなど）40% 中間試験20% 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容に関する課題を出します。授業時間内に提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートなど課題は適宜コメントをします。						
アクティブラーニング	授業内レポートを複数回、提出してもらいます。						
実務経験のある教員	（二村）経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	コーポレートファイナンス、経営計画の策定、経営分析の知識はいずれも、広くビジネスの世界で求められるものです。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。						

授業科目名	マーケティング演習	科目コード	172308	授業コード	411807
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GSHM1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	<p>この科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。</p> <p>マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客のニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング=市場調査と思っても良いでしょう。</p> <p>ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計・クロス集計や報告書作成を演習します。</p> <p>この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。</p>				
到達目標	<p>到達目標は以下の3点です。</p> <p>①市場調査の一連の技法を身につけること (調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案)</p> <p>②市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること</p> <p>③実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること</p>				
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マーケティングと市場調査の基礎理解</p> <p>第3回 Microsoft Formsの使い方</p> <p>第4回 Microsoft Formsによるアンケートの設計と回答</p> <p>第5回 エクセルを使った単純集計</p> <p>第6回 エクセルを使ったクロス集計</p> <p>第7回 報告書の作成</p> <p>第8回 仮設を設定した市場調査の設計</p> <p>第9回 市場調査の実施</p> <p>第10回 市場調査の集計</p> <p>第11回 報告書の作成</p> <p>第12回 報告書の確認</p> <p>第13回 報告書の発表</p> <p>第14回 市場調査の実際</p> <p>第15回 まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定せず、毎回Moodle上に資料を提示します。				
事前・事後学習	<p>予習：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)</p> <p>復習：学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)</p>				
成績評価方法	<p>毎回の課題提出 30%</p> <p>報告書および発表 40%</p> <p>定期試験（レポート試験）30%</p>				
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回、Moodle内で課題を課し提出いただきます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、授業内で適宜参照し、コメントします。その都度、理解度を確認しながらすすめます。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>原則、コンピュータ室で演習を行います。</p> <p>希望者が多数の場合は抽選になることがあります。</p> <p>欠席すると課題がわからなくなるので、欠席しないでください。</p>				

授業科目名	おもてなし特別講義 a		科目コード	172309	授業コード	413406	
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GSHM1009			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。 企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われれます。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。具体的には「三重のサステナブル経営アワード」受賞企業や教員が推薦する企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。 そのうえで成功の要因や普遍化（共通する点、他企業・他業態への応用の可能性）を考察していただきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営の成功事例を理解する。</li> <li>・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。</li> </ul>						
授業計画	第1回 4/10 ガイダンス 第2回 4/17 外部講師による講義（三重県） 第3回 4/24外部講師（企業経営者）による講義 第4回 5/ 8外部講師（企業経営者）による講義 第5回 5/15外部講師（企業経営者）による講義 第6回 5/22中間レポート1 第7回 5/29外部講師（企業経営者）による講義 第8回 6/5外部講師（企業経営者）による講義 第9回 6/12外部講師（企業経営者）による講義 第10回 6/19中間レポート2 第11回 6/26外部講師（企業経営者）による講義 第12回 7/3外部講師（企業経営者）による講義 第13回 7/10 外部講師（企業経営者）による講義 第14回 7/17企業レポート作成 第15回 7/24企業レポート発表 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布予定です。 ※本学教員による講義に替えることがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑） 40% 中間レポートおよび発表 30% 定期試験（レポート試験） 30%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただけます。 授業中に中間レポートを作成します。 （いずれもMoodleを利用予定）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
アクティブラーニング	企業講義のなかで、特定の課題についてグループワーク等の課題が提示されることがあります。その場合は状況に応じて積極的に行うことが求められます。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。						
担当者から一言	多くの経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になります。就職活動にも役立ちます。外部の方々の中には、学生とほとんど接する機会のない方々もおられます。大人としてのマナーを守って受講してください。						

授業科目名	おもてなし特別講義 b		科目コード	172310	授業コード	412803	
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GSHM1010			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。						
到達目標	情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。 PowerPoint を利用した短い広告作成を通じて、情報技術のサービス業での応用実践につなげる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「おもてなし」と情報技術 第3講 おもてなしとロボット 第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として) 第5講 観光資源としてのロボット 第6講 インターネットとクラウドシステム 第7講 キャッシュレス決済 第8講 ビッグデータ 第9講 AI (音声合成、音声認識) 第10講 AI (対話システム、翻訳、ディープラーニング) 第11講 デジタルサイネージ 第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1) 第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2) 第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3) 第15講 フリーディスカッション						
テキスト・教材 (参考文献)	教材は、教育支援システム (Moodle) を通じて呈示します。						
事前・事後学習	観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。(毎日30分)						
成績評価方法	授業態度30%、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション 30%、最終レポート40%で採点します。定期試験は実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム(Moodle)でディスカッションを行い、課題、レポートを提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム (Moodle) を通じてフィードバックします。						
アクティブラーニング	ディスカッション、実習課題提出						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。						

授業科目名	観光英語 I	科目コード	172401	授業コード	411303								
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GSET1001										
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0								
				必修/選択	選 択								
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。												
授業のねらい	この講座は1年生から受講できますが、英語のレベルは高く感じるかもしれません。『基礎英語I・II』と『英語コミュニケーションI・II』を受けてからこの講座をお勧めします。将来に海外旅行に行きたい人や観光業界で働きたい人にこの講座を勧めます。 Students will do listening and conversation activities to prepare for travel abroad and work in the travel and hospitality industry.												
到達目標	受講者が楽しく、安全に、そして安心して海外旅行に行けるように十分な英語の力を身につけることがこの講座の一つの目標です。旅行業や観光業の仕事に就きたい人に必要となる観光英語力を高めることがもう一つの狙いです。 The main goal of this class is for students to develop the necessary English language skills for travel abroad experiences, as well as for work in												
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction/It's So Nice to Meet You!</li> <li>2. Is He a Popular Professor?</li> <li>3. He Showed Me "a" Way</li> <li>4. For Here or To Go?</li> <li>5. She Is So Beautiful</li> <li>6. Catching a Cab</li> <li>7. How Romantic!</li> <li>8. I'm Not Feeling Well</li> <li>9. Tickets for a Yankee Game</li> <li>10. What's on the Shopping List?</li> <li>11. MoMa Is Fun!</li> <li>12. The Fourth of July Is Coming Up</li> <li>13. Who Is That Guy?!</li> <li>14. You're My Best Friend</li> <li>15. We Are Going to Be Late!- プレゼンテーション/定期試験</li> </ol>												
テキスト・教材（参考文献）	Hello New York! Takehisa Tsuchiya and Braven Smille Kinseido 9784384334371												
事前・事後学習	Students are expected to spend time on both written homework and review (about 60 minutes) of the previous lesson, and also to read ahead and preview the following lesson in the textbook (30 minutes).												
成績評価方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">学習態度</td> <td style="width: 30%;">30%</td> </tr> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>スピーキング・テスト(2)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>定期試験（プレゼンテーション）</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>テキストがないと欠席扱いになる。 5回以上欠席すると単位なし。 2回遅刻すると1回の欠席になる。</p>					学習態度	30%	課題・小テスト	30%	スピーキング・テスト(2)	20%	定期試験（プレゼンテーション）	20%
学習態度	30%												
課題・小テスト	30%												
スピーキング・テスト(2)	20%												
定期試験（プレゼンテーション）	20%												
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。												
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。												
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット、リーダーズ・シアター												
実務経験のある教員													
担当者から一言	この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。												

授業科目名	コンピュータ英語 I	科目コード	172403	授業コード	413204
担当教員	柴田 啓文	科目ナンバリング	GSET1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	卒業後に役立つ「コンピュータと英語」に関わる知識と技能を身につけるための授業です。 Yahoo!やYahoo! Financeを読み、世界の出来事や社会、経済についての知識を広めます。 また、各種のデータをExcelで処理したり、Wordでまとめたり、PowerPointで発表するスキルを身につけるとともに、多様なデータや高度なデータ処理の定番となったPythonにも挑戦します。 さらに、授業の内容についてChatGPTやGoogle Bardを使用し、これらの使い方を習得します。				
到達目標	英語ニュースを読むことを通して、次の知識を広めます。 1. 世界の出来事。 2. 米国や日本の経済。 3. 米国や日本の株式。 4. FXや暗号通貨。 次のスキルを身につけます。 1. 英語情報の収集方法。 2. Excelの実際の使用法。 3. Wordの実際の使用法。 4. PowerPointの実際の使用法。 4. ChatGPTとGoogle Bardの使用法。 5. プログラム (Python) の基本。				
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス：授業の内容と評価方法の説明</p> <p>第2回 ニュースの英語の基礎、Google Translateの使用法</p> <p>第3回 Yahoo!の読み方、Excelの四則の計算</p> <p>第4回 Yahoo!の読み方、Excelの表の構成と変数</p> <p>第5回 Yahoo!の読み方、ExcelのAutoFillの使い方</p> <p>第6回 Yahoo!の読み方、ExcelのFlashFillの使い方</p> <p>第7回 Yahoo! Financeの読み方、Excelの関数の使い方</p> <p>第8回 Yahoo! Financeの読み方、ExcelのPivotTablesの使い方</p> <p>第9回 Yahoo! Financeの読み方、ExcelのMacroの使用法</p> <p>第10回 Yahoo! Financeの読み方、ExcelのMacroの使用法</p> <p>第11回 ファンダメンタル分析、Wordの実際の使用法</p> <p>第12回 テクニカル分析、Wordの実際の使用法</p> <p>第13回 データのExcelとPythonで分析</p> <p>第14回 PowerPointの実際の使用法</p> <p>第15回まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	使用しません。インターネット上の英文を読みます。				
事前・事後学習	英語のニュース、映画、音楽、スポーツ、ゲームなど、関心のある話題の動画を毎日30分みてください。その際、日本語訳を表示せず、日本語に触れない時間としてください。				
成績評価方法	平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出や小テストなどによります。				
授業内の課題・提出方法	授業ノートや小テストやフォーラムは教育支援システムを利用します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	すべて教育システムのコースのGrades、あるいはForumに表示します。				
アクティブラーニング	授業ノートや小テスト				
実務経験のある教員					
担当者から一言	事前にプログラムやExcelの知識は必要ありません。また、特別な英語の知識も必要ありません。大学で学ぶべき英語やコンピュータの知識をまとめ、社会で役立つ知識とスキルを身につけようとするみなさんのための授業です。				

授業科目名	コンピュータ英語Ⅱ		科目コード	172404	授業コード	413604	
担当教員	柴田 啓文		科目ナンバリング	GSET1004			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	コンピュータ英語Ⅰに引き続き、卒業後に役立つ「コンピュータと英語」に関わる知識と技能を身につけるための授業です。 Yahoo!やYahoo! Financeを読み、世界の出来事や社会、経済についての知識を広めます。また、各種のデータをExcelで処理したり、Wordでまとめたり、PowerPointで発表するスキルを身につけるとともに、多様なデータや高度なデータ処理の定番となったPythonにも挑戦します。 さらに、授業の内容についてChatGPTやGoogle Bardを使用し、これらの使い方を習得し						
到達目標	英語ニュースを読むことを通して、次の知識を広めます。 1. 世界の出来事。 2. 米国や日本の経済。 3. 米国や日本の株式。 4. FXや暗号通貨。 次のスキルを身につけます。 1. 英語情報の収集方法。 2. Excelの実際の使用法。 3. Wordの実際の使用法。 4. PowerPointの実際の使用法。 4. ChatGPTとGoogle Bardの使用法。 5. プログラム (Python) の基本。						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス：授業の内容と評価方法の説明</p> <p>第2回 ニュースの英語の基礎、Google Translateの使用法</p> <p>第3回 Yahoo!の読み方、Excelの基本</p> <p>第4回 Yahoo!の読み方、Excelの表の作成</p> <p>第5回 Yahoo!の読み方、ExcelのAutoFillの使い方</p> <p>第6回 Yahoo!の読み方、ExcelのFlashFillの使い方</p> <p>第7回 Yahoo! Financeの読み方、Excelの関数の使い方</p> <p>第8回 Yahoo! Financeの読み方、ExcelのPivotTablesの使い方</p> <p>第9回 Yahoo! Financeの読み方、ExcelのMacroの使用法</p> <p>第10回 Yahoo! Financeの読み方、ExcelのMacroの使用法</p> <p>第11回 ファンダメンタル分析、Wordの実際の使用法</p> <p>第12回 テクニカル分析、Wordの実際の使用法</p> <p>第13回 データをExcelとPythonで分析</p> <p>第14回 PowerPointの実際の使用法</p> <p>第15回まとめ</p>						
テキスト・教材（参考文献）	使用しません。インターネット上の英文を読みます。						
事前・事後学習	英語のニュース、映画、音楽、スポーツ、ゲームなど、関心のある話題の動画を毎日30分みてください。その際、日本語訳を表示せず、日本語に触れない時間としてください。						
成績評価方法	平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出や小テストなどによります。						
授業内の課題・提出方法	授業ノートや小テストやフォーラムは教育支援システムを利用します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	すべて教育システムのコースのGrades、あるいはForumに表示します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	コンピュータ英語Ⅰに続く授業ですが、コンピュータ英語Ⅰの内容を復習しながら授業を進めますので、コンピュータ英語Ⅰを履修していなくてもかまいません。 事前にExcelやプログラムⅠの知識は必要ありません。また、特別な英語の知識も必要ありません。大学で学ぶべきコンピュータや英語の知識をまとめ、社会で役立つ知識とスキルを身につけようとするみなさんのための授業です。						



授業科目名	英語表現 I	科目コード	172405	授業コード	414103
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GSET1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙い。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやリーダーズシアターやラジオドラマを利用して『使える英語』を目指す。 In this course students will work on improving their English presentation and performance skills. A textbook will be utilized and students will be expected to make short presentations in English. The instructor will use a learner-centered teaching approach, and in order for students to learn actively, skits, reader's theater and radio drama will be introduced.				
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。				
授業計画	1. Guidance/ College Life 2. College Life 3. College Life (パフォーマンス #1) 4. Radio Thriller 5. Radio Thriller (グループパフォーマンス #1) 6. Mobile Phones 7. Mobile Phones 8. Mobile Phones (パフォーマンス #2) 9. Slow Food 10. Slow Food 11. Slow Food- (グループパフォーマンス #2) 12. International Food 13. International Food 14. My Favorite Restaurant 15. My Favorite Restaurant- プレゼンテーション/定期試験				
テキスト・教材 (参考文献)	Global Activator Tadashi Shiozawa, Gregory King Kinseido 978-4-7647-4003-7				
事前・事後学習	After each class spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises that were covered in the previous lesson. Also, try and spend about 30 minutes reading ahead for the following class.				
成績評価方法	学習態度 30% パフォーマンス (グループと個人) 30% 課題と小テスト 20% プレゼンテーション- 定期試験 20%				
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス (第1講) 及び課題などの提示時に説明します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス (第1講) 及び課題などの提示時に説明します。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション、リーダーズ・シアター、ラジオドラマ、スキット				
実務経験のある教員					
担当者から一言	対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。 1. 5回以上欠席すると単位がもらえない。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選となる。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. 2回遅刻すると1回の欠席になる。				

授業科目名	英語表現Ⅱ	科目コード	172406	授業コード	411702								
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GSET1006										
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0								
				必修/選択	選 択								
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。												
授業のねらい	<p>This course is a continuation of 「英語表現Ⅰ」。パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙い。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやリーダーズ・シアターを利用して『使える英語』を目指す。</p> <p>In this course students will work on improving their English presentation and performance skills. A textbook will be utilized and students will be expected to make short presentations in English. The instructor will use a learner-centered teaching approach, and in order for students to learn actively, skits and reader's theater will be introduced.</p>												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の聴解力と話す力を高める。</li> <li>2. 英語の語彙を増やす。</li> <li>3. 人の前で英語で話す自信を身につける。</li> </ol>												
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction and guidance/ Weekends/Vacations</li> <li>2. Weekends/Vacations</li> <li>3. Weekends/Vacations- Performance I</li> <li>4. My memorable experience</li> <li>5. My memorable experience</li> <li>6. My memorable experience- Presentation I</li> <li>7. Traveling/Studying overseas</li> <li>8. Traveling/Studying overseas</li> <li>9. Traveling/Studying overseas- Performance II</li> <li>10. My Dream Vacation</li> <li>11. My Dream Vacation</li> <li>12. My Dream Vacation- Presentation II</li> <li>13. Cool Japan</li> <li>14. Cool Japan</li> <li>15. Cool Japan- 定期試験</li> </ol>												
テキスト・教材（参考文献）	<p>Global Activator  Tadashi Shiozawa, Gregory King  Kinseido  978-4-7647-4003-7</p>												
事前・事後学習	<p>After every class, students should spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises covered in the previous class, as well as spend about 30 minutes reading aloud and studying the skits and conversations introduced in class.</p>												
成績評価方法	<table> <tr> <td>学習態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーションとパフォーマンス</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>20%</td> </tr> </table>					学習態度	30%	課題・小テスト	10%	プレゼンテーションとパフォーマンス	40%	定期試験	20%
学習態度	30%												
課題・小テスト	10%												
プレゼンテーションとパフォーマンス	40%												
定期試験	20%												
授業内の課題・提出方法	<p>クラスの担当教員の指示に従ってください。</p>												
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。</p>												
アクティブラーニング	<p>プレゼンテーション、スキット、リーダーズ・シアター</p>												
実務経験のある教員													
担当者から一言	<p>対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 5回以上欠席すると単位なし。</li> <li>2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。</li> <li>3. テキストがないと欠席扱いになります。</li> </ol>												

授業科目名	ビジネス英語 I		科目コード	172407	授業コード	412301	
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GSET1007			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	基礎的なレベルの英語を使い、実際のビジネスの場で使える表現や対応について学びます。文化の違う社会でのことばの遣い方や配慮の仕方にも重点を置きます。ビジネスやフォーマルな場でのマナーや常識を英語を通して知ることにより、適切な対応とは何かを考えます。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。</li> <li>2. フォーマルな場で、相手を不快にさせない対応について理解する。</li> <li>3. 自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を学ぶ。</li> <li>4. TOEIC(L/R) 450～550点程度に相当する英語力獲得をめざす。</li> </ol>						
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Chapter 1/ 自己紹介・スモールトーク (2-1) 第2講 Chapter 1/ 自己紹介・スモールトーク(2-2) 第3講 Chapter 2/ オフィスの案内 (2-1) 第4講 Chapter 2/ オフィスの案内 (2-2) 第5講 Chapter 3/ 電話表現1 (基本表現・メモの取り方) (2-1) 第6講 Chapter 3/ 電話表現1 (基本表現・メモの取り方) (2-2) 第7講 Chapter 4/ 電話表現2 (予定を決める・予定変更をする) (2-1) 第8講 Chapter 4/ 電話表現2 (予定を決める・予定変更をする) (2-2) 第9講 Chapter 5/ 簡単なスピーチ・プレゼンテーション1 (2-1) 第10講 Chapter 5/ 簡単なスピーチ・プレゼンテーション2 (2-2) 第11講 Chapter 6/ ビジターの来日・旅程の確認 (2-1) 第12講 Chapter 6/ ビジターの来日・旅程の確認 (2-2) 第13講 Chapter 7/ プレゼンテーション2・観光のアドバイス (2-1) 第14講 Chapter 7/ プレゼンテーション2・観光のアドバイス (2-2) 第15講 実践練習 (プレゼンテーションまたは電話対応) 定期試験						
テキスト・教材 (参考文献)	テキスト：『Politeness in Business Context』 (三修社) テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。  参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』 (かんき出版)、『英検でる順パス単』 (旺文社) など自分の好きなものでよいです。 辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	適宜、課題と小テストを出します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前学習：小テストの準備と単語学習 (30分)、授業内容の予習 (60分)</li> <li>2 事後学習：課題と単語学習 (30分)、授業内容の復習 (60分)</li> </ol>						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 (授業中のマナーは特に重視します) 60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	毎回、グループワーク・ペアワークを行います。参加しない人は欠席扱いにすることがあります。また課題及び課題に対するフィードバックなどは、課題ごとに指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生参加型の授業です。下手でもいいので、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	ビジネス英語Ⅱ		科目コード	172408	授業コード	412701	
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GSET1008			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	「ビジネス英語Ⅰ」での学びを引き継ぎ、基礎的なレベルの英語で実際のビジネスの場で使える表現や対応について学ぶと共に、自分と異なる文化や考え方をどう受け入れ、どう交渉を進めるかについて重点を置きます。英語を通してフォーマルな場での適切な対応について学びを深め、相手を不快にさせずに自分の意見を伝える手法について考えます。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。</li> <li>2. フォーマルな場で、相手を不快にさせない対応を工夫する。</li> <li>3. 自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を磨く。</li> <li>4. TOEIC(L/R) 450～550点程度に相当する英語力獲得をめざす。</li> </ol>						
授業計画	第1講 ガイダンス Chapter 8/ 採用1 (応募者の条件) (2-1) 第2講 Chapter 8/ 採用1 (応募者の条件) (2-2) 第3講 Chapter 9/ 採用2 (面接の英語) (2-1) 第4講 Chapter 9/ 採用2 (面接の英語) (2-2) 第5講 Chapter 10/ 会議1 (賛成の仕方・司会の表現) (2-1) 第6講 Chapter 10/ 会議1 (賛成の仕方・司会の表現) (2-2) 第7講 Chapter 11/ 会議2 (反対の仕方・緩和表現) (2-1) 第8講 Chapter 11/ 会議2 (反対の仕方・緩和表現) (2-2) 第9講 Chapter 12/ 苦情への対応 (2-1) 第10講 Chapter 12/ 苦情への対応 (2-2) 第11講 Chapter 13/ 謝罪 (2-1) 第12講 Chapter 13/ 謝罪 (2-2) 第13講 Chapter 14/ さまざまな挨拶 (2-1) 第14講 Chapter 14/ さまざまな挨拶 (2-2) 第15講 実践練習 (ビジネスの現場に関連するタスク) 定期試験						
テキスト・教材 (参考文献)	テキスト：『Politeness in Business Context』 (三修社) 【「ビジネス英語Ⅰ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』 (かんき出版)、『英検でる順パス単』 (旺文社) など自分の好きなものでよいです。 辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	適宜、課題と小テストを出します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前学習：小テストの準備と単語学習 (30分)、授業内容の予習 (60分)</li> <li>2 事後学習：課題と単語学習 (30分)、授業内容の復習 (60分)</li> </ol>						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 (授業中のマナーは特に重視します) 60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	毎回、グループワーク・ペアワークを行います。参加しない人は欠席扱いにすることがあります。また課題及び課題に対するフィードバックなどは、課題ごとに指示します。						
実務経験のある教員	民間企業での就業経験があります。						
担当者から一言	ビジネスの現場を想定して、大人としての礼儀を守り、まじめに学習に取り組んでください。授業中のマナーは、評価の際に重視します。						

授業科目名	検定英語 I	科目コード	172409	授業コード	411405
担当教員	武藤 和成	科目ナンバリング	GSET1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	スキル科目ではいずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身につけておきたい即戦力の力となるスキルを修得していきます。				
授業のねらい	検定英語のねらいは、英語の大切な技能（聴く、読む、書く、話す）を「聴く」ことを中心に高め、仕事で、生活の中で使える英語を自分のものに高めることです。毎回、実際に使われる英語に耳を通して触れることによって、自然に、楽しく、無理なく英語を運用する力を高めていきます。「自然に、楽しく、無理なく」を大切に、総合的な英語力を獲得しましょう。				
到達目標	各自のスタートラインによって到達目標は設定されます。半年間のスパンでは、スタートラインから2段階以上向上しているでしょう。1年間のスパンでは、4～5段階は向上すると推測されます。「聴く力」の向上は英語力を高める大きな、強いエネルギーになります。 講座の到達目標としては、(TOEICを例にすると) 500点から800点オーバー（実際には昨年度の受講者は815点でした）となります。				
授業計画	第1講 講座ガイダンス Unit 1 第2講 Unit 2 ～ 第15講 Unit 15  それぞれの講座で 各Unitを完結させます。				
テキスト・教材（参考文献）	使用予定の教材が改訂中ですので、今後指示、指定をします。				
事前・事後学習	語学のマスターには、日々の生活の中で取り組むことが大切です。生活の中で「これ、英語ではどのように表現するのかなあ」という素朴性を大切に、英語の学習を無理のないように、負担にならないように、学びたいという前向きな気持ちと同調して進めて下さい。				
成績評価方法	日常の努力（出席、学習姿勢）が50点、定期試験が50点、総合100点満点で評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業中に指示をします。その指示に従って下さい。しかし、この講座では、特段の課題提出はありません。ほぼすべて、講座（授業）内で完結します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	特段の課題提出はありません。講座（授業）内で解決、完結します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	これまで20年間（20回）ほどイギリス、オーストラリア、ニュージーランドの学校で、英語でどのように生活し、ビジネスをするのかを学んできました。これらの経験を基本にこの講座は展開します。				
担当者から一言	自分のペースで、自分の目標に向けて、無理なく、楽しく、自然に英語力を向上させましょう。				

授業科目名	検定英語Ⅱ	科目コード	172410	授業コード	411804
担当教員	武藤 和成	科目ナンバリング	GSET1010		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	スキル科目では、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	検定英語のねらいは、生活の場面で、とりわけ会社での仕事の場面で実際に活用できる英語力を楽しく、無理なく、そして自然に身につくように高めることです。具体的には、「聴く」力を育成することを通して、「聴く、読む、書く、話す」力が総合的に身に付くようにしていきます。				
到達目標	受講者個人毎のスタート段階を基準にして、半年後には驚くほどの進歩を体感することでしょう。段階としての体感進歩は2段階以上のアップ感ということになると思います。講座としての到達目標は、通常の日常会話にはよく対応でき、仕事での英語では、例えば、外国からのEメール等でのコミュニケーションには問題なく対応ができ、やり取りができるようになることです。数値的に表しますと、例えば、TOEICならば、500点から800点オーバー（815点）が昨年度までにこの講座の受講者が実現してきた到達段階です。各人が自己目標を実現してください。				
授業計画	第1講 ガイダンス 及び テキスト Unit 1 第2講 Unit 2 ~ 第15講 Unit 15				
テキスト・教材（参考文献）	使用予定のテキストが現在改訂中ですので、近日中に明示します。 参考文献として、自分に適した英和辞書、高校生以上を対象とした英文法書（大学受験用でも結構です）を活用下さい。				
事前・事後学習	特に必要ありませんが、語学学習の基本は、「生活の中で学び、身に付ける。」ということになります。日常生活の中で「これは英語だと、どのように表現するのかなあ。」という問題意識を高めて下さい。				
成績評価方法	平常点（出席、学習姿勢）が50点。定期試験が50点。総計100点満点で評価します。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて適宜指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて適宜指示します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	これまで20年間（20回）程、イギリス、ニュージーランド等の学校で、英語をどのように学習し、英語で生活し、ビジネスをするのかという授業に参加してきました。その基本をベースにこの講座は展開します。				
担当者から一言	「習うより慣れよ。」が語学学習の基本です。「楽しく、無理なく、自然に」英語学習を進めることで、実際に使える英語、仕事で役に立つ英語を身に付けましょう。				

授業科目名	メディアツールa	科目コード	172501	授業コード	415403
担当教員	西尾 秀樹	科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illusratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーションカアップを目的としたスキル習得していきます。				
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス</li> <li>2.基本操作（何ができるのか解説）・描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット など）</li> <li>3.色の基本（CMYK/RGB・面と線・グラデーションなど）・選択ツールの使い方</li> <li>4.自由曲線1（ベジェ曲線の基本）</li> <li>5.自由曲線2（描画したパスを編集）</li> <li>6.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成）</li> <li>7.その他ツール（効果・フィルター・整列・パスファインダなど）</li> <li>8.自由曲線3（下絵をトレースして着色）</li> <li>9.Webデータと印刷用データについて</li> <li>10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動）</li> <li>11.デザインデータ作成時の機能活用について</li> <li>12.デザイン・レイアウトの実践（サンプルに基づいてデータ作成）</li> <li>13.オリジナル作品作成1</li> <li>14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成）</li> <li>15.合評会</li> </ol> <p>※今年度は前期金曜2限・3限・4限、後期月曜3限（合計4クラス）に開講します。2年生以上の人が前期に履修する場合はできるだけ前期金曜4限を選択してください。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。				
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。				
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。				
アクティブラーニング	実習を行います。				
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。				
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。				

授業科目名	メディアツールb	科目コード	172502	授業コード	415606
担当教員	西尾 秀樹	科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。				
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス</li> <li>2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど）</li> <li>3.色調整・サイズ調整</li> <li>4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など）</li> <li>5.選択範囲作成1（画像の切り抜き）</li> <li>6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など）</li> <li>7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小</li> <li>8.ペイント・色変換</li> <li>9.文字入力・加工/フィルター・その他ツール</li> <li>10.デザインの実践1（バナーデザインなど）</li> <li>11.デザインの実践2（illustratorとの連動）</li> <li>12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成）</li> <li>13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用）</li> <li>14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成）</li> <li>15.合評会</li> </ol>				
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。				
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 [これ面白い画像だな]とか[どうやって作ったんだろう]という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。				
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。				
アクティブラーニング	実習を行います。				
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。				
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。				



授業科目名	メディアツールc	科目コード	172503	授業コード	414105
担当教員	田中 麻衣	科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。				
到達目標	Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない、初心者が最終的には映像作品を作り上げることを目標としています。				
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：Premiere Pro 「初期設定」 第3回：Premiere Pro 「初期設定のおさらい&基本操作1」 第4回：Premiere Pro 「基本操作2」 第5回：Premiere Pro 「基本操作3」 第6回：Premiere Pro 「応用編1」 第7回：実習1 第8回：実習1 第9回：実習2（企画&撮影） 第10回：実習2（編集） 第11回：実習2（編集） 第12回：最終課題制作（企画） 第13回：最終課題制作（撮影） 第14回：最終課題制作（編集） 第15回：最終課題制作（編集）				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布します。				
事前・事後学習	たくさんの映像作品にふれてもらいたいので、映像作品（映画、CM、ドラマなど）を1日に1作品見ることを準備学習とします。準備学習のレポートを課題として、提出してもらおう機会も設けていきたいと思います。				
成績評価方法	授業の都度に作品を制作してもらいます。各作品の出来栄と授業の出席率、授業への取り組み態度などを総合的に評価し、成績をつけていきたいと思います。				
授業内の課題・提出方法	授業内の課題提出は授業内で、提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは、提出してもらい、直接本人と話しをしながら、提出物へのフィードバックとします。また、教師からだけでなく、同じ授業を受けている仲間からのフィードバックをする場合もあります。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言					

授業科目名	メディアツールd	科目コード	172504	授業コード	412604
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。				
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。				
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス・基礎知識</li> <li>2.コンピュータをつかった音楽制作とは</li> <li>3.音楽の基礎</li> <li>4.ループ音源を組み合わせる1※</li> <li>5.ループ音源を組み合わせる2※</li> <li>6.楽譜を音にする1※</li> <li>7.楽譜を音にする2※</li> <li>8.エフェクトとは</li> <li>9.MixDownとは※</li> <li>10.生音の加工1※</li> <li>11.生音の加工2※</li> <li>12.効果音の世界1※</li> <li>13.効果音の世界2※</li> <li>14.音作品制作1※</li> <li>15.音作品制作2※</li> </ol> <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>				
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。 分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>				
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出</p> <p>授業外では、Moodleやメールを利用。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。</p> <p>質問などのフィードバックは適時行う。</p>				
アクティブラーニング	Mac実習				
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有				
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。</p> <p>共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>				

授業科目名	Webデザインb	科目コード	172506	授業コード	411607
担当教員	堀内 敬弘	科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウイルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。				
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。				
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め</p> <p>第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング</p> <p>第3講 ワイヤフレーム制作①</p> <p>第4講 ワイヤフレーム制作②</p> <p>第5講 デザイン制作①</p> <p>第6講 デザイン制作②</p> <p>第7講 デザイン制作③</p> <p>第8講 デザイン制作④</p> <p>第9講 デザイン制作⑤</p> <p>第10講 デザイン制作⑥</p> <p>第11講 デザイン制作⑦</p> <p>第12講 デザイン制作⑧</p> <p>第13講 デザイン制作⑨</p> <p>第14講 プレゼンテーション準備</p> <p>第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	特になし				
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと</li> <li>・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック</li> </ul>				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30%</li> <li>・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼン力、及びクオリティ・理解度：80%</li> <li>・定期試験：定期試験はありません</li> </ul>				
授業内の課題・提出方法	<p>提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ</p> <p>提出方法：講義時にデータにて提出</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック				
アクティブラーニング	Macを用いた演習				
実務経験のある教員	デザイン会社代表				
担当者から一言	<p>Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。</p> <p>Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。</p>				

授業科目名	Webプログラミングa		科目コード	172507	授業コード	414603	
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GSMD1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。						
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、WWWとWeb 第2講 HTML概要 第3講 画像とリンク 第4講 箇条書き 第5講 表組み 第6講 入力フォーム 第7講 CSS概要 第8講 見出しと段落 第9講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（1） 第14講 Webサイト制作（2） 第15講 Webサイト制作（3）						
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社 ¥2,948（税込）						
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング2」で学習します。						
成績評価方法	<評価> 提出物55%、作品45%						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。						
アクティブラーニング	課題、実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	Webプログラミング b		科目コード	172508	授業コード	413403	
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GSMD1008			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれら进行操作するプログラミングや、CanvasAPIを使用したグラフィック进行操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。						
到達目標	JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。						
授業計画	第1講 ガイダンス Moodle の使用法 第2講 JavaScript を使用した動的なウェブページの例 第3講 アウトプットの基本 第3講 JavaScript の文法と基本的な機能① 第4講 JavaScript の文法と基本的な機能② 第5講 JavaScript の文法と基本的な機能③ 第6講 JavaScript の文法と基本的な機能④ 第7講 インプットとデータの加工① 第8講 インプットとデータの加工② 第9講 一歩進んだテクニック① 第10講 一歩進んだテクニック② 第11講 JQuery入門 第12講 Canvas API ① 第13講 Canvas API ② 第14講 応用課題① 第15講 応用課題② 授業はいずれも P C を用いた実習です。						
テキスト・教材（参考文献）	『確かな力が身につく JavaScript 「超」入門』第二版、狩野 祐東 著、SBクリエイティブ刊、ISBN978-4-8156-0157-7、定価2480円＋税 必要な教材はMoodleでも提示します。						
事前・事後学習	教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developer などのオンライン教材の解説や例を予習（毎週90分）復習として例題をもとに新しいプログラムを自分の力で作る（毎週90分）ことを推奨します。						
成績評価方法	毎回の授業の演習課題（70%）と、授業への参加態度（30%）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム（Moodle）に毎回課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）を通じてフィードバックします。						
アクティブラーニング	ほぼ毎回の課題提出						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「Webプログラミングa」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分からなくなります。また、自分でプログラムを作成しないと身に付きません。						

授業科目名	インターネット論	科目コード	172509	授業コード	413402
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。				
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。				
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります				
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税				
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)				
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%				
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有				
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。				

授業科目名	基礎数学	科目コード	172601	授業コード	413407
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	GSMS1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	研究においては、調査・実験によって得られたデータを解析し、適切にその結果を示すことが求められる。グラフによるデータの可視化や平均値などによるデータの要約は、データを示す方法として非常に一般的かつ有効である。しかし、グラフや代表値には様々な種類があり、収集したデータに不適切なものを使用してしまうと、データの傾向を明確に示すことが出来なかつたり、間違った解釈をすることにつながってしまう。本授業では、記述統計学に重点を置き、収集したデータを適切に表す方法を学ぶ。				
到達目標	(1) 基本統計量について、それぞれの値が持つ性質を理解する。 (2) グラフの作成や統計量の計算ができるようになる。 (3) データに合わせた適切なグラフの作成・基本統計量の計算を行い、データの傾向を正しく読み取ることができるようになる。				
授業計画	1. ガイダンス 2. Excelの基本操作 3. データの集計・値の性質 4. 様々な代表値とその性質 5. データのパラツキと分散、標準偏差 6. グラフ作図の基本操作 7. グラフによるデータの分布・構成の把握（ヒストグラム等） 8. グラフによるデータの比較、関係性・変化の図示（散布図、折れ線グラフ等） 9. 相関係数 10. 回帰分析① 11. 回帰分析② 12. 順列・組み合わせ 13. 確率・条件付き確率 14. 試行と事象、確率分布 15. 実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。				
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社（2000年） 宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣（2015年）				
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）				
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。				
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	データの解析は卒業研究を行うにあたって必須のスキルです。普段の授業においても今後の研究を意識して、積極的に実習等に取り組んでください。				

授業科目名	統計リテラシー	科目コード	172602	授業コード	412403
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	GSMS1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。				
到達目標	MOS Excel の資格試験の準備が整うようにします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ワークシートやブックの作成と管理（1） 第3講 ワークシートやブックの作成と管理（2） 第4講 ワークシートやブックの作成と管理（3） 第5講 セルやセル範囲の作成（1） 第6講 セルやセル範囲の作成（2） 第7講 テーブルの作成 第8講 数式や関数の適用（1） 第9講 数式や関数の適用（2） 第10講 グラフやオブジェクトの作成 第11講 模擬試験演習（1） 第12講 模擬試験演習（2） 第13講 模擬試験演習（3） 第14講 模擬試験演習（4） 第15講 模擬試験演習（5）				
テキスト・教材（参考文献）	土岐順子「MOS攻略問題集Excel 365」 日経BP社 ¥2, 200				
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）				
成績評価方法	毎回の課題（60%）、模擬試験演習（40%）で評価します。定期テストは実施しません。				
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。				
アクティブラーニング	毎回の実習課題提出				
実務経験のある教員					
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。				



授業科目名	確率基礎	科目コード	172603	授業コード	412302
担当教員	金岩 稔	科目ナンバリング	GSMS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この講義では初学者にも分かりやすいように、確率計算の基礎を学んでいただき、統計学の理解への礎とすることを目的としています。				
到達目標	統計学の理解に必要な確率計算を行えるようになること				
授業計画	第1講 ガイダンス、統計学とは 第2講 順列・組み合わせ 第3講 標本空間と事象 第4講 確率 第5講 条件付き確率 第6講 ベイズの公式 第7講 確率変数 第8講 2項分布 第9講 ポアソン分布 第10講 正規分布（1） 第11講 正規分布（2） 第12講 確率分布の期待値（1） 第13講 確率分布の期待値（2） 第14講 確率分布の分散 第15講 まとめと確認課題				
テキスト・教材（参考文献）	参考文献 長谷川勝也 著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社 ¥1,580+税				
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（120分）。				
成績評価方法	最終課題により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。				
授業内の課題・提出方法	講義時間中に掲示、提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。				

授業科目名	微分積分	科目コード	172604	授業コード	415607
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	GSMS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	研究の遂行には、目的に沿った適切なデータのサンプリング、得られたデータの整理と評価、そして、統計学的なデータの解析が必要となります。統計学的手法を適切に用いれば、データの持つ傾向や特性を検証し、得られたデータや結果に関して、統計学的根拠に基づいた判断を下すことができるようになります。この授業では、データのサンプリングから集計、統計的仮説検定等の実行までを実践的に学び、卒業研究に向けてのデータ解析スキルや統計学的な考え方の習得を目指します。				
到達目標	(1) 統計的仮説検定について理解し、実行することができるようになる。 (2) データの特性や目的に沿った解析手法の選択ができるようになる。 (3) 解析結果を適切に評価ができるようになる。				
授業計画	1. ガイダンス 2. 母集団と標本、データのサンプリング 3. サンプリングの実践 4. データサイエンス I 復習：基本統計量の計算・グラフの図示 5. データサイエンス I 復習：確率分布 6. 推測統計学とは 7. 統計的仮説検定の流れと考えた方 8. 統計的仮説検定① 9. 統計的仮説検定② 10. 統計的仮説検定③ 11. 統計的仮説検定④ 12. クラスタ分析 13. 主成分分析 14. まとめ 15. 実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。				
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社（2000年） 宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣（2015年）				
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）				
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。				
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	前期のデータサイエンス I で取り扱う記述統計に関しては概ね理解しているものとして授業を実施します。多少の復習は行いますが、基本的には受講者はデータサイエンス I を履修していることが望ましいです。				

授業科目名	線型代数	科目コード	172605	授業コード	412410
担当教員	金岩 稔	科目ナンバリング	GSMS1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この講義では線形代数の基礎を理解するために一般的な集合と写像の理解からはじめ、ベクトルや行列の性質を理解します。 これらを用いて連立一次方程式の解法の理論化を行います。				
到達目標	集合・写像の理解と、線形代数における関数の理解、ベクトル行列の性質や解法を理解する。				
授業計画	第1講 ガイダンス、線形代数とは 第2講 集合と写像 第3講 数ベクトルと行列 第4講 行列とその演算 第5講 行列とその演算（つづき） 第6講 色々な行列 第7講 逆行列の求め方 第8講 内積と直交行列 第9講 連立方程式の解き方 第10講 平面上の一次変換 第11講 固有値と固有ベクトル 第12講 行列式の展開公式 第13講 行列式の計算法 第14講 行列式の計算法（つづき） 第15講 まとめと最終課題				
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しません。				
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（120分）。				
成績評価方法	最終課題により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。				
授業内の課題・提出方法	講義時間中に掲示・提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleにてフィードバック。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言					

授業科目名	データ統計処理	科目コード	172606	授業コード	411306
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	GSMS1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	現在、自然科学の分野だけでなく、人文/社会科学の分野でも数字データが用いられています。それらの数字データを分析する道具として、統計学が用いられています。特に近年では、ビッグデータと呼ばれる大規模データを統計処理して、社会生活に役立てる試みがさかんに行われています。そのため、統計学はより身近になっており、統計学なくして社会生活が成り立たないと言っても言い過ぎではありません。 この講義では、Excelの関数を用いて大規模なデータに対して統計処理を行う方法と、推定や検定を行う方法についても学びます。				
到達目標	Excelを用いて大規模なデータに対して統計処理ができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、統計学とは 第2講 1次元データの整理 (1) 第3講 1次元データの整理 (2) 第4講 2次元データの整理 (1) 第5講 2次元データの整理 (2) 第6講 確率分布 (1) 第7講 確率分布 (2) 第8講 確率分布 (3) 第9講 推定 (1) 第10講 推定 (2) 第11講 推定 (3) 第12講 検定 (1) 第13講 検定 (2) 第14講 検定 (3) 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材 (参考文献)	<p>&lt;テキスト&gt; 長谷川勝也 「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 ¥1, 738 (税込)</p> <p>&lt;参考文献&gt; 宮川公男 「基礎統計学 第5版」 有斐閣 ¥3, 190 (税込) 「基礎統計学 I 統計学入門」 東京大学出版会 ¥3, 080 (税込)</p>				
事前・事後学習	<p>講義前には前回までの内容を復習しておくこと (60分)。 講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと (120分)。 「基礎数学」「統計リテラシー」「確率基礎」「微分積分」「線形代数」「データ分析の基礎」「統計的分析」を履修していることが望ましい。</p>				
成績評価方法	<評価> 提出物40%、定期試験60%				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で演習課題を行って提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 教育支援システム (Moodle) に提出した課題は、100点満点で採点し、コメントを付加してMoodleを介して返却します。				
アクティブラーニング	課題				
実務経験のある教員					
担当者から一言	学習支援システム (Moodle) を利用します。 積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。				

授業科目名	データ分析の基礎		科目コード	172103	授業コード	411805	
担当教員	田中 伊知郎		科目ナンバリング	GSSR1003			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力選択となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。						
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、疑似相関の概念などを身につけて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講 度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第4講 既存統計資料の読み方と使い方 第5講 量的データと伴って変わる量 第6講 比例と1次関数 第7講 1次関数のグラフの拡張：散布図 第8講 Excelを使つての散布図の作成 第9講 1次関数と相関係数 第10講 Excelを使つての相関係数の求め方 第11講 相関係数の性質 第12講 データの性質の拡張：質的データ 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使つて) 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い：疑似相関と実験計画 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材(参考文献)	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
アクティブラーニング	第2講から第14講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。						
実務経験のある教員	多変量解析の因子分析の論文を国際英文学術誌(査読あり)に発表して、イタリア人が追試しました。京都大学霊長類研究所の研究員の時、大学院生向けの統計の講義を担当しました。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホなど)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。ただし、数学の知識が必要となります。中学校までの数学が苦手な人にはお勧めしません。						

授業科目名	統計的分析	科目コード	172104	授業コード	412303
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GSSR1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力 選 択 となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。				
到達目標	量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの(要因)を見つける力を養います。				
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値・中央値と度数分布の確認 第2講 サンプリング：標本と母集団の関係とヒストグラムの作成 第3講 正規分布：確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得 第4講 正規分布かの検定(Kolmogorov-Smirnov検定) 第5講 平均値の差の検定：二つの正規分布か、同じ分布か：実習 第6講 分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量 第7講 分散分析の実習 第8講 一次関数と相関係数：Excelを使っての求め方 第9講 相関係数の性質と回帰分析 第10講 データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など 第11講 ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合) 第12講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践・ 第13講 クロス集計の実践：質的アンケートと円グラフ 第14講 クロス集計の検定(正確確率検定など) 第15講 クロス集計の検定：実習 定期試験 持ち込み不可				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	第2講から第15講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。				
実務経験のある教員	多変量解析の因子分析の論文を国際英文学術誌(査読あり)に発表して、イタリア人が追試しました。京都大学霊長類研究所の研究員の時、大学院生向けの統計の講義を担当しました。				
担当者から一言	中学校の二次方程式、および、高校1年生の統計の知識を駆使します。数学に向かない方にはお勧めしません。				

授業科目名	データ解析の技法		科目コード	172105	授業コード	415803	
担当教員	古山 歩		科目ナンバリング	GSSR1006			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	現代社会には様々なデータが溢れている。様々なデータを統計的に解析することは非常に重要であり、適切なデータ解析を行えば、物事の傾向や変化に関して一定の根拠に基づいた統計的指標による科学的な判断を下すことが可能になる。本授業ではデータ解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。						
到達目標	(1) データ解析に必要な基礎力を身につける。 (2) 回帰分析をはじめとした主要な解析法について理解する。 (3) 回帰分析をはじめとした主要な解析法を実行し、結果を適切に評価できるようになる。						
授業計画	1. ガイダンス・社会におけるデータ解析の意義 2. エクセル基本操作 3. データの表し方：代表値の種類と特性 4. データの表し方：分散と標準偏差 5. データの表し方：グラフ・ヒストグラム、箱ひげ図、散布図 6. データの表し方：グラフ・折れ線グラフ、円グラフ、その他グラフ 7. 事象の発生確率・確率分布 8. 母集団と標本集団，データのサンプリング 9. 基本統計量の算出とグラフの作成 10. 統計的仮説検定の考え方 11. 統計的仮説検定の実行 12. 回帰分析1 回帰分析の考え方・単回帰の実行 13. 回帰分析2 回帰分析の精度評価 14. 重回帰分析 15. まとめ・実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。						
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし，適宜資料を配布する 参考書：倉田博史著「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA（2017年） 栗原伸一・丸山敦史著「統計学図鑑」オーム社（2018年）						
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）						
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。						
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	データ解析は、社会のあらゆるところで行われています。本講義では様々なデータ解析手法についてパソコンのExcelを用いた実践を通して、解析スキルの習得を目指します。						

授業科目名	環境情報学概論 I		科目コード	371001	授業コード	413301	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EFC1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	環境情報学部での学びへの導入を行い、全貌を概観する。 環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、実習・体験を交えて両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身が学修する専攻の選択に導く。選択した専攻ごとに後学期に実施する環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会にもなる。また、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用する。						
到達目標	環境情報学部、特に環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を知るとともに、今後4年間の学生生活で学ぶ場となる専攻を選択する。						
授業計画	第1講 ガイダンス/学部概要/教員紹介(全専任教員) 第2講 里山と竹林保全(牧田、外部講師) 第3講 竹山保全実習(牧田、外部講師) 第4講 アプリ開発/北勢地域の野生動物(片山、野呂) 第5講 スタジオツアー(足立、黒田、前川、柳澤、柳瀬) 第6講 地域農業と環境/光と表現(廣住、黒田) 第7講 上級生の活動報告・スペシャリスト育成プログラム紹介(演習担当教員) 第8講 海洋のプラスチック問題/メディアと情報の融合(大八木、柳澤) 第9講 映像の世界/プランクトンの世界(柳瀬、牧田) 第10講 海生哺乳類/AI深層学習(古山、片山) 第11講 録音シミュレーション/外来生物問題(足立、野呂) 第12講 水環境/専攻選択(大八木、前川) 第13講 講話①/講話②(池田、田中) 第14講 講話③/講話④(千葉、青木) 第15講 講話⑤/講話⑥(樋口、鬼頭) (内容・順序を変更することがあります)						
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください(180分)。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートなどを課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは前川(6号館6418)です。						



授業科目名	環境情報学概論Ⅱ		科目コード	371002	授業コード	413702	
担当教員	田中 伊知郎		科目ナンバリング	EFC1002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>						
授業のねらい	基礎演習への導入として、自然環境分野についての知見を深める。						
到達目標	自然科学の研究内容の基礎を知り、各研究室の研究手法について理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス：詳しいスケジュールの説明（田中）以下()内が担当教員 第2講 自然科学の研究方法(IMRD)と再現性（田中） 第3講 自然科学の発表方法(統計検定)と客観性（田中） 第4講 統計検定の実習（田中） 第5講 地域資源を農業に活かす取り組み1（廣住） 第6講 地域資源を農業に活かす取り組み2（廣住） 第7講 伊勢湾とマイクロプラスチック（大八木） 第8講 四日市周辺の陸水環境（大八木） 第9講 地域の生物多様性モニタリング（野呂） 第10講 北勢地域の野生動物（野呂） 第11講 三重県周辺海域の鯨類（古山） 第12講 大学周辺の里山環境（千葉） 第13講 湖沼と水田のプランクトン1（牧田） 第14講 湖沼と水田のプランクトン2（牧田） 第15講 まとめと基礎演習の進め方（田中） 第5講から第14講まで担当教員と内容を、ガイダンスで案内します。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義でとったノートの見返しと、与えられた課題に取り組むこと（180分）。						
成績評価方法	授業のノートを取り、また与えられた課題に取り組み、提出する（90%）。これを各回の担当教員が採点し（6点/回）、フィードバックを行う。授業への取り組み姿勢などを考慮して採点（10%）する。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐに提出できない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出する。						
アクティブラーニング	統計実習は野外観察の結果をパソコンでレポートにまとめ、野外実習も行います。						
実務経験のある教員	オムニバス講義なので、割愛します。						
担当者から一言	自然環境分野の教員や学生たちが行った具体的な環境情報学を学ぶことができる授業です。必ず参加してください。						

授業科目名	環境情報学概論 I		科目コード	371001	授業コード	413301	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EFC1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	23DP環1						
授業のねらい	環境情報学部での学びへの導入を行い、全貌を概観する。 環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、実習・体験を交えて両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身が学修する専攻の選択に導く。選択した専攻ごとに後学期に実施する環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会にもなる。また、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用する。						
到達目標	環境情報学部、特に環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を知るとともに、今後4年間の学生生活で学ぶ場となる専攻を選択する。						
授業計画	第1講 ガイダンス/学部概要/教員紹介(全専任教員) 第2講 里山と竹林保全(牧田、外部講師) 第3講 竹山保全実習(牧田、外部講師) 第4講 アプリ開発/北勢地域の野生動物(片山、野呂) 第5講 スタジオツアー(足立、黒田、前川、柳澤、柳瀬) 第6講 地域農業と環境/光と表現(廣住、黒田) 第7講 上級生の活動報告・スペシャリスト育成プログラム紹介(演習担当教員) 第8講 海洋のプラスチック問題/メディアと情報の融合(大八木、柳澤) 第9講 映像の世界/プランクトンの世界(柳瀬、牧田) 第10講 海生哺乳類/AI深層学習(古山、片山) 第11講 録音シミュレーション/外来生物問題(足立、野呂) 第12講 水環境/専攻選択(大八木、前川) 第13講 講話①/講話②(池田、田中) 第14講 講話③/講話④(千葉、青木) 第15講 講話⑤/講話⑥(樋口、鬼頭) (内容・順序を変更することがあります)						
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください(180分)。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートなどを課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは前川(6号館6418)です。						

授業科目名	四日市公害論		科目コード	371003	授業コード	416501	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	EFC2001			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。</li> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・地域の持続的発展のために貢献できる。</li> </ul>						
授業のねらい	四日市市は、四日市ぜんそくを引き起こした都市環境問題と、その対策と改善について、深く経験してきました。その観点から四日市市は、都市環境学を学ぶうえで、全国的にも象徴的な都市ということが出来ます。本講義では、都市部の環境問題、エネルギー、都市計画など、現代社会における都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修します。						
到達目標	本講義では、環境問題、特に都市環境に関する専門知識や技術を習得するとともに、都市環境問題の社会的課題や特徴について学修していきます。具体的には、現代社会における都市部の大気環境、水環境をはじめ、エネルギーシステム、廃棄物処理など、都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修し、さらに防災やインフラストラクチャーの整備、まちづくりについての理解を深めます。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  第2講 都市環境とは  第3講 都市の大気と気候  第4講 都市災害  第5講 都市環境のモニタリング  第6講 都市のインフラストラクチャー  第7講 都市のエネルギー供給システム  第8講 都市の水供給システム  第9講 都市の廃棄物処理システム  第10講 都市環境計画とまちづくり  第11講 施設見学1  第12講 施設見学2  第13講 施設見学3  第14講 グループワーク  第15講 まとめ</p> <p>2024年11～12月の週末(土日)を中心に、四日市市内の公共環境保全施設、環境学習施設での開講を予定しています。基本的に開講場所での現地集合、現地解散となります。開講場所の中には、交通不便地も含まれています。若干の交通費や、あるいは交通手段が必要になる場合があります。</p> <p>現時点では、2024年11月30日(土)、2024年12月8日(日)、2024年12月15日(日)、2024年12月24日(火)での開講を予定していますが、開講日時、開講場所は変更になる場合がありますので、確定後、2024年10月上旬頃までに、履修登録者に対してMoodleかUNIPAでアナウンスします。</p>						
テキスト・教材(参考文献)	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い(90分)、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください(90分)。						
成績評価方法	小テスト 5点×8回=40点 レポート課題 20点×3回=60点 計100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行います。また、レポート課題については、提出内容について、必要に応じてMoodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、環境保全施設の見学等により、実際に都市環境の維持が行われている現場を間近に体験したり、これらに関するグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、都市環境のマネジメントに関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、都市環境の維持に必要な環境保全施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	371101	授業コード	413207
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	ESS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人でも作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページはHTMLで構造を記述され、スタイルシートでレイアウトやデザインが記述されています。さらにインタラクティブ性を持たせるためにJavaScriptが使用されています。 この演習では、電卓アプリやカレンダーアプリ制作を通し、機能実現のためのアルゴリズムを考え、HTML、スタイルシート、JavaScriptを用いてプログラミングすることでその機能を実現できるようにします。				
到達目標	①アルゴリズムを考えることができる ②HTMLタグ、スタイルシート、JavaScriptを使って機能を実現できる				
授業計画	第1講 ガイダンス、HTML (1) 第2講 HTML (2) 第3講 HTML (3) 第4講 スタイルシート (1) 第5講 スタイルシート (2) 第6講 スタイルシート (3) 第7講 JavaScript (1) 第8講 JavaScript (2) 第9講 JavaScript (3) 第10講 電卓アプリ制作 (1) 第11講 電卓アプリ制作 (2) 第12講 電卓アプリ制作 (3) 第13講 カレンダーアプリ制作 (1) 第14講 カレンダーアプリ制作 (2) 第15講 カレンダーアプリ制作 (3)				
テキスト・教材 (参考文献)	<テキスト> なし (必要に応じて配布します) <参考文献> 赤 間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社 ¥2,948 (税込)				
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること (60分) 講義後には、学習した内容を十分に復習すること (120分)				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や提出などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 完成した作成したソースプログラムをMoodleに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。				
アクティブラーニング	課題、実習、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	アルゴリズムを考えることは、プログラミングでは最重要事項で、卒業研究においてアプリ作成やAI研究のために必要です。多くの経験を通してしか身につかないため、根気が要る地味な作業ですが、興味深いアプリ制作で楽しめる演習になるように目指します。				

授業科目名	基礎演習 a		科目コード	371101	授業コード	413208	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	ESS2001			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	環境情報学部の「メディア表現領域」には、映像・音響・照明の研究室に加えて「情報技術領域」との境界となるデジタルコンテンツ研究室が存在します。1年次に「メディア表現領域」を選択した学生が各研究室の担当教員からオムニバス形式でそれぞれの基礎を学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像・音響・照明・デジタルコンテンツ制作に関する基礎知識を身につける。</li> <li>・仲間と建設的なコミュニケーションをとりながら制作に向き合うことができる。</li> </ul>						
授業計画	第1講 ガイダンス～映像1「映像作品ができるまで」 第2講 映像2「作品鑑賞」 第3講 映像3「業界用語の基礎知識」 第4講 映像4「企画を立てよう」 第5講 ガイダンス～音響1「出力系システムのセッティング・調整」 第6講 音響2「入力系のセッティング・チェック方法」 第7講 音響3「楽器の知識とマイキング」 第8講 音響4「マルチトラックデータのミックスダウン」 第9講 ガイダンス～照明1「演出と光」 第10講 照明2「スタジオ照明設備～安全講習」 第11講 照明3「機材の取り扱い方」 第12講 照明4「照明ネットワーク構築について」 第13講 デジタルコンテンツ1「メディアとコンピュータの関係性」 第14講 デジタルコンテンツ2「3Dモデリング①」 第15講 デジタルコンテンツ3「3Dモデリング②」						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク						
実務経験のある教員	メディア業界で経験を積んだ教員によるオムニバス講義です。それぞれの研究領域に関する知識や技術の基礎を指導します。						
担当者から一言	スタジオでの実習は、怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。詳細については、第1回目のガイダンスで説明します。						

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	371101	授業コード	413210
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	ESS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は3クラスに分かれ、3人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の5項目は、基礎演習 a と b を通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文講読、④野外調査・実験実習、⑤データ処理（表、グラフの作成）。</p>				
到達目標	<p>記録をつけることを習慣化する。表・グラフ等のデータ整理の方法を身につける。調査地・実験方法などの作図ができる。科学論文・レポートの形式を学び、作成できる。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、野外での土壌調査（廣住）  第2講 調査方法のまとめ方（廣住）  第3講 調査データの整理（廣住）  第4講 調査結果に基づく考察の書き方（廣住）  第5講 調査報告書のまとめ方（廣住）  第6講 科学論文の構成（牧田）  第7講 科学論文の読み方（牧田）  第8講 科学論文の検索方法（牧田）  第9講 引用の仕方（研究倫理）（牧田）  第10講 参考文献のまとめ方（牧田）  第11講 生物多様性モニタリングとその意義（野呂）  第12講 身近な自然の生物調査（野呂）  第13講 種の同定と標本の作製（野呂）  第14講 生物リストの作成とその評価（野呂）  第15講 調査結果のまとめとレポート作成（野呂）</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。</p>				
事前・事後学習	<p>授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。</p>				
アクティブラーニング	<p>フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>基礎演習では受講生を3クラスにわけて授業を行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。</p>				

授業科目名	基礎演習 b	科目コード	371102	授業コード	413607
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人でも作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページの中にはデータベースと連携することでウェブサービスを提供しているものがあります。 この講義では、データベースの操作と、PHPを用いてHTML文書を生成することと、PHPを用いてデータベースを操作することを学びます。				
到達目標	PHPとデータベースを連携したアプリを作成できる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、復習（1） 第2講 復習（2） 第3講 PHP（1） 第4講 PHP（2） 第5講 PHP（3） 第6講 日記アプリ制作（1） 第7講 日記アプリ制作（2） 第8講 データベース（1） 第9講 データベース（2） 第10講 PHPでのデータベース操作（1） 第11講 PHPでのデータベース操作（2） 第12講 日記アプリ制作（3） 第13講 日記アプリ制作（4） 第14講 日記アプリ制作（5） 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト>なし（必要に応じて配布します）				
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）				
成績評価方法	<評価> 授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 完成した作成したソースプログラムをMoodleに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。				
アクティブラーニング	課題、実習、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。				

授業科目名	基礎演習 b		科目コード	371102	授業コード	413608	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	ESS2002			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	次年度（3年）の専門演習からは各研究室に分かれ、自らの力で研究や作品制作を進めていく必要があります。本講義では、各個人が次の段階に進むために必要な技術の応用方法や知識を磨きつつ、自分自身の探求心と向き合います。						
到達目標	「映像・音響・照明・デジタルコンテンツ」に関する作品制作や研究に必要となる知識や技術を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス～音響1「出力系システムのセッティング・調整」 第2講 照明1「図面の読み方～機材セッティング1」 第3講 音響2「入力系のセッティング・チェック方法」 第4講 照明2「機材セッティング2」 第5講 音響3「楽器の知識とマイキング」 第6講 照明3「学祭の振り返り」 第7講 音響4「マルチトラックデータのミックスダウン」 第8講 照明4「研究と制作について」 第9講 映像1「撮影演習①」 第10講 映像2「撮影演習②」 第11講 映像3「編集演習①」 第12講 映像4「編集演習②」 第13講 デジタルコンテンツ1「実写と3DCG①」 ※研究室配属希望の面談あり 第14講 デジタルコンテンツ2「実写と3DCG②」 第15講 デジタルコンテンツ3「作品講評/まとめ・配属希望提出」						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニツッパーパーを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク						
実務経験のある教員	メディア業界で経験を積んだ教員によるオムニバス講義です。それぞれの研究領域に関する知識や技術を指導します。						
担当者から一言	スタジオでの実習は、怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。詳細については、第1回目のガイダンスで説明します。						



授業科目名	基礎演習 b	科目コード	371102	授業コード	413610
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は3クラスに分かれ、3人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の5項目は、基礎演習 a と b を通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文講読、④野外調査・実験実習、⑤データ処理（表、グラフの作成）。</p>				
到達目標	<p>記録をつけることを習慣化する。測定したデータの正しい取り扱いや計算の方法を学ぶ。表やグラフを用いた適切な結果のまとめ方を学ぶ。学術的なプレゼンテーションの方法を学び、習得する。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、実験室の使い方（廣住）  第2講 農作物の品質測定（廣住）  第3講 有効数字と実験データの計算（廣住）  第4講 表計算ソフトによる実験データの計算（廣住）  第5講 表やグラフによる実験データのまとめ方（廣住）  第6講 水質データ分析（大八木）  第7講 水質データのまとめ（大八木）  第8講 文献検索（大八木）  第9講 プレゼンテーション作成（大八木）  第10講 プレゼンテーション発表（大八木）  第11講 野生動物の調査手法と野外調査の心得（野呂）  第12講 センサーカメラの設置（野呂）  第13講 センサーカメラのデータ回収（野呂）  第14講 データの整理（野呂）  第15講 報告書の作成（野呂）</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。</p>				
事前・事後学習	<p>授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。</p>				
アクティブラーニング	<p>フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>基礎演習では受講生を3クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。</p>				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	412306
担当教員	足立 明信	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	社会で活用されている音響の技術を知り、創造的なコンテンツの制作、またはその制作に役立つ技術を学ぶ。 掘り下げる対象となる技術と出会い、それを習得するための課題の発見と解決能力を高める。 学んだ技術が社会で、どう活用をされているか理解する。				
到達目標	深く掘り下げる対象に出会い、自律的に学習することが出来る。				
授業計画	第1講 ガイダンス、ゼミの進め方 第2講 音響測定技術(FFT, RTA, IR計測) 第3講 音響測定技術(音響システムの評価・調整) 第4講 アクティブノイズキャンセリング 第5講 指向性制御技術 第6講 立体音響技術1 第7講 立体音響技術2 第8講 バイノーラル録音 第9講 室内音響シミュレーション1 第10講 室内音響シミュレーション2 第11講 音響実験1 第12講 音響実験2 第13講 スタジオ録音実習1 第14講 スタジオ録音実習2 第15講 スタジオ録音実習3 ※題材にするトピックは、フレキシブルに時流を反映する方針である為、変更する可能性があります。				
テキスト・教材（参考文献）	特に指定なし。				
事前・事後学習	日常生活においても、音の技術の活用について意識する。 各トピック毎にレポート課題を出します。 ※スタジオでの実習では機器を扱いますので、スリッパでの参加は禁止します。必ず、室内シューズ（出来れば安全靴）を用意すること。				
成績評価方法	レポート課題・提出作品・授業や課外活動への取り組みの姿勢・出席状況を総合的に評価。 ゼミ下級生への指導や上級生の卒業制作の補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。 原則4回以上欠席した場合は単位は認定しない。				
授業内の課題・提出方法	Moodle・クラウドドライブ・その他記録メディアで提出。随時指定する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は講義内で行うものとする。 解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。				
アクティブラーニング	実習				
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、レコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務も行っているためIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。				
担当者から一言	強い興味を持つ対象に出会えると良いと思います。				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	412307
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。専門技術者に求められる倫理観を身につけている。				
授業のねらい	調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。				
到達目標	本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。				
授業計画	第1回 ガイダンス、 第2回 水圏関連文献（邦文）検索 第3回 水圏関連文献（邦文）講読 第4回 水圏関連文献（邦文）発表 第5回 研究・調査進捗中間報告会 第6回 卒論研究テーマに関する文献検索 第7回 卒業研究テーマに関する文献講読 第8回 卒業研究テーマに関する文献発表 第9回 フィールドワーク（施設見学） 第10回 施設見学のまとめ、プレゼン 第11回 フィールドワーク（調査地見学） 第12回 調査地見学のまとめ、プレゼン 第13回 卒業研究対象地の概要まとめ 第14回 卒業研究ポスター作製 第15回 研究・調査進捗報告会② 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布				
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	受講態度50%、レポート50%。				
授業内の課題・提出方法	moodleで提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは採点后、返却する。				
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	化学分析及びデータ分析は責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	412108
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められている倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信が出来る。				
授業のねらい	自学自習で課題に取り組むことで、卒業制作・卒業研究に向けて、スマホアプリ制作やAI研究を遂行できる力を身につけます。				
到達目標	①アプリ制作やAI研究の流れを身につける ②アプリ制作やAI研究で使うツールの使い方を身につける				
授業計画	第1講 ガイダンス、制作・研究分野選択 第2講 自学自習 第3講 自学自習 第4講 自学自習 第5講 自学自習 第6講 自学自習 第7講 自学自習 第8講 自学自習 第9講 自学自習 第10講 自学自習 第11講 発表準備 第12講 発表準備 第13講 ゼミ内発表（1） 第14講 ゼミ内発表（2） 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト>なし（必要に応じて指示または配布します）				
事前・事後学習	講義後には、学習した内容を十分に復習すること（180分）				
成績評価方法	課題への取り組み姿勢や進捗状況などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で課題に取り組んでもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。				
アクティブラーニング	実習、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	プログラミングはバグやアルゴリズムで悩んだ経験をすればするほど上達します。ゼミの時間だけでなく、時間を作り課題に取り組んでください。 積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	415308
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>				
授業のねらい	<p>チームで目標や目的をプロジェクト化し、課題解決に向けて取り組みます。意義の設定から計画の立案、そしてタスクの割り振りから実行までをチームで協力して自分たちの力で完結できるようになることを目指します。技術的な習得としては、照明コンソールを使用し、照明表現の幅を広げることを目指します。本講義は、専門演習 b に向けた基礎づくりとなります。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトに関する計画立案ができ、計画通り実行することができる。</li> <li>・チーム運営では、仲間と適切なコミュニケーションがとれる。</li> <li>・基本的な照明コンソールの使用方法が理解できる。</li> </ul>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、授業の概要  第2講 プロジェクトに関する計画立案 1  第3講 プロジェクトに関する計画立案 2  第4講 発表～修正  第5講 制作・研究（グループワーク）  第6講 制作・研究（グループワーク）  第7講 制作・研究（グループワーク）  第8講 チェック～修正  第9講 制作・研究（グループワーク）  第10講 制作・研究（グループワーク）  第11講 制作・研究（グループワーク）  第12講 制作・研究（グループワーク）  第13講 中間発表  第14講 後期に向けた計画立案  第15講 まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	<p>毎回、講義の最後に課題を提示します。  予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。  復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。</p>				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク				
実務経験のある教員	照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。				
担当者から一言	知識や技術を積み重ねながらグループワークで進めていきますので、講義は休まないで下さい。講義内の発言や質問など、積極的な参加を期待しています。				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	415204
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。				
授業のねらい	生物多様性を把握するための多様な調査手法や標本などの記録に残す方法を学び、調査研究を進める上での基礎となる技術を身につける。				
到達目標	自身の研究対象やテーマを定め、調査手法の検討や調査地を選定し、事前準備などを通して実際に調査計画を立てる。目的に沿って調査と分析を実施し、結果をまとめる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究目的の明確化、研究テーマを考える 第3講 事前の情報収集（文献およびインターネットによる検索） 第4講 調査計画の作成 第5講 調査機器や調査票の事前準備 第6講 フィールドワーク① ルートセンサスによる生物調査 第7講 フィールドワーク② ルートセンサスによる生物調査 第8講 データの整理と報告書の作成 第9講 なごや生物多様性センター見学* 第10講 フィールドワーク③ ため池における生物調査 第11講 フィールドワーク④ ため池における生物調査 第12講 データの整理と報告書の作成 第13講 フィールドワーク⑤ 音声によるコウモリ類調査 第14講 データの整理と報告書の作成 第15講 調査結果のまとめ フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。 *見学先と調整の上、別日に実施します。				
テキスト・教材（参考文献）	プリントおよび関連資料を配布します。参考図書：「ミシシippアカミミガメ防除マニュアル（日本カメ自然誌研究会監修）なごや生物多様性保全活動協議会」、「ため池と水田の生き物図鑑 動物編（近藤繁生ら）トンボ出版」など				
事前・事後学習	日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください（1日平均20分）。演習の後は、内容についての振り返りを行ってください（毎週40分）。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。				
成績評価方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します（100%）。				
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	野生動物の調査では対象とする動物だけではなく、その動物が生活する生息環境を知ることが大切です。日頃から観察する目を養ってください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	412109
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>土壌の性質を把握するための土壌断面調査および基本的物理性の測定法を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>土壌調査を計画し、実施することができる。土壌の基本的物理性を測定することができる。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、土壌調査法の解説  第2講 土壌調査の計画立案  第3講 土壌調査の実施  第4講 三相分布① 乾熱法  第5講 三相分布② 結果のまとめ  第6講 土粒子密度① 土粒子の密度試験  第7講 土粒子密度② 結果のまとめ  第8講 粒度分布① 篩別法  第9講 粒度分布② 沈降法  第10講 粒度分布③ 結果のまとめ  第11講 飽和透水係数① 変水位透水試験  第12講 飽和透水係数② 結果のまとめ  第13講 土壌有機物① 強熱減量試験  第14講 土壌有機物② 結果のまとめ  第15講 土壌調査結果のまとめ  調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>なし。必要に応じて資料を配布する。  参考文献：日本ペドロジー学会編「土壌調査ハンドブック改訂版」博友社(1997年)、地盤工学会編「土質試験—基本と手引き—第二回改訂版」丸善(2010年)、宮崎毅・西村拓編「土壌物理実験法」東京大学出版会(2011年)</p>				
事前・事後学習	<p>調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめた報告書を作成する(90分)。</p>				
成績評価方法	<p>調査および各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめた報告書などをもとに総合的に評価する(100%)。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>各講で実施した調査および分析の結果をまとめた報告書を作成する。作成した報告書は印刷し、次講開始時に提出する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>提出された報告書は添削し、次講開始時に返却する。</p>				
アクティブラーニング	<p>フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>野外での調査や実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。調査では長靴・作業服、実験では白衣を必ず着用してください。</p>				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	414202
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。				
授業のねらい	海生哺乳類をはじめとした水生脊椎動物についての基礎的な知識を学ぶとともに、先行研究の紹介を通して、水生脊椎動物の研究を行うにあたっての倫理観や科学的な思考の習得を目指します。				
到達目標	(1) 水圏における脊椎動物に関して基礎的な知識を身につける。 (2) 科学論文の検索方法や読み方を身につけ、自ら情報収集ができるようになる。 (3) 興味のある生物・分野を明確化する。				
授業計画	1. ガイダンス・ゼミの実施方法に関する説明 2. 海生哺乳類の種類と分類 3. 鯨類の形態的特徴 4. 鯨類の生理・生態的特徴 5. 海生哺乳類等希少動物の法令上の取り扱い 6. 水生脊椎動物の生態研究：年齢と成長 7. 水生脊椎動物の生態研究：食性 8. 水生脊椎動物の生態研究：その他 9. 先行研究・文献の調べ方と読み方 10. 研究事例の紹介① 11. 研究事例の紹介② 12. 研究事例の紹介③ 13. 研究事例の紹介④ 14. 研究事例の紹介⑤ 15. まとめ 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。				
テキスト・教材（参考文献）	なし。参考文献は適宜提示する。				
事前・事後学習	予習：興味のある生物や分野について文献やインターネット等で調べる（30分） 復習：授業で出された課題の実施（60分）				
成績評価方法	ゼミでの聴講態度や質問、発表やレポートの内容等に基づいて総合的に評価する（100%）				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて適宜指示する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表やレポートに関して授業内でコメントをするほか、必要に応じて添削したものをMoodle等を利用して返却する。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	本ゼミで取り扱う生物は、法令によって取り扱いに制限があるものも多く、気軽に調査・研究できるものではありません。研究には必要十分な知識と綿密な計画が必要であり、知識や計画が疎かであれば研究を開始できないこともありえます。緊張感をもって積極的に授業に参加してください。				



授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	412308
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている				
授業のねらい	実環境としてサイバー空間でメディア情報を制御するための専門的な活性の構築をめざします。 基礎演習での成果をふまえ、対象を見る力、ものをつくる力、メッセージを伝える力、メディアを操る技術をより深め、広げていきます。 また、より本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。				
到達目標	各個で目標を定めて、アプローチを探索するとともに自学自習を開始する。				
授業計画	第1講 ガイダンス/面談 第2講 目標提案/面談 第3講 目標設定/面談 第4講 アプローチ探索/面談 第5講 アプローチ探索/面談 第6講 アプローチ探索/面談 第7講 自学自習/面談 第8講 自学自習/面談 第9講 自学自習/面談 第10講 見直し/面談 第11講 自学自習/面談 第12講 自学自習/面談 第13講 自学自習/面談 第14講 進捗発表 第15講 面談 (各自の方向性・進捗にあわせて異なります) 制作した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。				
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。				
事前・事後学習	試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましよう(180分)。 夏休みに課題を出します。				
成績評価方法	定期試験を行いません。 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。 毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。				
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。				
アクティブラーニング	各自の主体的な目標設定と試行錯誤				
実務経験のある教員					
担当者から一言	広く深く探求してください。 後輩の指導に関与してもら場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。				

授業科目名	専門演習 a	科目コード	371103	授業コード	415203
担当教員	牧田 直子	科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>専門演習aでは、基礎演習で習得した実験技術や知識などを基盤とし、野外調査やプランクトンの観察と分類、結果のまとめ方を練習する。実践を繰り返すことにより、顕微鏡操作や分類、記録の取り方、まとめ方を身につけることが目標である。また、学術論文を輪読し、プランクトン研究について学びながら、卒業研究のテーマを決め、卒業研究の研究計画を立てる。</p>				
到達目標	<p>「自主的に実習に取り組める」  自分で考え、積極的に実習を進めよう。  「実習の記録を取り、報告する習慣をつける」  実習をしたらその日のうちに記録し、報告する習慣を身につけよう。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンスと図鑑の見方  第2講 野外調査の準備と練習（ピオトープ）  第3講 溜池でのプランクトン採集（フィールドワーク）  第4講 水田でのプランクトン採集（フィールドワーク）  第5講 プランクトンの観察と分類方法  第6講 溜池のプランクトンの分類実習  第7講 水田のプランクトンの分類実習  第8講 分類結果のまとめ方  第9講 結果の文章の書き方  第10講 付着藻類の観察準備  第11講 付着藻類の観察  第12講 プランクトンの計数方法  第13講 研究倫理  第14講 プランクトンの分類報告  第15講 野外調査のまとめと今後の研究計画</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑 [第2版]」名古屋大学出版会（2022年）  定価：11,000円（税込）  適宜、プリントを配布する。</p>				
事前・事後学習	<p>(1) 毎日図鑑を見て、プランクトンの図と学名に慣れる（60分以上）。  (2) プランクトンを分類し、結果をノートや表にまとめる（90分以上）。  (3) レポートは実習と平行して、書ける部分から書き進めておく（30分）。</p>				
成績評価方法	<p>実験ノート（実習の記録）：75%、課題：15%、レポート：10%  実験ノートは毎回確認し、評価する。課題は3回課し、取り組みを評価する。レポートは減点方式で採点する。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>(1) 実験ノート：フィールドワーク、実験方法、実習、学名の書き方等、授業でやったことや自習したことは全て実験ノートに書き込む。  提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。  (2) 課題：プランクトンに関する課題を課す。実験ノートに書き込む、印刷物を提出する等、課題によって指示する。  提出方法-授業中に提出する。  (3) レポート：プランクトン採集と分類結果についてまとめたレポートを作成する。  提出方法-印刷して授業中に提出する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。  (2) 課題：授業中に添削もしくは解答例を示す。  (3) レポート：完成までに最低3回は添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。</p>				
アクティブラーニング	<p>実験・実習、フィールドワーク、ディスカッション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>必ず実験ノートを用意してください。実習や学習した内容は、すべて実験ノートに記録しましょう。</p>				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	412408
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている				
授業のねらい	これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。				
到達目標	卒業制作・卒業研究の中間レポートを仕上げ、発表する。				
授業計画	第1講 ガイダンス/卒業制作・卒業研究の目標を設定 第2講 卒業制作・卒業研究 第3講 卒業制作・卒業研究/4月期総括・見直し 第4講 卒業制作・卒業研究 第5講 卒業制作・卒業研究 第6講 卒業制作・卒業研究 第7講 卒業制作・卒業研究/5月期総括・見直し 第8講 卒業制作・卒業研究 第9講 卒業制作・卒業研究 第10講 卒業制作・卒業研究 第11講 卒業制作・卒業研究/6月期総括・見直し 第12講 卒業制作・卒業研究 第13講 卒業制作・卒業研究 第14講 中間発表/中間レポート提出 第15講 夏休み・後期に向けて面談 (7月末に卒業制作・卒業研究の中間レポートを提出)				
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。				
事前・事後学習	授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。				
成績評価方法	卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および進捗状況を総合的に評価します。定期試験を行いません。				
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。				
アクティブラーニング	各自の主體的な目標設定と試行錯誤				
実務経験のある教員					
担当者から一言	前期でどこまで到達できるかが勝負です。頑張ってください。				

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	412703
担当教員	足立 明信	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	社会で活用されている音響の技術を知り、創造的なコンテンツの制作、またはその制作に役立つ技術を学ぶ。 掘り下げる対象となる技術と出会い、それを習得するための課題の発見と解決能力を高める。 学んだ技術が社会で、どう活用をされているか理解する。				
到達目標	深く掘り下げる対象に出会い、自律的に学習することが出来る。				
授業計画	第1講 ガイダンス、ゼミの進め方 第2講 ProTools実習1 第3講 ProTools実習2 第4講 ProTools実習3 第5講 ProTools実習4 第6講 ProTools実習5 第7講 その他のDAWの種類 第8講 スタジオ録音実習1 第9講 スタジオ録音実習2 第10講 スタジオ録音実習3 第11講 音響解析1 第12講 音響解析2 第13講 音響解析3 第14講 音響解析4 第15講 音の心理評価方法 ※題材にするトピックは、フレキシブルに時流を反映する方針である為、変更する可能性があります。				
テキスト・教材（参考文献）	特に指定なし。				
事前・事後学習	日常生活においても、音の技術の活用について意識する。 各トピック毎にレポートや制作の課題を出します。 ※スタジオでの実習では機器を扱いますので、スリッパでの参加は禁止します。必ず、室内シューズ（出来れば安全靴）を用意すること。				
成績評価方法	レポート課題・提出作品・授業や課外活動への取り組みの姿勢・出席状況を総合的に評価。 ゼミ下級生への指導や上級生の卒業制作の補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。 原則4回以上欠席した場合は単位は認定しない。				
授業内の課題・提出方法	Moodle・クラウドドライブ・その他記録メディアで提出。随時指定する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は講義内で行うものとする。 解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。				
アクティブラーニング	実習				
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、ライブレコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務もしているのでIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。				
担当者から一言	強い興味を持つ対象に出会えると良いと思います。				

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	412704
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。専門技術者に求められる倫理観を身につけている。				
授業のねらい	調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。				
到達目標	本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。				
授業計画	第1回 ガイダンス、 第2回 水圏関連文献（邦文）検索 第3回 水圏関連文献（邦文）講読 第4回 水圏関連文献（邦文）発表 第5回 研究・調査進捗中間報告会 第6回 卒論研究テーマに関する文献検索 第7回 卒業研究テーマに関する文献講読 第8回 卒業研究テーマに関する文献発表 第9回 フィールドワーク（施設見学） 第10回 施設見学のまとめ、プレゼン 第11回 フィールドワーク（調査地見学） 第12回 調査地見学のまとめ、プレゼン 第13回 卒業研究対象地の概要まとめ 第14回 卒業研究ポスター作製 第15回 研究・調査進捗報告会② 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布				
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	受講態度50%，レポート50%				
授業内の課題・提出方法	moodleを利用して提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは添削して、本人に個別返却時に解説を行う。				
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	分析には責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。				

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	412507
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められている倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信が出来る。				
授業のねらい	自学自習で課題に取り組むことで、卒業制作・卒業研究に向けて、スマホアプリ制作やAI研究を遂行できる力を身につけます。 また、卒業研究・制作のテーマを決めるために調査をしたり、テーマ決定後には研究・制作に向けた準備をします。				
到達目標	①アプリ制作やAI研究の流れを身につける ②アプリ制作やAI研究で使うツールの使い方を身につける ③卒業研究・制作のテーマを決定する				
授業計画	第1講 ガイダンス、自学自習 第2講 自学自習 第3講 自学自習 第4講 自学自習 第5講 自学自習 第6講 自学自習 第7講 自学自習 第8講 ゼミ内発表（1） 第9講 ゼミ内発表（2） 第10講 自学自習 第11講 自学自習 第12講 自学自習 第13講 自学自習 第14講 自学自習 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト>なし（必要に応じて指示または配布します）				
事前・事後学習	講義語には、学習した内容を十分に復習すること（180分）				
成績評価方法	課題への取り組み姿勢や進捗状況などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で課題に取り組んでもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。				
アクティブラーニング	実習、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	プログラミングはバグやアルゴリズムで悩んだ経験をすればするほど上達します。ゼミの時間だけでなく、時間を作り課題に取り組んでください。 積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。				

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	415706
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>				
授業のねらい	<p>専門演習aの経験をもとに、次のプロジェクトを進めます。専門演習aと同様にチームで目標をプロジェクト化し、実行に向けて取り組みます。目標や意義の設定から計画の立案、そしてタスクの割り振りから実行までを、チームで協力して自分たちの力で完結できるようになることを目指します。技術的な習得としては、照明コンソールの高度な使用方法を理解しながら、照明表現の幅を広げることを目指します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトに関する計画立案ができ、計画通り実行することができる。</li> <li>・チーム運営として、仲間と適切なコミュニケーションがとれる。</li> <li>・高度な照明コンソールの使用方法が理解できる。</li> </ul>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  第2講 プロジェクトに関する計画立案1  第3講 プロジェクトに関する計画立案2  第4講 発表～修正  第5講 制作・研究（グループワーク）  第6講 制作・研究（グループワーク）  第7講 制作・研究（グループワーク）  第8講 チェック～修正  第9講 制作・研究（グループワーク）  第10講 制作・研究（グループワーク）  第11講 制作・研究（グループワーク）  第12講 制作・研究（グループワーク）  第13講 発表  第14講 来年度に向けた計画立案  第15講 まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	<p>毎回、講義の最後に課題を提示します。  予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。  復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。</p>				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク				
実務経験のある教員	照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。				
担当者から一言	知識や技術を積み重ねながらグループワークで進めていきますので、講義は休まないで下さい。講義内の発言や質問など、積極的な参加を期待しています。				

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	415707
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。				
授業のねらい	調査方法の検討や野外調査の事前準備、捕獲調査や記録の残し方、データ分析等、卒業研究を進める上で必要な基礎を身に付ける。				
到達目標	調査計画を立て、目的に沿った調査を実施する。演習を通して自身の研究対象やテーマを定め、進捗状況によっては卒業研究をはじめめる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 哺乳類の調査手法とトラップや調査機器の使い方 第3講 捕獲調査計画の立て方と捕獲許可申請等の書き方 第4講 調査機器や調査票の事前準備 第5講 フィールドワーク① トラップによる哺乳類調査 第6講 フィールドワーク② トラップによる哺乳類調査 第7講 フィールドワーク③ トラップによる哺乳類調査 第8講 なごや生物多様性センター見学* 第9講 外部形態の計測と仮剥製の作製 第10講 哺乳類のリスト作成 第11講 調査結果資料の準備 第12講 調査報告・意見交換 第13講 卒業研究に向けた情報収集（文献およびインターネットによる検索） 第14講 卒業研究のテーマを考える 第15講 卒業研究計画とスケジュールの作成 フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。 *見学先と調整の上、別日に実施します。				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。参考文献：「アニマル・ウォッチング—日本の野生動物（安間 繁樹）晶文社、1985」、「野生動物管理のためのフィールド調査法：哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで」、「カメラトラップによる野生動物調査入門：調査設計と統計解析」				
事前・事後学習	日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください（1日平均20分）。また、演習の後は、内容についての振り返りを行ってください（毎週40分）。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。				
成績評価方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されレポートの内容から総合的に評価します（100%）。				
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	哺乳類の捕獲調査は法律に従った許可申請が必要です。罠の設置にも土地管理者の許可が必要です。事前準備の段階でこういった側面も理解しておきましょう。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。				



授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	412508
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>土壌の性質を把握するための化学的性質の測定法を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>土壌の化学的性質を測定することができる。分析結果をまとめ、正しく報告することができる。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、土壌分析法の解説 第2講 土壌試料の採取 第3講 一般化学性① pH および EC 第4講 一般化学性② 結果のまとめ 第5講 交換性塩基① ショーレンベルガー法 第6講 交換性塩基② 結果のまとめ 第7講 陽イオン交換容量① ホルメル滴定法 第8講 陽イオン交換容量② 結果のまとめ 第9講 有効態リン酸① トルオーグ法 第10講 有効態リン酸② 結果のまとめ 第11講 リン酸吸収係数① リン酸吸収係数測定 第12講 リン酸吸収係数② 結果のまとめ 第13講 アンモニア態窒素① 水蒸気蒸留法 第14講 アンモニア態窒素② 結果のまとめ 第15講 土壌分析結果のまとめ 調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>なし。必要に応じて資料を配布する。 参考文献：日本土壌肥料学会「土壌標準分析・測定法」博友社(2004年)、渡辺和彦ほか「環境・資源・健康を考えた土と施肥の新知識」農文協(2012年)、JA全農「だれにもできる土壌診断の読み方と肥料計算」農文協(2010年)</p>				
事前・事後学習	<p>各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめた報告書を作成する(90分)。</p>				
成績評価方法	<p>各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめた報告書などをもとに総合的に評価する(100%)。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>各講で実施した分析の結果をまとめた報告書を作成する。作成した報告書は印刷し、次講開始時に提出する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>提出された報告書は添削し、次講開始時に返却する。</p>				
アクティブラーニング	<p>フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。</p>				

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	414606
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。				
授業のねらい	海生哺乳類をはじめとした水生脊椎動物についての基礎的な知識を学ぶとともに、先行研究の紹介を通して、水生脊椎動物の研究を行うにあたっての倫理観や科学的な思考の習得を目指します。				
到達目標	(1) 野生動物研究における科学的・社会的な位置付けを理解する。 (2) 調査・研究における注意事項を把握し、フィールドにて適切な行動を取れるようになる。 (3) 実行可能な研究計画の考案と研究の科学的・社会的な意義の説明ができるようになる。				
授業計画	1. ガイダンス 2. 野生動物の研究における学術的・社会的意義 3. 調査・研究における注意事項①：フィールドにおける安全講習 4. 調査・研究における注意事項②：動物倫理 5. 調査・研究における注意事項③：実験における薬品等の取り扱い 6. 研究計画立案にあたってのポイント、研究開始までの流れ 7. 研究内容の考案 8. 先行研究の事例紹介① 9. 先行研究の事例紹介② 10. 先行研究の事例紹介③ 11. 先行研究の事例紹介④ 12. 研究計画立案① 13. 研究計画立案② 14. 研究計画立案③ 15. 研究計画発表 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。				
テキスト・教材（参考文献）	なし。参考文献は適宜提示する。				
事前・事後学習	予習：興味のある生物や分野について文献やインターネット等で調べる（30分） 復習：授業で出された課題の実施（60分）				
成績評価方法	ゼミでの聴講態度や質問、発表やレポートの内容等に基づいて総合的に評価する（100%）				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて適宜指示する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表やレポートに関して授業内でコメントをするほか、必要に応じて添削したものをMoodle等を利用して返却する。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	本ゼミで取り扱う生物は、法令によって取り扱いに制限があるものも多く、気軽に調査・研究できるものではありません。研究には必要十分な知識と綿密な計画が必要であり、知識や計画が疎かであれば研究を開始できないこともありえます。緊張感をもって積極的に授業に参加してください。				

授業科目名	専門演習 b		科目コード	371104	授業コード	412705	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	ESS3002			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	前期「専門演習 a」に引き続き、実環境としてサイバー空間でメディア情報を制御するための専門的な活性の構築、また本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。						
到達目標	各個で定めた目標を実現するために必要なツール、基礎的な知の体系を見定め、それらを獲得・達成するアプローチを組み立てる。						
授業計画	第1講 ガイダンス/夏休み中の報告 第2講 目標確認/面談 第3講 自学自習/面談 第4講 自学自習/面談 第5講 自学自習/面談 第6講 見直し/面談/学内コンペ応募 第7講 自学自習/面談 第8講 自学自習/面談 第9講 自学自習/面談 第10講 進捗発表 第11講 イベント制作(卒業展準備) 第12講 イベント制作(卒業展準備) 第13講 イベント制作(卒業展準備) 第14講 イベント制作(卒業展準備) 第15講 総括/面談 (各自の方向性・進捗にあわせて異なります) 制作・開発した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。						
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。						
事前・事後学習	試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう(180分)。 冬休みに課題を出します。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。						
アクティブラーニング	各自の主体的な目標設定と試行錯誤						
実務経験のある教員							
担当者から一言	広く深く探求してください。模索し、試行錯誤できるのはここまでです。 後輩の指導に関与してもら場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。 先輩の卒業研究のサポートをもらう場合もあります。						

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	415705
担当教員	牧田 直子	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>専門演習 b では、卒業研究のための調査を本格的に開始する。自分で決めた調査対象について十分な余裕を持って調査を進める。論文紹介を通してプランクトン研究の知識を広げ、各自の調査研究に役立てる。プランクトンの分類は、とにかくたくさん観ること、図鑑に慣れることから始まる。計画を立てて自主的に取り組む姿勢を重視する。</p>				
到達目標	<p>「自信を持って調査・研究を進められる」  多少の失敗やうまく行かないことがあっても大丈夫。自由な発想で色々試し、自分の実力にしていこう。  「学名を読める」  プランクトンの名前を覚えるのは大変ですが、見て読めるようになりましょう。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備  第2講 試料採集（1回目）  第3講 試料採集予備（1回目）  第4講 調査・研究方法の妥当性を検討、文献調査  第5講 試料採集（2回目）  第6講 試料採集予備（2回目）  第7講 調査・研究方法の確認  第8講 調査・研究開始  第9講 調査・研究（継続）  第10講 調査・研究（継続2回目）  第11講 試料採集（3回目）  第12講 試料採集予備（3回目）  第13講 調査・研究（継続3回目）  第14講 調査・研究（継続4回目）  第15講 調査・研究のまとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑 [第2版]」名古屋大学出版会（2022年）  定価：11,000円（税込）  適宜、プリントを配布する。</p>				
事前・事後学習	<p>(1) 自分の調査・研究に近い分野の論文を読み、学習を進める（60分以上）。  (2) プランクトンを分類し、調査・研究を進めながらデータの整理する（90分以上）。  (3) レポートは調査・研究と平行して、書ける部分から書き進めておく（30分以上）。</p>				
成績評価方法	<p>実験ノート（実習の記録）：75%、課題：15%、レポート：10%  実験ノートは毎回確認し、評価する。課題は3回課し、取り組みを評価する。レポートは減点方式で採点する。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>(1) 実験ノート：授業でやったことや自習したことは全て実験ノートに書き込む。  提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。  (2) 課題：プランクトンに関する課題を課す。実験ノートに書き込む、印刷物を提出する等、課題によって指示する。  提出方法-授業中に提出する。  (3) レポート：プランクトン採集と分類結果についてまとめたレポートを作成する。  提出方法-印刷して授業中に提出する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。  (2) 課題：授業中に添削もしくは解答例を示す。  (3) レポート：完成までに最低3回は添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。</p>				
アクティブラーニング	<p>実験・実習、フィールドワーク、ディスカッション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>積極的に取り組み、自分の考えで調査を進め、実現させていくことで得られる達成感、探求する楽しみを実感しましょう。自信を持って、のびのびと活動してください。</p>				

授業科目名	専門演習 b	科目コード	371104	授業コード	414701
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる、倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	自らテーマを設け、1人2作品の制作を目指すとともに、ゼミ内でもチームで作品制作を行います。ジャンルは問いませんが、しっかりとした企画書、構成案・撮影レベル、編集スキル、選曲センスなどを求めます。特に企画書、構成案といった「書く」ことを重視します。 卒業研究に向けたテーマのスタートをします。				
到達目標	4年時の卒業制作・研究に向け、自分の力だけで完璧な作品を制作することができるスキルを身につけます。また構成・撮影・編集など後輩を指導できる力を身につけます。				
授業計画	第1講 ガイダンス ～作品制作のロードマップ作製～ 第2講 個人作品テーマ発表 第3講 ゼミ作品テーマ発表 第4講 ゼミ作品企画書 第5講 ゼミ作品構成案① 第6講 ゼミ作品構成案② 第7講 個人作品①プレビュー 第8講 ゼミ作品撮影① 第9講 ゼミ作品撮影② 第10講 ゼミ作品撮影③ 第11講 個人作品②プレビュー 第12講 ゼミ作品編集① 第13講 ゼミ作品編集② 第14講 ゼミ作品MA・NA 第15講 ゼミ作品プレビュー ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて配布				
事前・事後学習	映像作品に限らず様々なメディアに触れ、常に最先端の情報を入手する努力を怠らないこと 新聞を読み、文章構成力、読解力を身につける。				
成績評価方法	授業・課題への取り組み：30% 作品制作への意欲・参加度：40% 作品の完成度・レポートの内容など：30% 定期試験はありません				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。担当教員に直接提出を基本とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業・課題への取り組み：30% 作品制作への意欲・参加度：40% 作品の完成度・レポートの内容など：30% 定期試験は実施しません。その分、授業への取り組み、提出物など普段の姿勢が重視されます。特にチームで制作している場合の、遅刻、欠席は認められないものと考えてください。				
アクティブラーニング	専門演習 a に準じます。				
実務経験のある教員	現役ディレクターとして視点から作品のクオリティを求めます。				
担当者から一言	卒業制作・研究に向けての大切な取り組みとなります。 時間があっという間に過ぎて、気が付けば3年生も終わってしまうという事にもなりかねません。将来を左右しかねない大切な時期です。心して取り組みましょう。				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	412406
担当教員	足立 明信	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	これまで学んだ専門技術を深掘りし、独自の切り口で研究もしくは制作を行う。 自分でテーマを決め、自分で調査し、自分で研究・制作を行う。 それによって、得られるものは結果だけではなく、プロセスも大事である。				
到達目標	課題を見つける力、仮説を立てる力、調べる力、意見をする力を育てる。				
授業計画	第1講 ガイダンス～卒業研究・制作の計画について 第2講 卒業研究・制作テーマ決め 個別面談 / 作業 第3講 卒業研究・制作テーマゼミ内プレゼンテーション 第4講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第5講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第6講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第7講 ゼミ内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第8講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第9講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第10講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第11講 ゼミ内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第12講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第13講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第14講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第15講 ゼミ内 中間発表(プレゼンテーション・ディスカッション)				
テキスト・教材（参考文献）	特に指定なし。				
事前・事後学習	講義の時間に限らず、自ら時間を調整し研究・制作を行う。 ※スタジオでの実習では機器を扱いますので、スリッパでの参加は禁止します。必ず、室内シューズ（出来れば安全靴）を用意すること。				
成績評価方法	研究・制作の成果、取り組み姿勢、出席状況を総合評価。 ゼミ下級生への指導や実習補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。 原則4回以上欠席した場合は単位は認定しない。				
授業内の課題・提出方法	Moodle・クラウドドライブ・その他記録メディアで提出。随時指定する。				
授業内の課題・提出物の フィードバック方法	都度、講義内でコメントする。				
アクティブラーニング	実習				
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、レコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務もしているのでIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。				
担当者から一言	自分の興味のあることに、全力で時間を注げるタイミングはなかなかありません。 そのタイミングが今この時ですので、興味のある事をやりきり、成功体験と出来る事を願っています。				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	412407
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しさに気づくことが出来れば、良い研究につながる。				
到達目標	本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文献（英文）検索 第3回 文献（英文）講読 第4回 文献（英文）発表 第5回 卒業論文目次作成 第6回 中間発表要旨作成①タイトル及び目的 第7回 中間発表要旨作成②概要及び方法 第8回 中間発表要旨作成③結果及び考察 第9回 中間発表プレゼン作成①タイトル及び目的 第10回 中間発表プレゼン作成②概要及び方法 第11回 中間発表プレゼン作成③結果及び考察 第12回 中間発表プレゼン予備発表、添削 第13回 中間発表プレゼン修正、発表 第14回 卒業論文骨子を固める 第15回 卒業研究中間発表会 実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布				
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。				
授業内の課題・提出方法	moodleでの提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物の添削を含めて個別に対応します。				
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	教員はサポート側に徹し、セミナー時間外の指導についても歓迎します。				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	412204
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められている倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信が出来る。				
授業のねらい	これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を活かして、自分で決めた卒業研究・卒業制作を完成させます。 また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究・制作の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。				
到達目標	①卒業研究・卒業制作を完成させる。 ②研究・制作の進捗状況を報告・議論できる。 ③研究・制作内容をプレゼンテーションできる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業研究・制作のテーマの検討・決定 第2講 卒業研究・制作の計画の立案 第3講 卒業研究・制作の実施、全体検討（1） 第4講 卒業研究・制作の実施、全体検討（2） 第5講 卒業研究・制作の実施、全体検討（3） 第6講 卒業研究・制作の実施、全体検討（4） 第7講 卒業研究・制作の実施、全体検討（5） 第8講 ゼミ内中間発表会の準備 第9講 ゼミ内中間発表会 第10講 卒業研究・制作の実施、全体検討（6） 第11講 卒業研究・制作の実施、全体検討（7） 第12講 卒業研究・制作の実施、全体検討（8） 第13講 卒業研究・制作の実施、全体検討（9） 第14講 卒業研究・制作の実施、全体検討（10） 第15講 卒業研究・制作の中間発表会				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト>なし（必要に応じて指示または配布します）				
事前・事後学習	研究・制作の内容・進捗状況に応じて必要な知識や情報を収集すること（90分） 研究・制作や全体検討で生じた問題・課題へ対応すること（90分）				
成績評価方法	<評価> 授業への取り組み姿勢や卒業研究・制作の進捗状況などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 課題提出はありませんが、全体検討でのレジユメを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 卒業研究・制作の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	卒業研究・制作はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。				



授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	415405
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>				
授業のねらい	専門演習cは、卒業制作や研究論文の準備です。テーマを明確にして、これまでに習得した照明技術や知識をもとに卒業研究を進めていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的に卒業研究の進め方を計画する。</li> <li>・計画に沿って卒業研究・制作を進めることができる。</li> <li>・専門演習dに向けて、研究・制作の基盤をつくる。</li> </ul>				
授業計画	第1講 ガイダンス、研究テーマの確認 第2講 卒業研究、制作の計画書作成 第3講 卒業研究、制作の計画発表（ディスカッション） 第4講 文献の検索 第5講 卒業研究の実施 第6講 卒業研究の進行状況確認 第7講 卒業研究の実施 第8講 卒業研究の進行状況確認 第9講 卒業研究の実施 第10講 卒業研究の進行状況確認 第11講 卒業研究の実施 第12講 プレゼンテーション用資料の作成 第13講 プレゼンテーション用資料の完成 第14講 セミナー内研究報告会の準備 第15講 卒業研究の中間発表				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	予習 研究論文や制作に関して必要となる知識の収集を行うこと（90分以上）。 復習 毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと（90分以上）。				
成績評価方法	卒業研究、制作の成果及び、進捗状況をもとに評価する（100%）。				
授業内の課題・提出方法	講義の終わりに次週までの課題を整理し、毎回の講義で成果の提出をしてもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物や課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、実験、グループワーク				
実務経験のある教員	照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家です。その豊富な経験と知識をもとに、照明に関する知識や理論を指導します。				
担当者から一言	卒業研究は自分でテーマを見つけ、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう、計画的に研究を進めて下さい。				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	415406
担当教員	千葉 賢	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	3年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組む。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行う。セミナーの仲間との議論も行う。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付ける。				
到達目標	北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにする。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とする。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とする。4年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定 第2講 卒業研究計画書の作成・提出 第3講 卒業研究計画のゼミ内発表（パワーポイント） 第4講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第5講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第6講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第7講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第8講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第9講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第10講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第11講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第12講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第13講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第14講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第15講 卒業研究の中間発表会				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布する。				
事前・事後学習	ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文を制作すること。				
成績評価方法	大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点（優3点、良2点、可1点、不可0点）×15回（全部良で30点）、中間発表会・最終発表会（30点）、卒業研究の内容（30点）、努力点（10点）とする。				
授業内の課題・提出方法	卒業研究は各人でテーマが異なるので、各人に合わせた課題を与える。提出方法もその度に説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	卒業研究は各人でテーマが異なるので、フィードバック方法も内容も各人で異なる。毎回の授業が実習形式なので、その中でフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	毎週の授業が実習で、アクティブラーニングである。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	今年も年度当初から温かく厳しく指導します。研究とは、自分自身を「研」ぎ（みがき）、対象事象を深く掘り下げて「究」（きわ）めるものです。その経験が実社会で役立ちます。手を抜かず、限界まで努力して、世の中に役立つ成果を残しましょう。				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	415404
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。				
授業のねらい	3年次までに習得した知識や技術を参考として目的に沿った研究計画を定め、卒業研究を進める。中間発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。				
到達目標	自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、卒業研究を実施する。資料の作成や発表の練習を通して教員や他の学生と十分議論を尽くし、中間発表を行う。				
授業計画	第1講 ガイダンス 研究の進め方 第2講 研究テーマの検討 第3講 研究計画の作成 第4講 卒業研究の実施 第5講 卒業研究の実施 第6講 卒業研究の進捗報告・議論 第7講 卒業研究の実施 第8講 卒業研究の進捗報告・議論 第9講 卒業研究の実施 第10講 卒業研究の進捗報告・議論 第11講 卒業研究論文作成 背景と目的 第12講 卒業研究論文作成 方法・途中経過 第13講 卒業研究論文 図表作成 第14講 卒業研究 中間発表会のパワーポイント作成 第15講 卒業研究 中間発表会の発表練習 卒業研究中間発表会				
テキスト・教材（参考文献）	文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。				
事前・事後学習	演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と捉え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容をふまえて研究を進めてください（90分）。				
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み、研究の進捗状況、中間発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。				
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	卒論研究では自らがフィールドに赴いて活動する機会が多くなります。地域とのコミュニケーションも大切にしてください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	412205
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>これまでの講義・演習・実験などで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。</p>				
到達目標	<p>研究課題を設定できる。設定した研究課題を遂行する研究計画を立案できる。研究の進捗報告および議論ができる。研究の途中経過を適切に発表できる。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 研究の進め方  第2講 研究課題の検討  第3講 研究計画の策定  第4講 卒業研究の実施  第5講 卒業研究の進捗報告および議論  第6講 卒業研究の実施  第7講 卒業研究の進捗報告および議論  第8講 卒業研究の実施  第9講 卒業研究の進捗報告および議論  第10講 卒業研究の実施  第11講 卒業研究の進捗報告および議論  第12講 卒業研究の実施  第13講 卒業研究の進捗報告および議論  第14講 卒業研究中間発表会の準備  第15講 卒業研究中間発表会の確認  卒業研究中間発表会  作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。</p>				
事前・事後学習	<p>研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。</p>				
成績評価方法	<p>卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>研究を進める際に遭遇するあらゆる問題が課題となる。発生した問題に対しては必要な対策を検討し、教員に相談・報告する。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。</p>				
アクティブラーニング	<p>フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や先輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。</p>				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	412408
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている				
授業のねらい	これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。				
到達目標	卒業制作・卒業研究の中間レポートを仕上げ、発表する。				
授業計画	第1講 ガイダンス/卒業制作・卒業研究の目標を設定 第2講 卒業制作・卒業研究 第3講 卒業制作・卒業研究/4月期総括・見直し 第4講 卒業制作・卒業研究 第5講 卒業制作・卒業研究 第6講 卒業制作・卒業研究 第7講 卒業制作・卒業研究/5月期総括・見直し 第8講 卒業制作・卒業研究 第9講 卒業制作・卒業研究 第10講 卒業制作・卒業研究 第11講 卒業制作・卒業研究/6月期総括・見直し 第12講 卒業制作・卒業研究 第13講 卒業制作・卒業研究 第14講 中間発表/中間レポート提出 第15講 夏休み・後期に向けて面談 (7月末に卒業制作・卒業研究の中間レポートを提出)				
テキスト・教材(参考文献)	テキストはありません。				
事前・事後学習	授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。				
成績評価方法	卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および進捗状況を総合的に評価します。定期試験を行いません。				
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。				
アクティブラーニング	各自の主体的な目標設定と試行錯誤				
実務経験のある教員					
担当者から一言	前期でどこまで到達できるかが勝負です。頑張ってください。				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	415407
担当教員	牧田 直子	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>専門演習 c では、卒業研究のための調査を本格的に進める。自分で決めた調査対象について自信を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究のデータをまとめ上げる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実習を進めることで、考える力を伸ばし、実力へとつなげたい。</p>				
到達目標	<p>「自信を持って発表できる」  これまでに調査したデータをまとめ、他の人に分かる形で発表できるようにする。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備  第2講 各自の調査・研究  第3講 各自の調査・研究  第4講 各自の調査・研究  第5講 各自の調査・研究  第6講 各自の調査・研究の中間報告（1回目）  第7講 各自の調査・研究  第8講 各自の調査・研究  第9講 各自の調査・研究  第10講 各自の調査・研究  第11講 各自の調査・研究の中間報告（2回目）  第12講 各自の調査・研究  第13講 各自の調査・研究  第14講 分野ごとの中間発表会の準備  第15講 分野ごとの中間発表会</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑 [第2版]」名古屋大学出版会（2022年）  定価：11,000円（税込）  適宜、プリントを配布する。</p>				
事前・事後学習	<p>1) 自分の調査・研究に近い分野の論文を読み、理解を深める（60分以上）。  (2) 調査・研究を進めながら、データの整理をしておく（90分以上）。  (3) 調査・研究のまとめ方を考え、実験方法等、書けるところから報告書もしくは論文用に書き進める（30分）。</p>				
成績評価方法	<p>卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>(1) 実験ノート：授業でやったことや自習したこと、卒業研究に関する全てを実験ノートに書き込む。  提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。  (2) 卒業論文：実験方法と、6月中旬までに得られた結果についてまとめる。  提出方法-印刷して授業中に提出する。  (3) 卒業研究中間発表会の準備：要旨とパワーポイント資料を作り、発表準備をする。  提出方法-印刷して授業中に提出する。完成版はファイルで提出する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。  (2) 卒業論文：完成までに最低4回は添削し、返却する。未完成では受け取らない。  (3) 卒業研究中間発表会の準備：要旨は添削して返却する。パワーポイント資料は授業内で発表してもらい、修正箇所を指示する。</p>				
アクティブラーニング	<p>実験・実習、フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>積極的に取り組み、自分の考えで計画的に調査を進め、データをまとめましょう。各自に合わせて技術面の支援、研究指導をするつもりです。</p>				

授業科目名	専門演習 c	科目コード	371105	授業コード	414401
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。				
授業のねらい	専門演習abを通じて習得したスキルを活かして、大学生活の集大成となる卒業制作に向けた土台づくりを行います。 また卒業制作の他に、記述形式の卒業研究も各自行います。				
到達目標	自ら定めたテーマに沿って作品制作、卒業計画の方向性を定める。 しっかり準備をしつつ、制作に取り掛かることを目標とし、スケジュールに沿った制作進行を遵守する。				
授業計画	第1講 ガイダンス～卒業制作映像作品及び卒業研究に向けてのロードマップづくり～ 第2講 作品企画書 & 卒業研究テーマ検討 第3講 作品構成案・脚本 & 研究内容発表 第4講 作品・研究制作 第5講 作品・研究制作 第6講 作品・研究制作 第7講 作品・研究制作 第8講 作品・研究制作 第9講 作品・研究制作 第10講 卒業制作中間チェック 第11講 作品・研究制作 第12講 作品・研究制作 第13講 作品・研究制作 第14講 作品・研究制作 第15講 卒業制作中間チェック ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて配布				
事前・事後学習	映画・芝居・ライブ・テレビ・ラジオ・書籍・論文など様々なジャンルから積極的に知識・情報を吸収し、自らのスキルアップに努めること。特に新聞を読む習慣を身につけ、毎日60分くらいはこうしたメディアに触れてください。				
成績評価方法	定期試験はありません。 各個人の作品や研究に取り組む姿勢、内容で評価します。				
授業内の課題・提出方法	担当教員に直接提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	作品・研究の内容を検討し、それぞれに適切な形でフィードバックします。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	前期中に70%は完成させる目標で取り組むこと。 今年度は年内完成を目指します。				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	412804
担当教員	足立 明信	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	これまで学んだ専門技術を深掘りし、独自の切り口で研究もしくは制作を行う。 自分でテーマを決め、自分で調査し、自分で研究・制作を行う。 それによって、得られるものは結果だけではなく、プロセスも大事である。				
到達目標	課題を見つける力、仮説を立てる力、調べる力、意見をする力を育てる。				
授業計画	第1講 ガイダンス～卒業研究・制作のテーマの確認 第2講 ゼミ内 進捗共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第3講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第4講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第5講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第6講 ゼミ内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第7講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第8講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第9講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第10講 ゼミ内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第11講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第12講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第13講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第14講 ゼミ内 卒業研究・制作発表(プレゼンテーション) 第15講 卒業展リハーサル				
テキスト・教材 (参考文献)	特に指定なし。				
事前・事後学習	講義の時間に限らず、自ら時間を調整し研究・制作を行う。 ※スタジオでの実習では機器を扱いますので、スリッパでの参加は禁止します。必ず、室内シューズ (出来れば安全靴) を用意すること。				
成績評価方法	研究・制作の成果、取り組み姿勢、出席状況を総合評価。 ゼミ下級生への指導や実習補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。 原則4回以上欠席した場合は単位は認定しない。				
授業内の課題・提出方法	Moodle・クラウドドライブ・その他記録メディアで提出。随時指定する。				
授業内の課題・提出物の フィードバック方法	都度、講義内でコメントする。				
アクティブラーニング	実習				
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、レコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務もしているのでIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。				
担当者から一言	自分の興味のあることに、全力で時間を注げるタイミングはなかなかありません。 そのタイミングが今この時ですので、興味のある事をやりきり、成功体験と出来る事を願っています。				



授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	412805
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。専門技術者に求められる倫理観を身につけている。				
授業のねらい	基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。				
到達目標	本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 卒業論文進捗中間報告会 第3回 卒業研究データまとめ 第4回 卒業研究グラフ作成 第5回 関連文献検索 第6回 関連文献講読 第7回 卒業論文進捗報告会 第8回 関連講演会への参加 第9回 卒業論文作成①目次及び方法 第10回 卒業論文作成②概要及び目的 第11回 卒業論文作成③結果及び考察 第12回 卒業研究発表プレゼン作成①目次及び方法 第13回 卒業研究発表プレゼン作成②概要及び目的 第14回 卒業研究発表プレゼン作成③結果及び考察 第15回 卒業研究発表会 実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布				
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。				
授業内の課題・提出方法	moodleを利用して提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	添削を行い個別に返却時に解説を行う。				
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	最後の最後まで粘り強く取り組むことが良い卒業論文となり、人生の糧となってくれます。全力でサポートさせていただきます。				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	412605
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められている倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信が出来る。				
授業のねらい	これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を活かして、自分で決めた卒業研究・卒業制作を完成させます。 また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究・制作の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。				
到達目標	①卒業研究・卒業制作を完成させる。 ②研究・制作の進捗状況を報告・議論できる。 ③研究・制作内容をプレゼンテーションできる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業研究・制作のテーマと計画の再確認 第2講 卒業研究・制作の実施、全体検討(1) 第3講 卒業研究・制作の実施、全体検討(2) 第4講 卒業研究・制作の実施、全体検討(3) 第5講 卒業研究・制作の実施、全体検討(4) 第6講 卒業研究・制作の実施、全体検討(5) 第7講 卒業研究・制作の実施、全体検討(6) 第8講 卒業研究・制作の実施、全体検討(7) 第9講 卒業研究・制作の実施、全体検討(8) 第10講 卒業研究・制作の実施、全体検討(9) 第11講 卒業研究・制作の実施、全体検討(10) 第12講 卒業研究・制作の実施、全体検討(11) 第13講 卒業研究・制作の実施、全体検討(12) 第14講 卒業研究・制作の実施、全体検討(13) 第15講 ゼミ内発表会				
テキスト・教材(参考文献)	<テキスト>なし(必要に応じて指示または配布します)				
事前・事後学習	研究・制作の内容・進捗状況に応じて必要な知識や情報を収集すること(90分) 研究・制作や全体検討で生じた問題・課題へ対応すること(90分)				
成績評価方法	<評価> 授業への取り組み姿勢や卒業研究・制作の進捗状況などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 課題提出はありませんが、全体検討でのレジユメを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 卒業研究・制作の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	卒業研究・制作はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	415805
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>				
授業のねらい	これまでセミナーで得た技術や知識をもとに、卒業研究に取り組む。成果を収める為に必要なことを自ら考え行動できるようになること。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究および制作を完成させる。</li> <li>・卒業展にて研究成果の発表を行う。</li> </ul>				
授業計画	第1講 ガイダンス、研究計画の再確認 第2講 卒業研究の進行状況確認 第3講 卒業研究の実施 第4講 卒業研究の進行状況確認 第5講 卒業研究の実施 第6講 卒業研究の進行状況確認 第7講 卒業研究の実施 第8講 卒業研究発表会の資料作成 第9講 卒業研究の提出 第10講 卒業研究発表会の発表準備① 第11講 卒業研究発表会の発表準備② 第12講 卒業研究のリハーサル（プレゼンテーション） 第13講 作品、論文の修正及び調整作業 第14講 卒業研究発表会（プレゼンテーション） 第15講 資料整理				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	予習 研究論文や制作に関して必要となる知識の収集をおこなうこと（90分以上）。 復習 毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと（90分以上）。				
成績評価方法	卒業研究、制作の成果を評価する（100％）。				
授業内の課題・提出方法	講義の終わりに次週までの課題を整理し、毎回の講義で成果の提出をしてもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物や課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、実験、グループワーク				
実務経験のある教員	照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家です。その豊富な経験と知識をもとに、照明に関する知識や理論を指導します。				
担当者から一言	卒業研究は自分で考え、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう計画的に研究を進めて下さい。				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	415806
担当教員	千葉 賢	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	環2と4				
授業のねらい	3年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組む。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行う。セミナーの仲間との議論も行う。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付ける。				
到達目標	北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにする。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とする。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とする。4年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業研究の進捗状況の発表 第2講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第3講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第4講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第5講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第6講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第7講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第8講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第9講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第10講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第11講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第12講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第13講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第14講 卒業研究の合同発表会 第15講 卒業研究の合同発表会				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布する。				
事前・事後学習	ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文を制作すること。				
成績評価方法	大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点（優3点、良2点、可1点、不可0点）×15回（全部良で30点）、中間発表会・最終発表会（30点）、卒業研究の内容（30点）、努力点（10点）とする。				
授業内の課題・提出方法	卒業研究は各人でテーマが異なるので、各人に合わせた課題を与える。提出方法もその度に説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	卒業研究は各人でテーマが異なるので、フィードバック方法も内容も各人で異なる。毎回の授業が実習形式なので、その中でフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	毎週の授業が実習で、アクティブラーニングである。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	今年も年度当初から温かく厳しく指導します。研究とは、自分自身を「研」ぎ（みがき）、対象事象を深く掘り下げて「究」（きわ）めるものです。その経験が実社会で役立ちます。手を抜かず、限界まで努力して、世の中に役立つ成果を残しましょう。				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	415804
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	中間発表の結果や議論を踏まえ、研究計画を補足しながら卒業研究を進める。卒業論文発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。				
到達目標	フィールドワーク等で得られたデータを分析し、論理的な結論を導く。研究内容に沿った分かりやすい図表を作成し、その上で卒業論文を執筆、発表を行う。				
授業計画	第1講 ガイダンス 研究の進め方 第2講 研究計画の確認と補足 第3講 卒業研究の実施 第4講 卒業研究の進捗報告・議論 第5講 卒業研究の実施 第6講 卒業研究の進捗報告・議論 第7講 卒業研究の実施 第8講 卒業研究の進捗報告・議論 第9講 卒業研究論文作成 背景と目的 第10講 卒業研究論文作成 方法・結果 第11講 卒業研究論文 図表作成 第12講 卒業研究論文作成 考察・要旨 第13講 卒業研究 発表用パワーポイント作成 第14講 卒業研究 発表練習 第15講 卒業研究 発表練習 卒業論文発表会				
テキスト・教材（参考文献）	文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。				
事前・事後学習	演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と考え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容を踏まえた上で研究を進めてください（90分）。				
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業論文発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。				
授業内の課題・提出方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	卒業研究は学生生活の集大成です。教員や他の学生とも議論を尽くし、納得のいくものを作りあげましょう。疑問や分からないことがあれば遠慮せずに聞きに来てください。				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	412606
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>これまでの講義・演習・実験などで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。</p>				
到達目標	<p>中間発表会で得られた課題を整理し研究計画を改善できる。研究の進捗報告および議論ができる。得られた研究成果を論文にまとめ、わかりやすく発表できる。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 中間発表会時の議論整理  第2講 研究計画の改定  第3講 研究計画の確認と修正  第4講 卒業研究の実施  第5講 卒業研究の進捗報告および議論  第6講 卒業研究の実施  第7講 卒業研究の進捗報告および議論  第8講 卒業研究の実施  第9講 卒業研究の進捗報告および議論  第10講 卒業研究の実施  第11講 卒業研究の進捗報告および議論  第12講 卒業研究の実施  第13講 卒業研究の進捗報告および議論  第14講 卒業研究発表会の準備  第15講 卒業研究発表会の確認  卒業研究発表会  作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。</p>				
事前・事後学習	<p>研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。</p>				
成績評価方法	<p>卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>研究を進める際に遭遇するあらゆる問題が課題となる。発生した問題に対しては必要な対策を検討し、教員に相談・報告する。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。</p>				
アクティブラーニング	<p>フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や先輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。</p>				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	412806
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている				
授業のねらい	これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。				
到達目標	卒業制作（作品＋制作レポート）あるいは卒業研究（卒業論文）の完成及び展示・発表を見事に成し遂げる。				
授業計画	第1講 ガイダンス/面談 第2講 卒業制作・卒業研究 第3講 卒業制作・卒業研究 第4講 卒業制作・卒業研究 第5講 卒業制作・卒業研究 第6講 卒業制作・卒業研究/発表様式・概要メシ（10月末） 第7講 卒業制作・卒業研究 第8講 卒業制作・卒業研究 第9講 卒業制作・卒業研究 第10講 卒業制作・卒業研究完成（11月末） 第11講 論文・レポート作成 第12講 論文・レポート作成/メディアチェック 第13講 論文・レポート提出（12月末） 第14講 発表準備 第15講 発表準備 1月末から2月上旬に卒業展・卒業研究発表会での展示・発表				
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。				
事前・事後学習	授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。				
成績評価方法	卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および成果を総合的に評価します。定期試験を行いません。				
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。				
アクティブラーニング	各自の主体的な目標設定と試行錯誤				
実務経験のある教員					
担当者から一言	大学生生活の集大成です。頑張ってください。				

授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	415807
担当教員	牧田 直子	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>専門演習 d では、卒業研究を論文にまとめ、発表する最終段階に入ります。研究データの追加や再検討を行い、納得のいく内容で、わかりやすくまとめ上げましょう。今までの経験をもとに、社会で応用できる実力へと成長させたい。</p>				
到達目標	<p>「わかりやすく発表し、議論（質疑応答）できる」  自分の考えをわかりやすくまとめて伝え、議論できる。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンスと調査・研究の現状確認  第2講 各自の調査・研究  第3講 論文の構成と必要データの照合  第4講 各自の調査・研究（追加データの取得）  第5講 卒業研究論文の下書き完成、確認  第6講 卒業研究論文の下書きの修正  第7講 写真の画像処理  第8講 卒業研究論文の論旨の確認  第9講 卒業研究論文の図表、体裁の修正  第10講 卒業研究論文の読み直し  第11講 卒業研究論文の要旨作成  第12講 卒業研究論文と要旨の完成  第13講 発表原稿とパワーポイント資料の完成  第14講 卒業研究発表会の準備  第15講 卒業研究発表会</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑 [第2版]」名古屋大学出版会（2022年）  定価：11,000円（税込）  適宜、プリントを配布する。</p>				
事前・事後学習	<p>(1) データの整理、作図（90分以上）。  (2) 論文の執筆、発表資料等の作成（90分以上）。</p>				
成績評価方法	<p>卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>(1) 実験ノート：研究の結果や解析、考察等、卒業研究に関する全てを実験ノートに書き込む。  提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。  (2) 卒業論文：得られた結果について解析を加え、考察して論文にまとめる。  提出方法-印刷して授業中に提出する。完成版は提出期間中に教学課へ提出する。  (3) 卒業研究発表会の準備：要旨とパワーポイント資料を作り、発表準備をする。  提出方法-印刷して授業中に提出する。完成したらファイルで提出する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。  (2) 卒業論文：完成までに最低4回は添削し、返却する。未完成では受け取らない。  (3) 卒業研究発表会の準備：要旨は添削して返却する。パワーポイント資料は授業内で発表してもらい、修正箇所を指示する。</p>				
アクティブラーニング	<p>実験・実習、ディスカッション、プレゼンテーション</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>誰が読んでもわかりやすい論文に仕上げ、発表しましょう。</p>				



授業科目名	専門演習 d	科目コード	371106	授業コード	414801
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。				
授業のねらい	卒業制作の作品・研究の完成を目指します。 どちらも第三者の鑑賞、批評、評価に値する作品とします。 卒業制作は、その作品のデータや企画書、構成案台本、制作過程の記録なども併せて提出し、卒業研究は4年間の学びの集大成として、映像及びその関連分野の研究をテーマと立案す。作品・研究とも卒業展で発表を行います。				
到達目標	大学生生活の集大成として誇りの持てる作品、研究を目指します。 内容と共にクオリティの高い作品・研究を完成させます。				
授業計画	第1講 作品・研究の見直し 第2講 卒業制作 第3講 卒業制作 第4講 卒業制作 第5講 卒業制作中間チェック 第6講 卒業制作 第7講 卒業制作 第8講 卒業制作 第9講 卒業制作 第10講 卒業制作最終確認 第11講 卒業制作全員プレビュー 第12講 卒業制作手直し 第13講 卒業制作完成度チェック 第14講 最終仕上げ 第15講 卒業展シミュレーション				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて配布				
事前・事後学習	映像表現や、各種展示会、映画・美術鑑賞など様々な方法で努力することを望みます。 特に新聞を読む習慣をつけてください。これら様々なメディアに1日60分程度は接することを望みます。				
成績評価方法	卒業作品・研究の内容はもちろん、作品に取り組む姿勢や提出物、締め切りの順守なども評価の対象とします。				
授業内の課題・提出方法	担当教員に直接提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各個人に直接フィードバック				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	四日市大学で学んだ4年間の集大成として、完成を目指して制作・研究に励んでください。 また、自分だけでなく周囲の評価も大切です。 作るだけで満足せず、より高みを目指してください。 なにより計画的に制作、研究をして時間管理が大切なことをお忘れなく。				

授業科目名	地球環境学総論		科目コード	371201	授業コード	412409	
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	ENE2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	分野必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	地球温暖化・気候変動・自然災害・海洋汚染・大気汚染などを含めた地球規模の環境問題 について、地球科学的な観点から学ぶ。						
到達目標	現在の生じている地球規模の環境問題について、地球科学的な側面からその発生メカニズ ムを理解し、対策を考えることができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、地球環境と地球システム 第2講 地球環境の成り立ち① 宇宙のなかの地球 第3講 地球環境の成り立ち② 地球環境の歴史 第4講 地球環境の基礎知識① 大気の構造と流れ 第5講 地球環境の基礎知識② 海水と海洋の動き 第6講 地球環境の基礎知識③ 地球規模の水循環 第7講 地球環境の基礎知識④ 気候変動と異常気象 第8講 地球温暖化① 地球の気温変動と温室効果 第9講 地球温暖化② 地球温暖化の要因と影響 第10講 地球温暖化③ 地球温暖化への対策 第11講 オゾン層とオゾンホール① 第12講 オゾン層とオゾンホール② 第13講 オゾン層とオゾンホール③ 第14講 大気環境と大気汚染① 第15講 大気環境と大気汚染② 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニ レポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とす る。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私 語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。						
授業内の課題・提出物の フィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポ ートの解説を行う。						
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この授業では地球規模の環境問題について扱います。「地球をまるごとひとつ」という と、とてつもなく大きく感じますが、この機会に視野を世界まで大きく広げてみてくださ い。						

授業科目名	生態学	科目コード	371202	授業コード	412206
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	ENE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	分野必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	人類誕生の遥か昔から途切れることなく続いてきた生物活動の営みを理解するとともに、人間とのかかわりで生物多様性や保全活動が重要視されている。そこで、環境分野を学ぶための基礎となる科学的視点を身に付けてもらいたい。				
到達目標	生物基礎と社会情勢の両面から生態系を考える多角的な視点を養う。				
授業計画	第1講 ガイダンス、生態学とは 第2講 生物圏と生態学 第3講 生物種の系統と進化 第4講 生物の生活資源と個体群 第5講 個体群の成長過程と密度効果 第6講 生物群集と生態系 第7講 種間競争と種の共存 第8講 生活史の進化と多様性 第9講 生態系における物質循環 第10講 バイオドーム森林の地理的植生 第11講 植生の遷移 第12講 生物多様性 第13講 人間活動とのかかわり 第14講 バイオマニュピレーション 第15講 伊勢湾の生態系				
テキスト・教材（参考文献）	原登志彦「大学生のための生態学入門」共立出版、2017年、2640円				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート30%、試験70% 小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に対面で提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは講義内で解説を行います。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	積極的に取り組む姿勢の学生を歓迎します。				

授業科目名	環境保全学	科目コード	371203	授業コード	413805
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	ENE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	分野必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。				
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境改変の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社、2006」、「最新日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社、2019」など				
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。				
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。				
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します				

授業科目名	環境化学		科目コード	371204	授業コード	414802	
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	EEB2001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギーの出入りなどを学び、各種の反応へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。						
到達目標	(1) 構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。 (2) 燃焼反応などの化学反応式が書ける。 (3) オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる						
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の基礎（復習） 第2講 地球の空気 第3講 大気成分と化学変化 第4講 大気汚染と酸性雨1 第5講 大気汚染と酸性雨2 第6講 オゾン 第7講 光（電磁波） 第8講 成層圏オゾンの生成 第9講 オゾン層の破壊と対策 第10講 温室効果と分子の形 第11講 分子の振動と温室効果 第12講 温室効果ガスと地球への影響 第13講 燃焼とエネルギー 第14講 化学反応のエネルギー 第15講 燃料の化学 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書：A Project of the American Chemical Society編、廣瀬千秋 訳「改訂 実感する化学 上巻 地球感動編」NTS社（2015）、3850円（税込み）						
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。						
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%						
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。						
アクティブラーニング	課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ノートを用意して下さい（ルーズリーフは不可）。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。 講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。						

授業科目名	自然調査法	科目コード	371206	授業コード	413806
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	EEB2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。				
到達目標	本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟的な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス、生物季節観測 第2講 森林① 植生調査 第3講 森林② 森林管理 第4講 森林③ 竹林問題 第5講 森林④ シカ害 第6講 森林⑤ 土壌生物調査 第7講 淡水圏① 湖沼の水生植物 第8講 淡水圏② 湖沼の動植物プランクトン 第9講 淡水圏③ 水生昆虫分類 第10講 淡水圏④ 生物学的水質判定法 第11講 海洋① 海洋生物調査 第12講 海洋② 音響機器 第13講 海洋③ 魚類形態 第14講 海洋④ 魚類観察 第15講 海洋⑤ 干潟ベントス調査 定期試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。				
テキスト・教材（参考文献）	なし 参考文献 柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ1 森林集水域の物質循環調査法」共立出版（2015）2000円 小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ9 大型陸上哺乳類の調査法」共立出版（2017）2600円				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート30%、試験70% 小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。				
授業内の課題・提出方法	講義終了時に提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	添削後本人へ返却し、講義内で解説を行う。				
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、フィールドワーク、レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。				

授業科目名	地域環境論		科目コード	371207	授業コード	415205	
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EEP2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。						
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。						
授業計画	<p>(各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。)</p> <p>第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉</p> <p>第2講 四日市市の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第3講 三重県の廃棄物問題、(外部講師)</p> <p>第4講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉</p> <p>第5講 藤前干潟の保全とゴミ問題、(外部講師)</p> <p>第6講 SDGsとESD、(外部講師)</p> <p>第7講 音楽による里山文化の発信、(外部講師)</p> <p>第8講 三重県の地球温暖化対策、(外部講師)</p> <p>第9講 四日市市周辺の自然環境保全、(外部講師)</p> <p>第10講 企業と環境対策(外部講師)</p> <p>第11講 三重県の林業と今後、(外部講師)</p> <p>第12講 北勢地域における地域農業の展開、(外部講師)</p> <p>第13講 吉崎海岸の清掃活動とウミガメ保存、(外部講師)</p> <p>第14講 伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、(外部講師)</p> <p>第15講 伊勢湾の水質環境、千葉</p>						
テキスト・教材(参考文献)	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性(自分の生活とどのように関わっているか)を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点(優秀レポートには加点)して成績評価する。遅刻者は減点する。期末試験はない。						
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様には感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。						

授業科目名	環境エネルギー論		科目コード	371208	授業コード	416101	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	ENE3001			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。</li> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・地域の持続的発展のために貢献できる。</li> </ul>						
授業のねらい	現代の生活になくってはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値について理解を深めます。また、カーボンニュートラルを目指す中で、利用拡大が求められている再生可能エネルギーも、その学修範囲に含めます。最終的に、将来の日本が、どのような電源で構成することが望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。						
到達目標	環境問題、エネルギー問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな持続的発展のための社会的課題について、理解を深めます。具体的には、火力、原子力といった従来型エネルギーだけでなく、再生可能エネルギーをはじめとする新エネルギーも含めて、これらのエネルギーの歴史的背景、エネルギー技術の原理、またこれらにエネルギー利用に伴う環境問題について、学修します。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス・エネルギーとは</p> <p>第2講 エネルギーの基礎</p> <p>第3講 エネルギーの歴史</p> <p>第4講 火力発電1</p> <p>第5講 火力発電2</p> <p>第6講 原子力発電1</p> <p>第7講 原子力発電2</p> <p>第8講 再生可能エネルギー1</p> <p>第9講 再生可能エネルギー2</p> <p>第10講 施設見学1</p> <p>第11講 施設見学2</p> <p>第12講 施設見学3</p> <p>第13講 施設見学4</p> <p>第14講 グループワーク</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>2024年6月の週末(土日)に、四日市市、川越町の環境学習施設、エネルギー施設での開講を予定しています。基本的に開講場所での現地集合、現地解散となります。開講場所の中には、交通不便地も含まれています。若干の交通費やあるいは交通手段が必要になる場合があります。</p> <p>現時点では、2024年6月15日(土)、2024年6月22日(日)、2024年6月23日(日)の3日間を予定していますが、開講日時、開講場所は、履修登録人数等によって変更になる場合がありますので、確定後、2024年4月下旬に履修登録者に対して、MoodleかUNIPAでアナウンスします。</p>						
テキスト・教材(参考文献)	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い(90分)、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください(90分)。						
成績評価方法	<p>小テスト</p> <p>5点×8回=40点</p> <p>レポート課題</p> <p>20点×3回=60点</p> <p>計100点</p>						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行います。また、レポート課題については、提出内容について、Moodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、エネルギー施設の見学等により、実際に発電が行われている現場を間近に体験することに加え、これらに関するグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、石油代替エネルギー開発に関する研究の実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、滅多に見ることのできないエネルギー施設の見学などを通じて、大学講義だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと考えています。						



授業科目名	資源循環論	科目コード	371209	授業コード	411504
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	ENE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。</li> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・地域の持続的発展のために貢献できる。</li> </ul>				
授業のねらい	我々の生活に不可欠な資材やエネルギーの基盤となる多様な資源について、その獲得・品質・加工・貯蔵・利用・廃棄・自然界での循環とそれらに関わる諸問題を、ローカルレベル（自身の生活圏）から、グローバルレベルに至るまで、さまざまな視点で学びます。				
到達目標	環境問題、特に廃棄物問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな持続的発展のための社会的課題について、学修します。具体的には、我々の生活・社会を支えている資源とその品質について学修し、資源の獲得・加工・貯蔵・利用・再生・廃棄という一連の流れと付随する問題、ひいては、資源利用と物質循環が関わる社会的課題について、理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 廃棄物処理の歴史 第3講 3Rとは 第4講 廃棄物の減量 第5講 資源循環 1 第6講 資源循環 2 第7講 資源循環 3 第8講 廃棄物の区分 第9講 一般廃棄物 第10講 廃棄物の処理 1 第11講 廃棄物の処理 2 第12講 廃棄物の処理 3 第13講 特殊な廃棄物の処理 第14講 廃棄物処理・資源循環に係る法規 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	(1) 各回の講義後の小テスト 5点×15回=75点 (2) レポート課題 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等については、Moodleやメールにて、いつでも受け付けます。				
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleで紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。				
実務経験のある教員	担当教員には、廃棄物規制に関する実務経験があります。				
担当者から一言	本講義はオンライン方式ですので、講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行います。くれぐれも見落としのないように注意してください。また、オンライン方式の講義は、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。				

授業科目名	環境倫理学		科目コード	371211	授業コード	411503	
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EEP2002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>						
授業のねらい	<p>環境科学専攻で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにするため、環境問題やSDGsについて全般的な内容を幅広く学ぶ。</p>						
到達目標	<p>現在の環境問題に関する概略を知り、その解決策について考えることができる。</p>						
授業計画	<p>第1講 持続可能な社会に向けて  第2講 地球環境の基礎知識  第3講 いま地球で起きていること  第4講 地球温暖化と脱炭素社会  第5講 エネルギー問題  第6講 生物多様性・自然共生社会  第7講 地球規模の環境問題  第8講 循環型社会の構築  第9講 地域に関する環境問題  第10講 化学物質による環境問題  第11講 災害と放射性物質による環境問題  第12講 持続可能な社会に向けたアプローチ  第13講 環境活動とパブリックセンター  第14講 企業の環境への取り組み  第15講 個人やNPOによる活動と連携  定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>東京商工会議所編著「改訂9版環境社会検定試験eco検定公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター（2023年）定価：2,600円+税  東京商工会議所編著「2024年版環境社会検定試験eco検定公式問題集」日本能率協会マネジメントセンター（2024年3月発売予定）定価：2,000円+税</p>						
事前・事後学習	<p>シラバスの授業計画をよく確認し、テキストの該当する箇所を予習する（90分）。演習で取り組んだ問題のうち自己採点で不正解だった問題について、その内容をテキストで復習する（90分）。</p>						
成績評価方法	<p>演習問題に対する取り組み状況(30%)、定期試験(70%)。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>各回の理解内容をはかるため、公式問題集に掲載されている関連の問題に取り組む。答案を自己採点し、授業終了時に提出する。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>授業時間中に演習問題の答え合わせと解説を行う。</p>						
アクティブラーニング	<p>授業内で演習問題を実施する。</p>						
実務経験のある教員							
担当者から一言	<p>eco検定（環境社会検定試験）は環境問題に関して基礎的・必須的な内容について一通り学習することができます。eco検定は就職活動でも活かすことができます。ぜひeco検定を受験して合格を目指してみてください。</p>						

授業科目名	環境政策	科目コード	371212	授業コード	412304
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	EEP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる				
授業のねらい	環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。				
到達目標	環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身につけることが到達目標である。				
授業計画	第1講 ガイダンス・ゴミ問題から環境政策を考える 第2講 ごみ問題 第3講 循環型社会とリサイクル 第4講 災害ゴミの処理 第5講 四日市公害と中国における大気汚染① 第6講 四日市公害と中国における大気汚染② 第7講 映像でみる四日市公害① 第8講 映像でみる四日市公害② 第9講 地球温暖化の基礎知識 第10講 地球温暖化と気象変動 第11講 再生可能エネルギー 第12講 本当にエコ？ 第13講 映像でみる今日の環境問題① 第14講 映像でみる今日の環境問題② 第15講 まとめと光害				
テキスト・教材（参考文献）	講義でプリントを配布する。				
事前・事後学習	シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。講義終了後は、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、しっかりと数時間かけて自分の考えをまとめて提出する。				
成績評価方法	小レポート5点×15回として全体の75%、学期末試験25%の配分で、総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させたレジュメをMoodleなどで提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodle上でコメントを書く。				
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。				

授業科目名	環境保全とツーリズム		科目コード	371213	授業コード	413605	
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	EEP2004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	「観光」や「旅行」を考える視点には、旅人としての視点、場所という視点、観光地にいる（観光産業に関わるなど）人々の視点と、様々な見方、問題の捉え方があります。この授業では、「観光」や何らかの「旅」という行為や訪れる地域について、文学・文化・歴史・人類学などの様々な観点で分析し、ツーリズムの本質に迫ることをもくろみます。この科目は富田、浅井、高田の3名の教員がそれぞれの専門性や持ち味を生かして行います。その視点や手法の多様性を生かして、ツーリズムについて考えていきましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「観光」にもいろいろなあり方があることを知る。</li> <li>・旅人が観光に求めるものについて考える。</li> <li>・その上で、各地域が観光地として魅力を持つための条件について考える。</li> </ul>						
授業計画	第1講 ガイダンス、〈ツーリズム〉を考える視点（9/25） 第2講 東海道・街道とツーリズム（10/2） 第3講 アート（浮世絵）とツーリズム（10/9） 第4講 西行・松尾芭蕉の旅（10/16） 第5講 伊勢講・富士講（10/23） 第6講 聖地巡礼①（10/30） 第7講 聖地巡礼②（11/6） 第8講 聖地巡礼③（11/13） 第9講 だんじり/山車（11/20） 第10講 だんじり/山車（11/27） 第11講 小泉八雲（外国人）とツーリズム（12/4） 第12講 外国人が見た日本（12/11） 第13講 ジオパーク（12/18） 第14講 アート（国際芸術祭）とツーリズム（1/8） 第15講 まとめにかえて（1/15）						
テキスト・教材（参考文献）	友原嘉彦編著『クリエイティブツーリズムー「あの人」に会いに行く旅』古今書院（2022年）3, 200円 授業はテキストを使用する回としない回があります。						
事前・事後学習	（事前）テキストの次の回で取り上げる章の論文を読んでおく。（90分） （事後）講義のトピックスに合わせて、紹介された旅のあり方についてもっと調べる。（90分）						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題 60%</li> <li>・期末レポート 40%</li> </ul>						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、小レポートなどの課題を出します。 課題の提出方法は、担当教員によってことなります（Moodle、forms、紙など）。各回の担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題で書かれた皆さんのコメント等について、授業内で紹介したりします。						
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	皆さんはどんな旅が好きですか？ 旅に何を求めますか？ 旅のあり方は人それぞれ。旅の成果も人それぞれ。そんな「旅」を、単なるイベントとして楽しむだけでなく、学問的に考えてみませんか？ そこからは、旅をする側だけでなく、旅人をもてなす側としての示唆も得られるかもしれません。						

授業科目名	環境社会学		科目コード	371214	授業コード	415604	
担当教員	平 春来里		科目ナンバリング	EEP2005			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	「環境」と「社会」にまたがる領域を学ぶにあたって、各年代・各場所のそれぞれで生じてきた環境問題・環境思想を理解する。そして日本の環境社会学が公害問題を端緒として発展してきた過程を体系的に学ぶ。またこの体系的な学びから方法論の学びへと接続させることで、気候変動やエネルギー問題といった環境問題にローカルかつ実践的に取り組むための思考力を養うことを目的とする。						
到達目標	①日本における環境問題の歴史とともに、環境社会学の視点と方法論を十分に理解し自らの言葉で説明することができる。 ②環境社会学の視点を用いて、ある環境問題に関して解決策を現実的に即して考察することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 環境問題の歴史 ～「環境の時代」と環境社会学～ 第3講 環境問題の歴史 ～各時代の環境問題と環境思想①～ 第4講 環境問題の歴史 ～各時代の環境問題と環境思想②～ 第5講 日本の環境問題 ～高度経済成長と公害（1）～ 第6講 日本の環境問題 ～高度経済成長と公害（2）～ 第7講 日本の環境問題 ～農と食、ゴミ問題など～ 第8講 日本の環境問題 ～開発と資源、歴史的環境と景観など～ 第9講 環境社会学の方法論 ～被害（加害）構造論～ 第10講 環境社会学の方法論 ～受益圏・受苦圏論～ 第11講 環境社会学の方法論 ～社会的ジレンマ論～ 第12講 環境社会学の方法論 ～社会運動論～ 第13講 原発事故と被害・加害構造 第14講 地域社会とエネルギー 第15講 なぜ公害は続くのか						
テキスト・教材（参考文献）	教科書は指定しません。授業開始前にその日のレジュメを配布し、それを元に進めます。 【参考文献】 『よくわかる環境社会学（第2版）』鳥越皓之・帯谷博明 2017年						
事前・事後学習	現在起きている環境問題についてネットや参考文献で情報収集する時間を週に1時間程度取ることが望ましいです。また授業前に前回の授業資料を確認する時間として30分とることを推奨します。						
成績評価方法	授業中のディスカッションとレポート提出 50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	その都度授業内でお知らせします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートなどにコメントを付記してフィードバックします。 もし全体で共有したい内容の場合は、許可を得た上で全体でフィードバックをします。 その他個別に対面で質問・フィードバックが必要な場合は授業後・もしくはメールでご連絡ください。						
アクティブラーニング	授業中のディスカッションと授業期間内でのレポート提出では、主体的な問題提起や意見を重視します。またそこでの皆さんの意見を授業内容でも積極的に取り入れます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「なぜ公害は続くのか」「長らく議論されてきた気候変動がなぜ解決されないのか」素朴な疑問を大切にしながら、一緒に環境社会学への理解を深めていければと思います。						

授業科目名	環境法	科目コード	371215	授業コード	413405
担当教員	中西 紀夫	科目ナンバリング	EEP3004		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	本講義のねらいは、都市の公害・環境に関する法の基礎を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる快適な環境の都市をつくるための学びです。これは憲法25条の「生存権」や13条の「幸福追求権」との関係でも重要です。また、都市計画に必要となる環境対策については現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。				
到達目標	本講義では、都市の公害・環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市の公害・環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 公害と法 第3講 環境法の伝統的な法体系 第4講 憲法との関係 第5講 行政法との関係 第6講 民法との関係 第7講 刑法との関係 第8講 都市の環境対策と法規制 第9講 公害・環境規制法 第10講 都市開発と環境アセスメント 第11講 廃棄物・リサイクル対策 第12講 私法的な救済方法 第13講 条例による規制とその問題点 第14講 環境のための3R 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）				
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくといでしょう。				
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。 定期試験 70%：すべて持込可				
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。				
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。				
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001) や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。				
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。				

授業科目名	都市環境論		科目コード	371216	授業コード	415808
担当教員	本部 賢一		科目ナンバリング	EEP3005		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	<p>都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。</p> <p>本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。</p>					
到達目標	<p>授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できたり、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。</p>					
授業計画	<p>第01講 ガイダンス、授業の概要  第02講 都市形成のメカニズム(1)  第03講 都市形成のメカニズム(2)  第04講 現代都市の問題  第05講 都市の進化とプランニング(1)  第06講 都市の進化とプランニング(2)  第07講 計画概念とプランナー(1)  第08講 計画概念とプランナー(2)  第09講 暮らしを支える都市  第10講 豊かな都市空間を考える(1)  第11講 豊かな都市空間を考える(2)  第12講 都市環境計画(1)  第13講 都市環境計画(2)  第14講 都市環境計画(3)  第15講 まとめ</p> <p>※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。  ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに「出欠ボタン（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント&amp;参考資料のダウンロード、テストレポートの内容&amp;提出方法等」が掲示されています。</p>					
テキスト・教材（参考文献）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストなし</li> <li>・単元毎に教材プリント&amp;参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。</li> <li>・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。</li> </ul>					
事前・事後学習	<p>事前学習： 教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう（90分程度）。</p> <p>事後学習： 教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）</p>					
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元毎のミニテストレポート等：70%</li> <li>・最終テストレポート：30%</li> </ul>					
授業内の課題・提出方法	<p>授業内の課題： ・単元毎のミニテストレポート  ・最終テストレポート</p> <p>の2つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。</p> <p>提出方法：共に授業時に用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元毎のミニテストレポートは点数&amp;総評をMoodleのコース画面上に掲載します。</li> <li>・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数&amp;総評はお知らせしません。</li> </ul>					
アクティブラーニング	ミニテストレポート、最終テストレポート					
実務経験のある教員	民間の研究機関での勤務経験あり。行政からの政策立案関連の委託業務を請け負ってきました。都市計画、交通計画を研究対象としています。					
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「出欠ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。</li> <li>・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。</li> </ul>					

授業科目名	海洋学		科目コード	371217	授業コード	412309	
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EEE2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 大気科学、海洋物理・化学・生態学・生物学の基礎を学ぶ。その上で、伊勢湾の海洋学的な特徴と伊勢湾の抱える環境問題を学び、その改善方法を考える。						
授業のねらい	最初に地球規模の大気と海洋の現象を物理的な観点から学ぶ。それに基づき、地球温暖化の仕組みや海流の発生原理などを学ぶ。続いて、沿岸海洋の物理として、潮汐や潮汐流の発生原理を学ぶ。次に水中光の物理に触れながら、それに左右される基礎生産と、基礎生産を底辺とした海洋生態系の仕組みと変動機構について学ぶ。海洋生物群については、分類学的な観点から理解を進め、その生態と生活史などを学ぶ。これらの学習の中に、地球規模や伊勢湾等の日本沿岸の環境問題を織り込み、環境問題の発生の仕組みを理論から理解できるようにする。また、授業の最後には伊勢湾の環境問題について学び、地域の持続的発展に繋がる伊勢湾の将来について考えさせる。						
到達目標	大気科学と海洋学の基礎知識を得て、地球温暖化、海洋酸性化、サンゴの白化、海洋プラスチックなどの地球規模の環境問題と、伊勢湾の水質や漁業資源などの地域の環境問題などを理解できるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、海洋学とは 第2講 海洋の大きさと海水の物性 第3講 大気と海洋（大気の熱力学） 第4講 大気と海洋（大気中の水循環と地球温暖化問題） 第5講 大気と海洋（コリオリカとエクマン輸送と漁場問題） 第6講 大気と海洋（風成循環と海流と北太平洋のゴミ集積問題） 第7講 潮汐と潮汐流（埋め立てによる潮汐流の変化） 第8講 水中の光環境と基礎生産（透明度とは） 第9講 水中の光環境と基礎生産（赤潮と青潮） 第10講 海洋生態系と栄養段階（生物多様性とは） 第11講 海洋生態系と栄養段階（生物の生活史と環境問題） 第12講 海洋生物の分類と特徴（磯焼けとサンゴの白化現象） 第13講 海洋生物の分類と特徴（海洋酸性化問題） 第14講 伊勢湾の環境問題（貧酸素問題） 第15講 伊勢湾の環境問題（貧栄養化） 期末試験						
テキスト・教材（参考文献）	担当教員が作成した教材を配布する。 【参考文献】 横瀬久芳、「はじめて学ぶ海洋学」、朝倉書店、1800円＋税 日本生態学会編、「海洋生態学」、共立出版、3400円＋税						
事前・事後学習	シラバスを読み、授業週の翌週の内容を把握し、教科書やネットで予備知識を得る（90分）。授業を聴いたら、内容を復習し、理解できなかった部分を教科書やネットで調べる。毎週のレポートに取り組む（90分）。						
成績評価方法	講義毎のレポート（40%）と期末試験（60%）。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。						
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。期末試験もレポートの問題の中から主に出题する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの地球規模の環境問題や、身近な伊勢湾で起きている環境問題を理解する上で、この授業は役立つはずです。						



授業科目名	生物分類学	科目コード	371218	授業コード	412607
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	EEE2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	分類学は17世紀ごろに始まり、博物学が盛んになる18世紀にはリンネによって整理された。日本の動植物はシーボルトによって西洋に広められた。近年では分子生物学によって、分類学の新たな知見が得られてきた。これまでの分類学の歴史を理解するとともに、生物同定の技術を確立する。				
到達目標	本講義では、生物分類について生物学・博物学の知識をふまえて学ぶ。そこで、生き物の分類の仕方や名づけについて、体系的に理解し、技術として獲得することを目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 分類学の研究史 第3講 博物学の研究史 第4講 生物世界の分類体系 第5講 生物世界の階層構造 第6講 生物学の種概念 第7講 生物標準和名 第8講 国際命名規約 第9講 外来生物との交雑 第10講 学名とタイプ標本 第11講 種の構造と多様性 第12講 無セキツイ動物 第13講 新種の発見と記載 第14講 進化学との関連性 第15講 分子生物学との関連性 定期試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは無し 参考文献				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート30%、試験70%				
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示し、時間内に回答して提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは毎回添削後返却し、解説を行う。				
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション、レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	普段の身の回りの何気ない生物にもそれぞれ名づけが行われてきた過去の歴史や研究者の情熱を感じ取って、皆さんが学ぶ意識の向上に役立てることができればと考えています。				

授業科目名	海洋調査法		科目コード	371219	授業コード	416103	
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EEE2003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	四日市大学の単独航海として三重大学の勢水丸をお借りして、2泊3日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行う。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにする。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにする。船内で規律ある団体生活を体験し、班分けで活動することで、協調性などの社会人基礎力も養成する。						
到達目標	伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる力を身に着ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第2講 伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第3講 実習オリエンテーション（実習開会式含む）（勢水丸船内・実習1日目） 第4講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習1日目） 第5講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第6講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第7講 観測データ分析（船内実習1日目） 第8講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習2日目） 第9講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第10講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第11講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第12講 海洋調査実習（船内清掃など）（船内実習3日目） 第13講 海洋調査実習（実習終了式含む）（船内実習3日目） 第14講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業） 第15講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）						
テキスト・教材（参考文献）	なし。資料を配布する。						
事前・事後学習	事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること（180分）。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習は必須である。						
成績評価方法	実習への取り組み姿勢（70%）と実習報告書（30%）により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別の事情がある場合を除いて、出席を必須とする。						
授業内の課題・提出方法	勢水丸で観測したデータをエクセル等でまとめて、それをワード文書に貼り付けて報告書を作成する。提出はメール添付を予定している。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告書は最後の授業後に提出させるので、そのフィードバックは特に考えていないが、希望する者には採点した報告書を開示する。実習時のフィードバックは現場で行う。						
アクティブラーニング	事前授業は反転授業（学生が調べたことを発表し、互いに学ぶ）形式で行う。 勢水丸での実習は、班分けして調査、食事の準備と片付け、清掃等を行う。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	水産資源が減少し、コウナゴの禁漁が続くなど、伊勢湾の環境に異変が起きています。海の環境問題を知りたい人、海洋調査の手法を学びたい人は履修してください。						

授業科目名	環境実験・調査 a		科目コード	371220	授業コード	414702	
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EEE2004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	この授業では、河川・湖沼・海洋などの陸域・海域に広がる水圏環境、森林・農地・都市などを支える基盤となる地圏環境に関する基礎的な調査・測定の方法を学ぶ。						
到達目標	調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、正しく報告することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方 (廣住) 第2講 水圏環境① 物理指標 水温・pH (大八木) 第3講 水圏環境② 物理指標 浮遊懸濁物質 (大八木) 第4講 水圏環境③ 生物指標 BOD (大八木) 第5講 水圏環境④ 化学指標 窒素 (大八木) 第6講 水圏環境⑤ 化学指標 リン (大八木) 第7講 水圏環境⑥ 化学指標 COD (大八木) 第8講 水圏環境⑦ 分析演習 塩水と砂糖水の水質比較 (大八木) 第9回 地圏環境① 野外での土壌調査 (廣住) 第10回 地圏環境② 土壌のpHとEC (廣住) 第11回 地圏環境③ 三相分布 (廣住) 第12回 地圏環境④ 有機物量 (廣住) 第13回 地圏環境⑤ 窒素 (廣住) 第14回 地圏環境⑥ リン (廣住) 第15回 地圏環境⑦ カリウム (廣住)						
テキスト・教材 (参考文献)	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。						
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください						

授業科目名	陸水学	科目コード	371221	授業コード	414502
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	EEE3001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>				
授業のねらい	<p>日本は古来から水資源が豊かな国であり、恵まれた水環境の中で歴史を刻んできた。しかし、高度経済成長期には公害問題、80年代には富栄養化問題、そして現在ではダム建設の必要性の有無が問われているなど水環境と人との関わりの中で、さまざまな現状と直面している。そこで、陸域の水環境を通じて、理解を深めていきたい。</p>				
到達目標	<p>本講義では、湖沼や地下水などの物質循環を理解するとともに、水域環境の現状と問題点を整理し、環境保全・環境再生や復元のための基礎理論や技術を学ぶことを目標とする。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、陸水学の歴史  第2講 水資源と水循環  第3講 陸水の環境科学  第4講 湖沼成因  第5講 湖沼分類  第6講 湖沼の生物的特性  第7講 湖沼の化学的特性  第8講 湖沼の物理的特性  第9講 湖沼堆積物  第10講 古陸水学的手法  第11講 水田  第12講 ダム湖  第13講 地下水  第14講 陸水域の災害  第15講 陸水環境の保全と管理  レポート試験  簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキスト  松本嘉孝ほか、身近な水の環境科学（第2版）、朝倉書店、2022、2600円＋税  参考文献  西條八束・三田村緒佐武「新編湖沼調査法」講談社（2016）3400円</p>				
事前・事後学習	<p>授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>小レポート 30% レポート 70%</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>小レポートについては、毎回採点し返却時に解説を行う。</p>				
アクティブラーニング	<p>実習、レポート</p>				
実務経験のある教員					
担当者から一言	<p>各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。</p>				

授業科目名	森林学	科目コード	371222	授業コード	412706
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	EEE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。				
授業のねらい	日本の国土の7割を占める森林がどのような特徴を持ち、環境保全にどのように関連するかを明らかにしていきます。次に、経済的な問題を説明します。				
到達目標	日本の環境保全を考える上で、土台となる森林に関する知識を養うこと、人間とのかかわり(森林からどのように財を生み出すかを含む)を生物学の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス・四日市本来の自然林と人工林： 大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 森林生態系の基礎：植物の光合成 第3講 植物同士の競争と遷移 第4講 西日本の極相：照葉樹林(mast fruitingの確認のフィールドワーク) 第5講 東日本の極相：夏緑樹林(落葉広葉樹林) 第6講 二次林：どんぐり食糧から薪炭利用へ 第7講 貧栄養土壌と松林(二次林のなれの果て) 第8講 人工林：技術発展による木材利用の変化(イケアなどの集成材) 第9講 スギ植林の問題点(挿し木杉植林について意見を述べる実習) 第10講 森林(ブナ極相林)における動物相 第11講 獣害(人を食い殺すツキノワグマやオオカミ) 第12講 コアエリア計画(積雪地のブナ林で) 第13講 ニホンジカ管理計画(非積雪地のブナ林で) 第14講 ニホンジカの利用：東京におけるジビエ料理の進展 第15講 持続可能な森林に向けて：天然更新 定期試験 持ち込み不可				
テキスト・教材(参考文献)	なし				
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60% 定期試験 40%				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	大学周辺の森の見学(フィールドワーク)をして、四日市市の本来の自然(照葉樹林)と、人間が同森林を作り変えるかを実習・理解します。				
実務経験のある教員	京都大学霊長類研究所の研究員の時に、夏緑樹林における生態の研究に従事し、日本獣医生命科学大学野生動物学教室と共同研究し、成果をアメリカ・イギリスの国際英文学術誌(査読付き)に発表しました。				
担当者から一言	できるだけ日常的な言葉で説明します。				

授業科目名	土壌学	科目コード	371223	授業コード	414402
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	EEE3003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる				
授業のねらい	土壌は、農業・林業などによる生産機能だけでなく、環境変化に対する緩衝機能や環境汚染に対する浄化機能など、有益で重要なさまざまな機能を持っている。この講義では、土壌の基本的な性質や機能を学ぶだけでなく、土壌が地球環境や生態系のなかでどのような地位を占め、どのような役割を果たしているかを学ぶ。また、三重県の土壌についても紹介する。				
到達目標	土壌の成り立ちや構造、土壌のもつ性質や機能を理解する。土壌を地球にある有限な資源のひとつとして捉え、地球環境のなかで土壌が果たす役割について考えることができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 土壌とは何か？ (土壌の成り立ち) 第2講 土壌の生成 一月に土壌はあるか？ 第3講 土壌の分類 世界の世界の土、日本の土、三重の土 (土壌のつくり) 第4講 土壌の構造 土は何でできている？ 第5講 土壌生物と土壌有機物 土のなかの生き物たち 第6講 土壌のpHと温度 住み心地はいかが？ (土壌のはたらき) 第7講 土壌の保水性 水もちの良さはどう決まる？ 第8講 土壌の排水性 水はけのよい土わるい土 第9講 土壌の保肥性 土はどうやって栄養を蓄える？ (土壌の種類と特徴) 第10講 いろいろな土壌① 森林の土壌 第11講 いろいろな土壌② 水田の土壌 第12講 いろいろな土壌③ 畑地の土壌 第13講 いろいろな土壌④ 施設・草地・樹園地の土壌 (環境と土壌) 第14講 土壌の浄化機能と土壌汚染 土壌を守る 第15講 土壌の劣化と保全 土壌を育む 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：松中照夫著「土壌学の基礎」農文協(2004年)、久馬一剛編著「最新土壌学」朝倉書店(1997年)、安西徹郎・犬伏和之編「土壌学概論」朝倉書店(2001年)などを推奨する。				
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「生物学概論」・「地学概論」・「環境化学」・「生態学」・「食糧生産学」を履修していることが望ましい。				
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。				
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	私たちの足もとにある土壌は地球の歴史とともに育まれてきました。長い時間の流れに想いを馳せながら、これから土壌とどう付き合っていくのか考えてみてください。なお、本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。				

授業科目名	食糧生産学	科目コード	371224	授業コード	411307
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	EFE2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる				
授業のねらい	世界人口の増加による食糧需要の増大、気候変動やバイオエネルギーとの競合などによる食糧供給の不安定化、生産にともなう環境の汚染や破壊など食糧への関心が高くなっている。この講義では、農業・水産業・畜産業などの食糧生産の基礎を学ぶ。				
到達目標	世界の食糧事情と食糧生産システムについて理解する。農業・水産業・畜産業など食糧生産に関する産業の基礎を理解する。食糧生産に関する環境問題について考えることができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、現在の食糧事情と生産体系 第2講 農業① 農耕の起源と作物 第3講 農業② 日本の農業と作物生産の特徴 第4講 農業③ 作物生育と栽培環境・栽培管理 第5講 農業④ 稲作と水田農業 第6講 農業⑤ 野菜・果樹・花の生産 第7講 水産業① 日本の漁業の歴史と特徴 第8講 水産業② 漁業の仕事と制度 第9講 水産業③ 養殖と栽培漁業 第10講 水産業④ 海洋の資源と環境の保全 第11講 畜産業① 畜産業と畜産物 第12講 畜産業② 世界と日本の畜産業 第13講 食糧生産と環境問題 第14講 新しい食糧生産技術 第15講 これからの食糧生産 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：八木宏典監修「知識ゼロからの現代農業入門」（2018年）、濱田武士監修「知識ゼロからの現代漁業入門」（2017年）、八木宏典監修「知識ゼロからの畜産入門」（2018年）などを推奨する。				
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。				
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。				
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	毎日の食卓に並ぶ料理の食材は、化学・物理学・生物学・地球科学の科学的知識と現場で培われた実践的経験を駆使して栽培・飼育・採取・捕獲されたものです。普段から、ひとつひとつの食材をよく観察し、どのようにして食卓に並んだのか考えながら、感謝しておいしくいただきます。				

授業科目名	食品微生物学	科目コード	371225	授業コード	414302
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	EFE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	微生物は環境問題について解決する役割を担うことができることが期待されている。そこで、微生物学の基礎を学ぶとともに環境中での各種微生物の働きについて事例紹介をふまえて知り、理解を深める。				
到達目標	本講義では、環境微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。現在地球規模で問題となっているさまざまな課題への自身の考えを正しく持つことを目標とする。				
授業計画	第1回 ガイダンス、微生物学の歴史 第2回 微生物の分類 第3回 環境中の微生物分布 第4回 物質循環に関わる環境微生物 第5回 微生物の構造 第6回 微生物の栄養と増殖 第7回 微生物の代謝 第8回 微生物の増殖制御と殺菌 第9回 各圏の環境微生物の働き 第10回 極限環境微生物 第11回 微生物による排水処理 第12回 微生物による汚泥処理 第13回 食糧生産と微生物 第14回 環境モニタリング 第15回 微生物とバイオエネルギー 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト環境微生物学，久保幹ほか，化学同人，3000円+税				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート30%、試験70%				
授業内の課題・提出方法	講義の最後に関連する問題や課題を解き、その時間内で提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは毎回添削後返却し、解説をします				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	日頃から関連するニュースや事象に興味関心を持ち、積極的な受講を望みます。				



授業科目名	食品衛生学	科目コード	371226	授業コード	414607
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	EFE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる				
授業のねらい	風通しや日当たりなどの住まいの快適さ、水や食事など食生活の質といった生活環境が、私たちの生命や健康に影響を与えることは古くから知られていた。この講義は生活者側の視点から、生活環境が人の健康や暮らしにどのような影響を与えるかを学ぶ。				
到達目標	人の健康と病気のしくみについて理解する。安全で快適な住まいや労働環境について理解する。水や食事等の食生活が健康に与える影響を理解する。わが国において健康と生活を守るしくみがどのように成り立っているか理解する。生活に関わる地域環境問題について理解する。				
授業計画	第1講 ガイダンス、安全で快適な暮らしと生活環境 第2講 人の健康・病気と有害物質の影響 第3講 大気・空気環境と生活や労働に適した温熱条件 第4講 水と生活のかかわり 第5講 食生活と健康 第6講 食品と微生物 第7講 食品の変質① 腐敗と化学的変質 第8講 食品の変質② 変質の防止 第9講 食中毒① 食中毒の概要と発生状況 第10講 食中毒② 微生物による食中毒 第11講 食中毒③ 自然毒・化学物質による食中毒 第12講 有害物質による食品汚染 第13講 汚水や廃棄物の処理 第14講 生活環境問題① 大気汚染・水質汚濁 第15講 生活環境問題② 土壌汚染・地盤沈下・感覚公害 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。				
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。				
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。				
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	近な話題も交えながら生活環境と健康の関係についてお話したいと思います。これをきっかけに自分たちの生活についても見直してみてください。				

授業科目名	環境実験・調査 b		科目コード	371227	授業コード	414106	
担当教員	大八木 麻希		科目ナンバリング	EFE2004			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<p>専門技術者に求められる倫理観を身につけている  地域の持続的発展のために貢献できる  環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる</p>						
授業のねらい	<p>私たちが生活するうえでの身の回りの環境について、科学的現象として実験をふまえて、正しい知識を身に付ける。</p>						
到達目標	<p>調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、正しく報告することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、実験の心構え・準備  第2回 生活環境① 洗浄実験 合成洗剤の働き (大八木)  第3回 生活環境② ミネラルウォーターの硬度測定 (大八木)  第4回 生活環境③ 硬水と軟水の抽出率の違い (大八木)  第5回 生活環境④ 溶液の密度測定 (大八木)  第6回 生活環境⑤ 清涼飲料水の糖度・酸度測定 (大八木)  第7回 生活環境⑥ 食品部位によるDNA抽出量の違い (大八木)  第8回 生活環境⑦ プラスチック類の分類 (大八木)  第9講 都市環境① 気温と湿度 (廣住)  第10講 都市環境② 雨量と酸性雨 (廣住)  第11講 都市環境③ 風 (廣住)  第12講 都市環境④ 花粉・粉じん・PM2.5 (廣住)  第13講 都市環境⑤ 照度 (廣住)  第14講 都市環境⑥ 騒音 (廣住)  第15講 都市環境⑦ 不快指数と暑さ指数 (廣住)</p>						
テキスト・教材 (参考文献)	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。						
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。						

授業科目名	農産物流論	科目コード	371228	授業コード	412405
担当教員	川崎 綾子	科目ナンバリング	EFE3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる				
授業のねらい	本講義では流通論の概念や論理を理解した上で、小売企業の流通活動について考察する。考察を通じて流通論の理解を深めることを、本講義のねらいとする。				
到達目標	流通論の論理や枠組みについて理解した上で、企業の流通活動に対する改善案や新たな流通戦略を提示できる。 流通論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。				
授業計画	1 ガイダンス / 単位取得に関する注意事項 2 流通とは / 生産者、商業者、消費者の視点 3 百貨店と総合スーパー / チェーン・オペレーション 4 食品スーパー / 日本市場特有のニーズ 5 コンビニエンス・ストア / 立地・時間・品揃えという価値 6 ディスカウント・ストア / 規模の経済 7 SPA / 伝統的な分業体制とのちがい 8 商店街とショッピングセンター / 開発業者とテナントの関係 9 流通構造と日本型取引慣行 / 映画産業の事例 10 日本型の商慣行と、その崩壊 / 流通系列化 11 農産物流論 / 卸売市場とは 12 付加価値 / 青果物の流通 13 青果物の流通 (2) 14 青果物と食品の流通 15 Amazonの流通システム、イオンの歴史 定期試験				
テキスト・教材 (参考文献)	石原武政・竹村正明・細井謙一編著『1からの流通論 (第2版)』碩学舎。				
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、流通戦略の立案練習に取り組むことが望ましい (毎週3時間程度)。				
成績評価方法	中間レポート 50% 定期試験 50%				
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は、講義中にmoodleから提出すること。 ② 中間レポートも、moodleから提出してもらう予定。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義中にコメントする。 優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。				
アクティブラーニング	出席確認の課題についても、優秀な解答は講義中に紹介する場合がある。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが、1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります。  ※2回以上、私語の注意を受けた人には原則、単位を認めません。 また許可された時間以外にスマホを使用した場合、2回目の注意を受けた時点でその日は原則、欠席扱いとなります				

授業科目名	農業経営論	科目コード	371229	授業コード	415605
担当教員	鶴田 利恵	科目ナンバリング	EFE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる				
授業のねらい	この講義では、日本および国際的な農業問題やビジネスの変化について理解していきます。日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成?期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスががどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT(貿易と関税に関する一般協定)やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。また、実際にどのような農業経営が行われているのかいくつかの事例を見ていきます。				
到達目標	日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 日本の農業の現状1:農地、農家、農業産出額 第3講 日本の農業の現状2:農業生産の縮小と食糧自給率の低下 第4講 日本の農政1:戦後改革と農業、食糧制度 第5講 日本の農政2:高度成長と農業、農業基本法、総合農政 第6講 日本の農政3:グローバル化と農業経営 第7講 農業経営の事例（1） 第8講 農業経営の事例（2） 第9講 世界の食糧事情と問題点 第10講 穀物貿易の特質 第11講 農業保護政策 第12講 輸出競争とGATT農業交渉 第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ 第14講 地域連携協定と農業問題 第15講 講義のまとめ				
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します				
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(90分以上)。				
成績評価方法	小テスト20%、期末テスト80%により評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、講義中及び講義終了後の質問には適宜コメントします。				
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。				

授業科目名	メディア情報と文化		科目コード	371301	授業コード	412608	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EMI2001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	分野必修
授業の位置づけ	23環境DP1、DP3						
授業のねらい	<p>私たちにとって最古であり、かつ根本をなすメディアは、自身の身体である。目で見、耳で聴き、手で触り、空気を感じた情報から心・表情・言葉・コミュニケーションが生まれ、文化が育った。人間固有の文化である祈り・祭りから様々な表現が分化して、歌・音楽・舞踊・美術・文芸などの芸術として発展して、多様なメディアとその上に載る感性情報の展開を導いた。</p> <p>本授業では、人類社会の基層にある文化について学び、メディア情報と文化との関連性を理解するとともに、人間にとってメディアとは何なのかを考える。</p>						
到達目標	メディア情報の歴史、人間文化の歴史の中で自分の立つ位置、現代のメディア情報の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 人間と文化 人間と動物の違い</p> <p>第3講 人間と文化 人類はどのように世界にひろがったのか</p> <p>第4講 人間と文化 文化をつくる脳の働き</p> <p>第5講 人間と文化 原初の生活と文化</p> <p>第6講 人間と文化 文化の進化</p> <p>第7講 人間と文化 文化の多様性</p> <p>第8講 文化の諸相 文明の生態史観</p> <p>第9講 文化の諸相 文化の伝播と発展</p> <p>第10講 文化の諸相 文化の衝突</p> <p>第11講 文化の諸相 文化相対主義</p> <p>第12講 文化の諸相 神と祭り</p> <p>第13講 メディア情報と文化 祝祭から生まれたメディア情報</p> <p>第14講 メディア情報と文化 伝統の智慧/技術が造る現代の祭り</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)</p>						
テキスト・教材(参考文献)	<p>テキストはありません。</p> <p>必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。</p>						
事前・事後学習	毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り(90分)、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。						
成績評価方法	<p>次の配分で総合評価します。</p> <p>受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)</p> <p>定期試験(60%)</p>						
授業内の課題・提出方法	小レポートを課すことがあり、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。						

授業科目名	脳・音・光の科学 I		科目コード	371302	授業コード	412207	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EMI2002			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	分野必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。 感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。 (1) 感覚と脳の仕組みと機能の概要を学びます。 (2) 音の物理、聴覚の生理・心理の基礎を学びます。 (3) 光の物理、視覚の生理・心理の基礎を学びます。						
到達目標	(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。 (2) 音と聴覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。 (3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 脳 感覚と脳 第3講 脳 脳の構造と機能 第4講 音・光 物理 音とは？ 第5講 音・光 物理 光とは？ 第6講 音・光 物理 伝播・反射・吸収 第7講 音・光 物理 屈折・回折・干渉ほか 第8講 音 生理 聴覚のしくみ① 第9講 音 生理 聴覚のしくみ② 第10講 音 心理 音の三要素 第11講 光 生理 眼球の構造要素 第12講 光 生理 視細胞/視神経 第13講 光 心理 視力 第14講 光 心理 色覚 第15講 まとめ 音と光 定期試験 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)						
テキスト・教材 (参考文献)	テキストはありません。 講義中にプリントを配付します。 〈参考文献〉 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社 (2001年) 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社 (2016年) 仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」 (2013年)						
事前・事後学習	授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習する (90分) とともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい (90分)。 後期の「メディア表現の科学」(「脳・音・光の科学II」) で継続した内容の授業を行います。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等 (45%) 定期試験 (55%)						
授業内の課題・提出方法	授業内に確認テストを課し、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後 (次回など) に解説を行います。						
アクティブラーニング	参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。						

授業科目名	ソフトウェア論	科目コード	371303	授業コード	414303
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	EMI2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	分野必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	コンピュータソフトウェアの役割について学びます。ソフトウェアについて理解するにはその動作原理であるアルゴリズムを理解する必要があります。実際にソフトウェア作成するためにはプログラミング言語について理解する必要があります。また、ソフトウェアの基盤を担っている基本ソフトウェア（オペレーティングシステム）についても理解していることが望ましいです。この授業ではアルゴリズム、基本ソフトウェアの基礎について理解することを目指します。				
到達目標	ソフトウェアの動作原理を理解する。基本ソフトウェアであるOSの基本について理解する。ITパスポートのテクノロジ分野のソフトウェアに関する項目を理解する。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ソフトウェアは何ができるか 第3講 応用ソフトウェアと基本ソフトウェアとデバイスドライバ 第4講 応用ソフトウェアの実行 第5講 プログラミング言語 第6講 コンパイラとインタプリタ 第7講 アルゴリズム 第8講 アルゴリズムとフローチャート (1) 第9講 アルゴリズムとフローチャート (2) 第10講 アルゴリズムとフローチャート (3) 第11講 基本ソフトウェアとは 第12講 基本ソフトウェアの働き (ファイルシステム) 第13講 基本ソフトウェアの働き (マルチタスク) 第14講 デバイスドライバ 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材 (参考文献)	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。				
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。				
成績評価方法	Moodleでの課題と小テストなど40%、定期試験60%で評価します。				
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、課題を提出します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等をフィードバックします。				
アクティブラーニング	ミニツツペーパー				
実務経験のある教員					
担当者から一言	「情報科学概論」「ハードウェア概論」をあわせて履修することを勧めます。				

授業科目名	メディアの歴史		科目コード	371304	授業コード	415206	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EMS2001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。</li> </ul>						
授業のねらい	テレビやラジオ、新聞といった従来のメディアは、インターネットの普及後、SNSなどのインターネットメディアが誕生することで多様化してきました。さらには、人工知能（AI）やVR技術をはじめとするテクノロジーの急速な進化によって人々の情報伝達やコミュニケーションも進化・変化を続けています。本講義は、文字の発明から現在のメディア社会に至るまで、メディアの歴史を学ぶと同時に、これからのメディアと私たちの未来を展望します。						
到達目標	私達は何を望んで今のメディア環境があるのか？また、メディアの進化によって私達の生活や社会はどう変わったか？など、メディアと私達の関りについて歴史から紐解き理解すると共に、変化を続けるメディア環境を生きる私達の今や、未来について考察できるようになることが目標。変遷のあらましを把握することが目的ではなく、過去や現状を理解しつつ、未来に向けて考えを掘り下げることが本講義の最も重要なポイントです。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 文字 第3講 印刷 第4講 ラジオ 第5講 写真 第6講 映画 第7講 プロパガンダ 第8講 テレビ 第9講 モバイルデバイス 第10講 コンテンツメディア 第11講 デジタルコンテンツ 第12講 メディアと芸能 第13講 現在のメディア社会 第14講 メディアと人々のつながり 第15講 情報社会とインターネット 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小テスト及び課題（40%）、定期試験（60%） なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
アクティブラーニング	小レポート、小テスト、ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						



授業科目名	脳・音・光の科学Ⅱ		科目コード	371307	授業コード	411809
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EMS2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	<p>私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。特に、表現・演出につながる特徴に注目します。</p> <p>感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。</p> <p>(1) 感覚・認識に限界があることを学びます。また、脳の諸機能について学び、心の動き・文化の役割について理解を深めます。</p> <p>(2) 音の様々な心理的効果とその応用例について学びます。</p> <p>(3) 目に映る光と影から世界を把握する仕組みを学び、ものが見えるとはどういうことなのかを考えます。</p>					
到達目標	<p>(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。</p> <p>(2) 音と聴覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。</p> <p>(3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。</p>					
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 脳 生き物と環境</p> <p>第3講 脳 意識と無意識</p> <p>第4講 脳 快感</p> <p>第5講 脳 記憶と文化</p> <p>第6講 脳 表現と祝祭</p> <p>第7講 脳 感性の源</p> <p>第8講 音 心理 なぜ人間の耳は左右についているのか？</p> <p>第9講 音 心理 音の心理的効果と応用</p> <p>第10講 音 心理 音楽と心理</p> <p>第11講 光 心理 輪郭が見えるとは/錯視</p> <p>第12講 光 心理 図と地/不思議絵</p> <p>第13講 光 心理 奥行き知覚と立体視</p> <p>第14講 音・光 心理 その他関連分野</p> <p>第15講 音・光</p> <p>定期試験</p> <p>(内容・順序を変更することがあります)</p>					
テキスト・教材 (参考文献)	<p>テキストはありません。</p> <p>講義中にプリントを配付します。</p> <p>〈参考文献〉</p> <p>山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社 (2001年)</p> <p>池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社 (2016年)</p> <p>仁科工ミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」 (2013年)</p>					
事前・事後学習	<p>前期の「音と光の科学」(「脳・音・光の科学I」)を先行して履修していることが望ましい。</p> <p>授業中に示す次回のキーワードを事前に調べて予習して下さい(90分)。</p> <p>授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。</p>					
成績評価方法	<p>次の配分で総合評価します。</p> <p>受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等 (45%)</p> <p>定期試験 (55%)</p>					
授業内の課題・提出方法	授業内に復習課題を課し、教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後(次回など)に解説を行います。					
アクティブラーニング	体験型の演習や参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。					

授業科目名	次世代メディア社会	科目コード	371310	授業コード	411104
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	EMS3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる専門技術者に求められる倫理観を身につけている				
授業のねらい	メディアを造る人の心、作品を創る人の心を考える講義です。 現代日本人は様々なメディアの存在が不可欠な日常生活を送っています。次々と新しいメディア製品・サービスが発売され、作品群が発表されます。次に何が来ようとしているのか、時代の変遷に関わらず大切なことは何なのでしょう。偉大な先人たちは何を求めて、何に努めていて、何を守っていたのでしょうか。次世代のメディア社会について、ユーザとして、観客・視聴者として、読者として、あるいはクリエイター・アーティストとして、よく考えましょう。				
到達目標	一流のプロフェッショナルが持つクリエイティビティの有り様を知り、自分の次の一步を考察する。				
授業計画	第1講 ガイダンス/講義の概要 第2講 映画制作現場 第3講 コンピュータグラフィックス 第4講 音楽の楽しみ方 第5講 ジョブズは世界を変えた 第6講 制作プロデューサー 第7講 アニメーション制作現場 第8講 サラウンド音響 第9講 炎と花火 第10講 メディアの発達要因 第11講 メディアアート 第12講 バーチャルリアリティ (VR) 第13講 庭づくり 第14講 近未来予測 第15講 まとめ 定期試験 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)				
テキスト・教材 (参考文献)	テキストはありません。 講義中に、参考にする映像・音楽を視聴します。				
事前・事後学習	毎回の講義で示す事例を振り返るとともに調べて (90分)、自分自身の課題にどう活かしていけるか考えて下さい (90分)。 前後して「メディア情報産業論」(3年次後期開講)とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。				
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等 (40%) 定期試験 (60%)				
授業内の課題・提出方法	小レポートを教室で提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に、小レポートの内容などについて意見交換を行います。				
アクティブラーニング	意見交換を行います。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	「次世代メディア社会」では主に個人の視点から、「メディア情報産業論」(3年次後期開講)では主に社会的な見地からメディア情報を捉えます。				

授業科目名	コンピュータ音楽論		科目コード	371311	授業コード	412208	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EMS3003			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	コンピュータ音楽の歴史や技術面の理解、コンピュータによる作品制作時において、オリジナルの音を創作し、音作品や映像作品に行かせる知識と技術について座学と実習で学ぶ。						
到達目標	コンピュータを利用した音楽制作の歴史、作品制作のための技術や技法を、作品鑑賞や座学と実習の中で理解し、自分の音楽作品や映像作品等に活かせる、シンセサイザー音のeditや、録音素材の加工技術を習得することを旨とする。						
授業計画	<p>・講義ではMac(Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス・基礎知識</li> <li>2.デジタル信号処理・メディアの変容</li> <li>3.エフェクターの知識※</li> <li>4.音の創作1※</li> <li>5.音の創作2※</li> <li>6.効果音創作1※</li> <li>7.効果音創作2※</li> <li>8.サンプリング・音の加工1※</li> <li>9.サンプリング・音の加工2※</li> <li>10.Vocalの録音と処理2※</li> <li>11.曲をつくるには※</li> <li>12.楽曲制作1※</li> <li>13.楽曲制作2※</li> <li>14.作品制作※</li> <li>15.講評・まとめ</li> </ol> <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	※必ずUSBメモリーや外付けSSD等を用意する事。(16GB以上 USB3.0規格推奨) テキストは適時配布。						
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Macのある教室(5201)が空いている時に、授業時間内にできなかった課題を進めたり、操作予習をしてMacの操作を理解しておくこと(90分) 日ごろから音楽に触れておくことで実習の際のアイデアを作っておくこと(90分)						
成績評価方法	受講態度30%(授業中の課題状況、受講態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業時間外は、Moodleやメールにて提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なもので、当日中に講評できるものは当日授業中に講評。 基本的には翌週に講評を行う。 質問などのフィードバックはその都度行う。						
アクティブラーニング	Macを使った制作実習を行います。						
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有						
担当者から一言	<p>本講義で応用的なサウンドメイクを学び、製作作品にさらなるオリジナリティを与えられるようになりましょう。 メディアツールD受講後の履修が一番スムーズな理解に繋がります。 共に音を学びましょう。</p> <p>※20名の受講制限あり。初回授業で抽選をするので欠席・遅刻をしないように</p>						

授業科目名	コンピュータグラフィックス	科目コード	371312	授業コード	411811
担当教員	山本 努武	科目ナンバリング	EMS3004		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの定番ソフトウェア、Adobe After Effectsの基本操作を習得しながら、短編映像作品を制作します。毎回サンプルデータを用いて操作方法や効果を説明し、それを元に各自が工夫して習作を制作します。				
到達目標	After Effectsの習得を通して、CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの基礎を身につけ、多様な映像表現能力を獲得する。				
授業計画	0. オリエンテーションとキーフレームアニメーション 1. 多層的なキーフレームアニメーション 2. シーケンシャルアニメーション 3. 関節アニメーション 4. 3Dレイヤーアニメーション 5. 動画素材を使ったエフェクト1 6. 動画素材を使ったエフェクト2 7. クロマキー合成入門 8. マッチムーブアニメーション1 9. マッチムーブアニメーション2 10. 作品企画、絵コンテ作成 11. 作品企画、素材準備、制作 12. 作品制作 13. 作品制作 14. 作品鑑賞会				
テキスト・教材（参考文献）	教員が用意します。				
事前・事後学習	この授業ではAdobe PhotoshopやIllustratorも併用しながら進行しますので、メディアツールa, b, cの受講を強く勧めます。				
成績評価方法	授業姿勢：80% 作品課題：20%				
授業内の課題・提出方法	学内ファイルサーバへデータを提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	LINE、Zoomなどを用いて適宜質問やフィードバックに応じます。				
アクティブラーニング	作品制作				
実務経験のある教員					
担当者から一言	After EffectsはAdobe Creative Cloudの中でも難易度の高いソフトウェアのひとつですが、習得することによって映像表現の幅がぐんと広がります。是非積極的に取り組んでください。				

授業科目名	ポップカルチャー論		科目コード	371313	授業コード	412609	
担当教員	山本 伸		科目ナンバリング	EMS3005			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるメディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	まずはポップカルチャーが内包する社会学的な本質について理解し、次に沖縄のポップカルチャーを通して基本的で具体的な沖縄の文化や哲学、社会についての知識を学びます。ポップカルチャーに意識的、無意識的に含まれる社会学的で文化的、民俗的な要素を探ることで、ポップカルチャーがその地域や時代を反映した文化創出であることを知る。						
到達目標	学習時に度々目や耳にする「うちなーぐち（沖縄方言）」のいくらかは意味がわかるようになること、沖縄の風習や考え方を通して現代社会全般を考える発想力を身に付けること、さらには逆に現代社会が抱える課題とは何かを思考できる能力を身に付ける、などを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス/沖縄に関する概略、ポップカルチャーの社会学的側面 第2講 『琉神マブヤー』（1） 第3講 『琉神マブヤー』（2） 第4講 『琉神マブヤー』（3） 第5講 『オキナワノコワイハナシ』 第6講 『琉神マブヤー』（4） 第7講 『琉神マブヤー』（5） 第8講 『琉神マブヤー』（6） 第9講 沖縄の音楽文化 古典民謡からポップスまで 第10講 『琉神マブヤー』（7） 第11講 『琉神マブヤー』（8） 第12講 『琉神マブヤー』（9） 第13講 『琉神マブヤー』（10） 第14講 『ウルトラマン』 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	山本 伸著 『琉神マブヤーでーじ読本：ヒーローソフィカル沖縄文化論』 三月社 2015年 定価：2, 376円（税込）						
事前・事後学習	前週に出された課題（テキストの熟読/わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい/ノート整理等）に90分をそれぞれかけて事前事後学習をしてください。						
成績評価方法	平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度）30%、レポートまたは期末試験70%で総合的に判断します。						
授業内の課題・提出方法	個人メールにて提出のこと						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	個人メールでの返信をもってフィードバックとする						
アクティブラーニング	授業内におけるフロアとの質疑応答のインターアクションをもってアクティブラーニングとします。						
実務経験のある教員	沖縄国際大学大学院（総合文化研究科）での20年以上の非常勤講師歴						
担当者から一言	沖縄に行ったことのある人もない人も、琉神マブヤーは本当に魅力的な奥深い特撮ヒーローです。						

授業科目名	感性と創造		科目コード	371314	授業コード	415608	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	ESP2001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS文化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。</li> <li>・作品の完成に向け建設的な取り組みができる。</li> </ul> これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要～写真1 第2講 写真2 第3講 発表～ディスカッション 第4講 絵コンテ（企画・構成） 第5講 絵コンテ（制作） 第6講 絵コンテ（制作） 第7講 発表～ディスカッション 第8講 発表～ディスカッション 第9講 ストップモーションムービー（企画・構成） 第10講 ストップモーションムービー（撮影） 第11講 ストップモーションムービー（編集） 第12講 発表～ディスカッション 第13講 発表～ディスカッション 第14講 作品鑑賞～分析 第15講 作品鑑賞～分析						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、ペアワーク						
実務経験のある教員							
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないで下さい。また、本講義は、スマートフォンを利用する機会が多々ありますが、必要な作業以外での使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	表現と思想	科目コード	371315	授業コード	414107
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	<p>プロが撮影や取材現場で使用するカメラを使ったロケや、グループを作って企画・録音・編集を自分たちの手で行うラジオCM。</p> <p>また静止画と文章を組み合わせるストーリーを構成する授業などを行います。</p> <p>特に制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を多く設け、「つくる」だけでなくメディアに必要な「伝える」ことの大切さを体験して身につけることを狙いとします。</p>				
到達目標	<p>プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。</p>				
授業計画	<p>第1講：ガイダンス ～クリエイティビティとは何か～</p> <p>第2講：ポートレート① 自分自身</p> <p>第3講：ポートレート② なりきり</p> <p>第4講：ポートレート③ プレゼンテーション</p> <p>第5講：フォトエッセイ① 制作</p> <p>第6講：フォトエッセイ② 制作</p> <p>第7講：フォトエッセイ③ プレゼンテーション</p> <p>第8講：撮影実習 カメラの基本操作①</p> <p>第9講：撮影実習 カメラの基本操作②</p> <p>第10講：シナハン・ロケハン</p> <p>第12講：脚本制作</p> <p>第13講：撮影①</p> <p>第14講：撮影②</p> <p>第15講：プレビュー&amp;まとめ</p> <p>※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。				
事前・事後学習	<p>制作だけでなく、授業以外にも自ら継続的に創作活動を行う意識を持ってください。</p> <p>日々様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、舞台、テレビ番組、小説、配信番組、ライブコンサートなど、スキルアップにつながる行動をどん欲に行う習慣を身につけてください。</p>				
成績評価方法	<p>授業・課題への取り組む姿勢 30%</p> <p>課題制作への意欲・参加度 30%</p> <p>作品内容・完成度 20%</p> <p>試験に代わる課題、もしくはレポート 20%</p>				
授業内の課題・提出方法	教員に直接手渡し。もしくはメール、教学課提出BOXなど、適切な方法を指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	採点し必要に応じて返却します。				
アクティブラーニング	映像作品の制作に関する基礎基本的な静止画の撮影、文章表現、機材を用いての撮影体験やシミュレーションを行います。				
実務経験のある教員	中京テレビをはじめ、在名各テレビ局で番組制作の経験あり。現在も現役として企画から完パケまでを手掛けている。				
担当者から一言	普段から多種多様な作品に触れたり、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。				

授業科目名	映像概論	科目コード	371316	授業コード	414203
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて映像のリアルを学びます。				
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが張れるようになる。 ②授業を通じて一通りの映像制作のノウハウを学び、知識とスキル向上させる				
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画を鑑賞～ 第3講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画の感想～ 第4講 映像作品ができるまで ～企画・制作・編集・OA～ 第5講 映像技術 ～前川先生による講義・映像を実現するテクノロジー～ 第6講 企画書・企画会議とは 第7講 現場取材・インタビューのノウハウ 第8講 台本・脚本の作り方 第9講 作品鑑賞①（サイレント映画） 第10講 作品鑑賞②（1980年代のテレビ番組） 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか ～賛否両論ディベート大会～ 第13講 ドキュメンタリー論 第14講 カメラ体験（撮影のノウハウ） 第15講 映像ビブリアバトル ※授業の進捗状況により、内容の変更や入れ替えがあります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキストや資料を配布				
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。見ることすなわち学習です。さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換する練習を積んでください。とにかく、よく見てよく読む。これが映像制作の事前・事後学習です。				
成績評価方法	授業取り組む姿勢：30%（出席率や授業態度など） 課題への取り組み：30%（内容のクオリティー、締め切り順守） 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、教学課の提出用レターケース、MOODLEのなかで最も効率よく提出できる方法を課題ごとに選択します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション・ディベート・フィールドワークなど、概論として座学の中に人前で発表する時間も設けます				
実務経験のある教員	テレビ番組のディレクターとして35年の経験。現在も名古屋の民放で現役としてスポーツ中心に取材をしている。現場で培ったノウハウを中心に授業を行います。				
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。				



授業科目名	照明概論	科目コード	371317	授業コード	416102
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	音響と照明に関する基礎技術を「集中講義」で身につけます。機材の取り扱いから始まり、プロの制作現場に必要な技術を実践的に学びます。ライブコンサートにおける音響や照明技術を学びたい学生にとっては必須の講義であり、後学期に開講の「音響照明概論」と併せて受講することをお勧めします。 ※ 本講義は「音響照明概論」の後に履修することが望ましい。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>音響と照明の機材を適切に取り扱うことができる。</li> <li>ライブコンサートに必要な技術を身につける。</li> <li>コンサートの完成に向けて、仲間と協力しながら建設的な取り組みができる。</li> </ul>				
授業計画	<p>&lt;1日目 7月20日(土) 予定&gt;</p> <p>第1講 照明1「機材の説明」 第2講 照明2「仕込み図面の読み方～セッティング」 第3講 照明3「セッティング～フォーカス」 第4講 照明4「フォーカス～プログラミング」 第5講 照明5「プログラミング」</p> <p>&lt;2日目 7月21日(日) 予定&gt;</p> <p>第6講 音響1「音響仕込み図の読み方」 第7講 音響2「出力系(スピーカー等)のセッティング」 第8講 音響3「入力系(マイク等)のセッティング」 第9講 音響4「ミキサーの設定」 第10講 音響5「スピーカーの音質調整」</p> <p>&lt;3日目 8月3日(土) 予定&gt;</p> <p>第11講 調整1 第12講 調整2 第13講 調整3 リハーサル 第14講 本番 第15講 まとめ</p>				
テキスト・教材(参考文献)	なし。(必要に応じてプリントを配布します)				
事前・事後学習	予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること(90分) 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと(90分)				
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニツツペーパーを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、実習				
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。				
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修定員を設けるため、受講希望人数が多い場合は抽選を行います。</li> <li>本講義は3日間の「集中講義」であるため、遅刻や欠席が、評価に大きく影響します。</li> <li>怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。</li> </ul>				

授業科目名	音響概論	科目コード	371318	授業コード	414703
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	ESP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>				
授業のねらい	音響と照明に関する、それぞれの基礎知識を「オンデマンド授業」で講義します。光と音の性質を知ることから始まり、演出方法や理論、メカニズムやシステムに関する内容を扱います。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとってこの講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。2年前期開講の「音響照明技術」とあわせて履修することを推奨します。※「音響照明技術」より前に履修することが望ましいです。				
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識や、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気的基础」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「3点照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。必要に応じてMoodleで資料をシェアします。				
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。				
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回の授業時に小テストか小レポートをMoodleで実施します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説はMoodleやオンデマンド動画内で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	小レポート、小テスト				
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎知識や理論をわかりやすく指導します。				
担当者から一言	課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。				

授業科目名	クリエイティブワークⅡ	科目コード	371320	授業コード	413408
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	制作実習を軸とする授業で、映像作品制作を中心に学びます。 講義、演習、実習、編集、プレゼンテーションを通じて、2年次よりもさらにレベルアップした表現方法や知識、技術を習得を目指します。 作品制作を体験することで、様々なものづくりやクリエイティブの本質に触れ「何を表現し、どのように個性を出すか」など、クリエイターとしての知識や感性を磨き上げていきます。				
到達目標	クリエイティブワークにおける三大要素「映像」「音声」「照明」の各分野を、作品制作の経験を通して特性を理解し、身につけることを目標とします。 また第三者が見て「納得」と「満足」のいく作品を作り上げられる人材となることを目指します。				
授業計画	第1講 ガイダンス ～実践的クリエイティブワークとは～ 第2講 作品制作に向けて企画書作成 第3講 作品制作に向けて企画書作成&プレゼンテーション 第4講 構成案づくり 第5講 シナハン・ロケハン 第6講 構成案づくり 第7講 撮影実習 第8講 撮影実習 第9講 撮影実習 第10講 撮影実習 第11講 撮影実習・編集作業 第12講 編集作業 第13講 MA・ナレーション収録 第14講 MA・ナレーション収録 第15講 合評 ※授業の進捗状況により、内容の入れ替えや変更があります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト・資料等を配布します。				
事前・事後学習	作品制作の成功の可否は、事前準備や情報収集によるところ大です。 毎日の生活の中に、映像を見る、本を読む、新聞に目を通す、様々な音楽を聴く、舞台を鑑賞するなど、日常生活とクリエイティブが密接な関係を持っていることが大切です。 感性を磨き、一般的な科目の予習復習とは違う、生活レベルでの事前事後学習を心がけてください				
成績評価方法	授業への取り組み：40% 課題への取り組み：40% 試験に代わる課題レポート：20%				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて、授業内で課題を出します。 提出は担当教員への手渡し、MOODLE、教学課提出BOXなど				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	評価、採点し成績に反映、もしくは返却				
アクティブラーニング	企画書・脚本作成、撮影・編集・MA等実習を通して学びます。				
実務経験のある教員	在名各テレビ局での制作キャリアと、現在も現役として番組制作に携わっています。				
担当者から一言	映像・音響・照明のクリエイティブ3大要素を学びます。 その中で作る楽しさ、大変さ、完成させる喜びを体験してほしいと思います。 共同制作が多くなるので、遅刻・欠席はできません。 「クリエイティブワークⅠ」を受講していることが望ましいです。				

授業科目名	イベント制作演習		科目コード	371322	授業コード	415502	
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	ESP3004			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。</li> <li>・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。</li> </ul>						
授業のねらい	この講義のターゲットは、メディア情報分野の4年生が卒業研究・制作を発表する卒業展を制作することです。その中で、イベントの制作に関する知識や技術、取り組む姿勢を身につけてもらうことを目的としています。演習の前半には、イベント制作に関する座学を行い、イベント企画の演習を行います。後半には、全員で共同して卒業展を制作します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。</li> <li>・満足度の高いイベントなるようチームで考え、実現に向けた自発的行動ができる。</li> <li>・プロジェクトの全体像を十分に把握し、課題を発見することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1講 ガイダンス～昨年度実績伝達 第2講 卒業展について1（企画立案） 第3講 卒業展について2（資料制作） 第4講 卒業展について3（ディスカッション） 第5講 担当部署ごとの役割について 第6講 部門ごとの準備1（グループワーク） 第7講 部門ごとの準備2（グループワーク） 第8講 部門ごとの準備3（グループワーク） 第9講 部門ごとの準備4（グループワーク） 第10講 部門ごとの準備5（グループワーク） 第11講 システム構築1 第12講 システム構築2 第13講 テクニカルリハーサル 第14講 最終リハーサル（実習） 第15講 卒業展（実習）						
テキスト・教材（参考文献）	講義中に資料やワークシートを配布します。配布資料が多いため、専用のファイルを準備してください。						
事前・事後学習	年末年始の休暇期間を含め、プランニングや資料作成、連絡調整等が持ち帰り課題となります（180分程度）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席や遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	本講義のほとんどは、課題に向けて取り組む制作です。取り組んだ課題は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題は、講義内の発表時に講評を行います。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、実習						
実務経験のある教員	イベント業界、メディア業界で20年以上の経験を積んだ専門家です。自らの力でイベントを企画・制作するための技術とノウハウを提供、指導します。						
担当者から一言	卒業当日までグループワークで制作を進めていきますので、特別な理由以外では講義を休まないで下さい。また、本講義は、スマートフォンを利用する機会が多々ありますが、必要な作業以外での使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	ハードウェア論		科目コード	371323	授業コード	412707	
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	EIF2001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	コンピュータシステムはハードウェアとソフトウェアから成り立っています。効率の良いプログラムを開発したり、ソフトウェアを効率的に使うためにはハードウェアの知識が不可欠です。この講義ではコンピュータシステムのハードウェア部分について仕組みを解説します。また、情報系の国家資格であるITパスポート取得を念頭に置いて講義を行います。						
到達目標	①コンピュータシステムの仕組みを説明できる ②入力装置の機器と仕組みを説明できる ③出力装置の機器と仕組みを説明できる ④記憶装置の機器と仕組みを説明できる ⑤インターフェースの種類と特徴を説明できる ⑥インターネットの機器を説明できる						
授業計画	第1講 ガイダンス、コンピュータの五大装置 第2講 入力装置（ポインティングデバイス） 第3講 入力装置（キーボード、スキャナ、バーコードリーダー） 第4講 出力装置（ディスプレイ） 第5講 出力装置（プリンタ） 第6講 小テスト、中央処理装置 第7講 GPU 第8講 記憶装置（メインメモリ） 第9講 小テスト、補助記憶装置（磁気ディスク） 第10講 補助記憶装置（RAID、SSD、フラッシュメモリ） 第11講 補助記憶装置（光ディスク、光磁気ディスク、磁気テープ） 第12講 小テスト、インタフェース（パラレルインタフェース） 第13講 インタフェース（シリアルインタフェース） 第14講 小テスト、ネットワーク（イーサネット、ルータ、ハブ） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 春日健、舘泉雄治 「計算機システム（改訂版）」 コロナ社 ¥3,080（税込）						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと。（30分） 講義時には、学習した内容を復習しておくこと。（150分） 「情報科学概論」「ソフトウェア概論」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	<評価>小テスト40%、課題20%、定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で確認テストを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 小テストを実施した翌週の授業で内容の解説を行います。						
アクティブラーニング	小テスト、ミニッツペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ハードウェアは基本を理解できると、仕組みがとても簡単にわかります。しっかり復習を行って理解してください。 出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	プログラミング		科目コード	371324	授業コード	412110	
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIF2002			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	プログラミングにはさまざまな手法や言語があるが、その中でも幅広く使用されている言語のPythonを例にプログラミングの基本を学ぶ。本来、プログラミングとは情報技術の中の一つの手段であるため、プログラミングを行うことにより達成した目的があるものである。どういった目的に対してプログラミングという手段が有効であるかを理解し、目的を達成する技術としてプログラミングを学ぶ。						
到達目標	プログラミングとはどういうものかを理解し、基本的なプログラミングができるようになること。						
授業計画	第1講 ガイダンス～プログラミング言語Pythonでできる事～実習環境について 第2講 変数宣言・画面出力・変数の型・数値計算について 第3講 データ構造(リスト・タプル・辞書)について 第4講 制御フロー1(コメント・if文・比較演算子・論理演算子) 第5講 制御フロー2(for/while/continue/break) 第6講 関数(関数定義・引数・戻り値・デフォルト引数) 第7講 クラス・オブジェクト1(オブジェクト思考の概念について) 第8講 クラス・オブジェクト2(クラス定義・クラス変数・コンストラクタ・スコープについて) 第9講 組み込み関数1(print/input/formatなど) 第10講 組み込み関数2(型変換/数値計算など) 第11講 ライブラリの利用1(パッケージ/モジュールの概念について) 第12講 ライブラリの利用2(ファイル操作など) 第13講 ライブラリの利用2(エクセルの操作など) 第14講 ライブラリの利用2(データベースの操作など) 第15講 まとめ～プログラミング技術を使った課題の解決方法について ※受講生の理解度や授業の進捗によって、講義範囲は増減する可能性があります。						
テキスト・教材(参考文献)	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021)						
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。 実習環境はWebブラウザを使用してプログラミング及びその実行を行う事ができる、Google社のColaboratoryというサービスを利用します。 各自、初回の講義の前に、Googleアカウントを作成の上ログイン情報を忘れずにメモしておくこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。						
成績評価方法	「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)						
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、教育支援システム(Moodle)に提出する形とする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。						
アクティブラーニング	実習						
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。						
担当者から一言	プログラミング未経験者は、プログラミングと聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、プログラミングは難しくありません。 理系も文系も関係なく、誰でもプログラミングはできますので、先入観のみで避けて通らない事を願います。 ※実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。						

授業科目名	コンピュータ動作論		科目コード	371325	授業コード	414403	
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	EIF2003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	現代社会では、ほぼあらゆるところにコンピュータが使われています。われわれは漠然とコンピュータを使っているのですが、コンピュータは一体どのようにして動作しているのでしょうか？ この講義では、コンピュータがどのように動いているのかを、数の表現方法、コンピュータの内部構成について学びます。また高速化技法としてスーパーパイプラインとスーパースカラとキャッシュメモリについて学びます。さらに最新のコンピュータについても学びます。						
到達目標	①コンピュータの動作原理を説明できる。 ②組み合わせ論理回路を説明できる。 ③順序回路を説明できる。 ④記憶素子の動作原理を説明できる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、プログラムの実行とコンピュータの五大装置 第2講 命令サイクル、ハーバード・アーキテクチャとノイマン型アーキテクチャ 第3講 数の表現と演算 第4講 論理素子とCMOS 第5講 組合せ回路 第6講 順序回路 第7講 命令セット、RISCとCISC 第8講 制御方式（ハードワイヤード方式、マイクロプログラム方式） 第9講 記憶素子（SRAM、DRAM） 第10講 シングルサイクルコンピュータ 第11講 マルチサイクルとパイプライン 第12講 割込みとプロセスの切り替え 第13講 スーパーパイプラインとスーパースカラ、キャッシュメモリ 第14講 GPUと最新コンピュータの動向 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 馬場敬信「コンピュータのしくみを理解するための10章」 技術評論社 ¥2, 178（税込） ディビット・マネー、サラ・L・ハリス 著 天野英晴、鈴木貢、中條拓伯、永松礼夫 編 「デジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ 第2版」 翔泳社 ¥5, 940（税込）						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（120分）。 「ハードウェア論」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	<評価> レポート30%、小テスト20%、定期試験50%						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で小レポートをMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、小レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	システム管理論		科目コード	371326	授業コード	414704	
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	EIF2004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	「プログラミング実習応用1」で学習した基本的なPythonプログラミングをもとにして、より発展したPythonプログラミングを学習する。また、Python には有用な様々な外部ライブラリが用意されているので、それらの使用法の基礎を学ぶ。						
到達目標	要件から応用Pythonプログラムを作成できるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス Pythonプログラミング復習 1 第2講 Python プログラミング復習 2 第3講 Python IDE (統合開発環境) の紹介 第4講 標準ライブラリ 第5講 ファイル入出力 第6講 pandas ライブラリ 第7講 numpy ライブラリ 第8講 matplotlib を使用したデータ可視化 第9講 OpenCV を使用した画像処理 第10講 Tkinter を使用した GUI プログラミング 第11講 マルチスレッドプログラミング 第12講 その他のライブラリ 第13講 自由課題プログラミング 1 第14講 自由課題プログラミング 2 第15講 まとめ						
テキスト・教材 (参考文献)	松浦 健一郎 (著), 司 ゆき (著) 「Python [完全] 入門」 SB Creative, ¥3, 190 「プログラミング実習応用1」で使用したテキストを引き続き使用します。また、他の教材は Moodle で提示します。						
事前・事後学習	Pythonのプログラム例は、インターネットに多く存在します。授業中に作成したプログラムやインターネットで得られたプログラムを動作させてみたり、改良してみたりしてください。(週180分)						
成績評価方法	提出した実習プログラムで100% で評価し、定期試験は実施しません。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを利用して作成した課題プログラムを提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して、提出課題等にフィードバックします。						
アクティブラーニング	プログラミング実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「プログラミング実習応用1」を履修しないと、この授業をを取ることはできません。自主的にプログラムを作成する意欲が必要です。						



授業科目名	データベースプログラミング	科目コード	371327	授業コード	412509
担当教員	足立 明信	科目ナンバリング	EIF3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	実際のデータベース管理システム (DBMS) に触れることによって、データベースのしくみを理解する。具体的には、リレーショナルデータベース (RDBMS) のひとつであるSQLiteを使用し、表の設計、データの挿入と検索を通して、データベースのしくみを理解する。				
到達目標	検索条件をSQL文で書けること。 データの正規化ができること。 データの追加、更新、削除を理解すること。 データベースの基本設計ができること。				
授業計画	第1講 ガイダンス～データベースとは 第2講 さまざまなデータの保存形式 第3講 データベースを操作する言語 第4講 データベースの操作 1 第5講 データベースの操作 2 第6講 データベースの操作 3 第7講 データベースの操作 4 第8講 データベースの操作 5 第9講 データベースの操作 6 第10講 データベースの操作 7 第11講 データベースの操作 8 第12講 ER図 第13講 正規化 1 第14講 正規化 2 第15講 まとめと演習課題				
テキスト・教材 (参考文献)	坂上 幸大 著「図解まるわかり データベースのしくみ」翔泳社(2021)				
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。				
成績評価方法	「提出物」 (40%)、「定期試験」 (60%)				
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、教育支援システム (Moodle) に提出する形とする。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。				
アクティブラーニング	実習				
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。				
担当者から一言	実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。				

授業科目名	情報システム論	科目コード	371328	授業コード	411810
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	EIF3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	Microsoft Accessは、リレーショナル型のデータベース・ソフトウェアであり、実社会では大規模なデータベースを作成するために使われています。したがって、社会で活躍するためには、Accessを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Accessの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習・実習を行います。				
到達目標	MOS Access の資格試験の準備が整うようにします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 データベースの作成と管理（1） 第3講 データベースの作成と管理（2） 第4講 データベースの作成と管理（3） 第5講 テーブルの作成（1） 第6講 テーブルの作成（2） 第7講 テーブルの作成（3） 第8講 クエリの作成（1） 第9講 クエリの作成（2） 第10講 フォームの作成（1） 第11講 フォームの作成（2） 第12講 レポートの作成（1） 第13講 レポートの作成（2） 第14講 模擬試験演習（1） 第15講 模擬試験演習（2）				
テキスト・教材（参考文献）	「Microsoft Office Specialist Microsoft Access 2019 Expert 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）」FOM出版 ￥3,024				
事前・事後学習	講義前には、教科書の該当部分を読んで、操作を理解してくること（90分）講義後には、講義で学習した操作を復習して、教科書付属の模擬試験や章末問題を行っておくこと（90分）				
成績評価方法	毎回の課題（60％）、模擬試験（40％）				
授業内の課題・提出方法	課題は、Moodleの課題提出を使用します。毎回、提出があります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて採点結果などをフィードバックします。				
アクティブラーニング	実習課題の提出				
実務経験のある教員					
担当者から一言	積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。 「データベースプログラミング」と併せて受講することをすすめます。				

授業科目名	メディア情報産業論		科目コード	371329	授業コード	411502	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIF3003			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	Society5.0を視野に入れた、社会のありかたを産業の側面から考える講義です。テレビやアプリ、ゲーム、インターネットなど、私たちはメディア情報産業の恩恵に浴して暮らしています。メディア情報産業は、情報通信技術の発達によってその枠組みを大きく変化させ、また社会インフラとしてその重要性を増してきています。その歴史・背景は、また将来展望はどのようになっているのでしょうか。この講義では、メディア情報産業の歴史・構造を概観するとともに、現代社会においてメディア情報産業が果たす役割について考えます。						
到達目標	メディア情報産業の歴史・構造を知り、それぞれのメディアが果たしている（果たしてきた）社会的役割とこれからの展望・課題とを考察する。						
授業計画	第1講 ガイダンス/講義の概要 第2講 基礎論 メディア情報が産業になるとはどういうことか 第3講 基礎論 Society5.0に向けて 第4講 産業構造 通信/インターネット/IoT 第5講 産業構造 コンピュータ/アプリ 第6講 産業構造 映画/コンテンツ 第7講 産業構造 テレビ/ラジオ 第8講 産業構造 出版 第9講 産業構造 メディア融合 第10講 産業構造 メタバース/DX/Web3.0 第11講 社会 マスメディアの責務 第12講 事例 メディア利用動向 第13講 事例 メディア情報産業の最新トピックス 第14講 事例 最新の国際展示会レポート/メディア情報技術開発について 第15講 まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更します）						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 講義中に資料を配付します。 〈参考情報サイト〉→URL, <a href="http://edata.jp/you/imi/">http://edata.jp/you/imi/</a> 〈参考文献〉 電通総研編「情報メディア白書2024」ダイヤモンド社（2024） 日本経済新聞社編「日経業界地図2025年版」日本経済新聞出版社（2024）						
事前・事後学習	講義内容を復習する（90分）とともに、配布した資料およびURL提示した参考情報を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。 前後して「次世代メディア社会」（3年次前期開講）とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）						
授業内の課題・提出方法	小レポートを教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に、小レポートの内容などについて意見交換を行います。						
アクティブラーニング	意見交換を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「メディア情報産業論」では主に社会的な見地から、「次世代メディア社会」（3年次前期開講）では主に個人の視点からメディア情報を捉えます。						

授業科目名	環境情報特別講義 I	科目コード	371401	授業コード	416503
担当教員	青木 陽子	科目ナンバリング	ESL2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	「環境」に関する講義内容で、日本国内外の教育機関において実施される授業です。環境への幅広い知見を学ぶと共に、海外の実習では異文化体験を通して国際レベルで環境問題を考える力を身に付けることを目的としています。				
到達目標	研修活動を通して、環境への幅広い知識を得ること。				
授業計画	<p>教育機関において実施される授業の受講について  時間数：15コマ（30時間）以上の講義等の受講</p> <p>研修期間：長期休業期間中  事前申請：受講1ヶ月前までに受講内容等を教学課へ提出のうえ確認をうけること  提出書類：以下の①～③を明記すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①受講する教育機関名および所在地</li> <li>②受講内容（詳細資料添付）</li> <li>③受講期間</li> </ul>				
テキスト・教材（参考文献）	履修要綱の「履修制限対象外科目」の頁参照				
事前・事後学習	事前学習：研修実施国、研修実施機関に関する情報を収集し、内容を理解する。 事後学習：研修で学んだ内容を理解し、レポートを作成する。				
成績評価方法	受講修了書等・レポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	海外環境研修終了後にレポートを提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研修活動の振り返りの機会を設定				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	大学として研修を企画する場合はガイダンスや掲示によって周知します。				

授業科目名	環境情報特別講義Ⅲ		科目コード	371403	授業コード	413105	
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	ESL2003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身につけてもらいます。						
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 社会で起きている変化① Society5.0（前川） 第3講 社会で起きている変化② AI（前川） 第4講 社会で起きている変化③ データ駆動型社会（前川） 第5講 社会で活用されているデータ（前川） 第6講 データ・AI利活用の最新動向（前川） 第7講 データ・AIの活用領域（千葉） 第8講 データ・AIの利活用のための技術（前川） 第9講 データ・AI利活用の現場（千葉） 第10講 データを読む・説明する・扱う（導入）（千葉） 第11講 データを読む・説明する・扱う（演習）（千葉） 第12講 データ・AI利活用における留意事項①（千葉） 第13講 データ・AI利活用における留意事項②（千葉） 第14講 データを守るうえでの留意事項（千葉） 第15講 まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献）	岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社 税別1680円 参考文献 江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社 税別2000円						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。						
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
アクティブラーニング	演習を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。 四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。						

授業科目名	日本文化論		科目コード	371406	授業コード	413504	
担当教員	永井 博		科目ナンバリング	ECF2003			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	<p>いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自の文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているのかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。</p> <p>この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたのかについて一緒に考えてみたい。</p>						
到達目標	「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 「文化」概念について</p> <p>第3回 「日本文化論」の問題点について</p> <p>第4回 ブルーノ・タウトの日本文化論について ① 「日本文化私観」</p> <p>第5回 ブルーノ・タウトの日本文化論について ② 「ニッポン」</p> <p>第6回 日本の食文化 お雑煮</p> <p>第7回 加藤周一&lt;雑種文化論&gt; ① その背景</p> <p>第8回 加藤周一&lt;雑種文化論&gt; ② その主張</p> <p>第9回 加藤周一&lt;雑種文化論&gt; ③ その特徴と問題点</p> <p>第10回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ① その概要</p> <p>第11回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ② その問題点</p> <p>第12回 三島由紀夫「文化防衛論」 ① その特徴</p> <p>第13回 三島由紀夫「文化防衛論」 ② 戦後の日本文化論</p> <p>第14回 坂口安吾「日本文化私観」 ① その内容</p> <p>第15回 坂口安吾「日本文化私観」 ② その思想史的意味</p> <p>定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	<p>予習として、配布する日本文化論のテキストをよく読んでくること。（90分）</p> <p>復習として、講義の内容を踏まえて上記のテキストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。（90分）</p>						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的にする。提出物は評価をつけたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	毎回授業の終わりに、講義の内容をまとめ、自分の意見や質問を書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は、全体的なコメントとともに翌週以降の講義で返却する。						
アクティブラーニング	小レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本文化論がこれまでにどのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。						

授業科目名	出版文化論	科目コード	371407	授業コード	412305
担当教員	富田 与	科目ナンバリング	ECF2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	この講義では、メディア（主にマス・メディア）を挟んだ、（多数）対（多数）のコミュニケーションを見ていきます。発信性はそうしたコミュニケーションを流れる情報にどのようなレトリックを施し、受信者はそうしたレトリックを施された情報にどのように対応していけば良いかを考えていきます。				
到達目標	コミュニケーションの基本的な考え方をリテラシーに結びつける。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 コミュニケーションと文化 第3講 言語コミュニケーション 第4講 非言語コミュニケーション 第5講 「旧修辞学」の復権 第6講 新しいプロパガンダの時代 第7講 レトリックを演じる人々 第8講 革命は放映されない 第9講 広告と消費の誘惑 第10講 Instagramのレトリック 第11講 スポーツのメディア表象 第12講 「異なる身体」の表象 第13講 性的マイノリティへのまなざし 第14講 氾濫する英語のレトリック 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	『メディア・レトリック論』 青沼智（他）著 ナカニシヤ出版 2400円				
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）				
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%				
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらおうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。				
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	ここ数年でメディアのあり方が大きく変わってきています。基本的にはテキストの内容に従って進めますが、状況や情勢を見ながら内容を多少変更するかもしれません。				

授業科目名	アジア文化論	科目コード	371408	授業コード	411501
担当教員	加納 光	科目ナンバリング	ECF2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる				
授業のねらい	世界のさまざまな文化の比較を通して、その違いや共通点を探り出し、異文化間の相互理解と自文化に対する理解をより深めることをこの授業の最大のねらいとします。世界のさまざまな文化圏にはそれぞれ異なった文化が存在しています。それぞれの文化にはその根底にどのような価値観や行動規範があるのか、そうしたそれぞれの価値体系をさぐることにより、相互、あるいは自文化に対する再評価や問題解決に役立てることが出来ます。そうしたことを学ぶ機会にしたいと考えています。講義中に、受講生自身が特定のテーマについて調べ、レポートにまとめ発表する機会も作りたと思っています。				
到達目標	異なる文化や歴史的、社会的背景を比較することにより、文化の多様性や共通性を理解し、それによって異文化間の交流をよりスムーズに行えるようになること。また、異文化間に存在する諸問題の解決方法を自分なりに導き出せるようにすること。				
授業計画	第1講：ガイダンス、講義の概要 第2講：「文化」とは、「比較文化論」とは何か 第3講：「言語文化」の比較① 第4講：「言語文化」の比較② 第5講：「宗教観」の比較① 第6講：「宗教観」の比較② 第7講：「年中行事」の比較 第8講：「国民性」の比較 第9講：「死生観」の比較 第10講：「スポーツ観」の比較 第11講：「娯楽」の比較 第12講：「人生観」の比較 第13講：「行動様式」の比較 学生課題発表① 第14講：「恋愛・結婚」の比較 学生課題発表② 第15講：まとめ 定期試験 注 進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	プリント教材（講義内容に応じて、適宜配布します）。				
事前・事後学習	毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください（90分）。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください（90分）。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。				
成績評価方法	定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
授業内の課題・提出方法	講義内における課題は、Moodle、あるいは講義内に直接担当教員に提出すること。どちらの方法で提出するのは、そのつど指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題や質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
アクティブラーニング	小レポート/小テスト				
実務経験のある教員					
担当者から一言	日頃から自国についてはもちろんのこと、世界各国・地域の歴史・文化・社会などに関心を向け、理解を深める取り組みをしてください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。				



授業科目名	欧米文化論		科目コード	371409	授業コード	412501	
担当教員	山本 伸		科目ナンバリング	ECF2006			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	本講義は、カリブ海地域の視点を軸にヨーロッパ世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、欧米近代路線を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにするとともに、世界平和を目的とする多文化共生への道を探ります。 近代世界がヨーロッパ中心主義的な限定的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解したうえで、グローバル化の潮流のなかで様々な文化が入り混じる現代世界を生きる私たちが異なる価値観を共有し受容できるだけの知識と能力を身に着けること、それが狙いであり目標であります。						
到達目標	異なる様々な文化を知り理解し、その価値を共有し受容できるだけの知識と能力を身に着けるとともに、世界的視野で物事を見ることのできる感性を身に着ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、導入「本講義で学べること」 第2講 カリブ海地域における異文化コミュニケーション 第3講 歴史と教育 第4講 社会・人種・アイデンティティー①/アフリカ系とインド系 第5講 社会・人種・アイデンティティー②/インド系内比較 第6講 社会・人種・アイデンティティー③/中国系 第7講 台湾映画『セデック・バレ』にみる植民地主義 第8講 米映画『ヘルプ』にみる人種主義 第9講 文化とコミュニティー/カーニバルと精神文化 第10講 文化と宗教 第11講 クレオリズムとグローカリズム/ハイチとジャマイカ 第12講 米映画『グリーンブック』(前半) 第13講 米映画『グリーンブック』(後半/解説) 第14講 平和 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材(参考文献)	山本 伸著 『カリブ文学研究入門』(世界思想社)2005年 定価:1,500円(税込)						
事前・事後学習	前週に出された課題(テキストの熟読/わからない用語の検索等)に90分、学習した箇所の復習(テキストのおさらい/ノート整理等)に90分をそれぞれかけて事前事後の学習をしてください。						
成績評価方法	平常点(積極的に授業を受けているか等の授業態度)30%、期末試験70%で総合的に判断します。						
授業内の課題・提出方法	個人メールにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	個人メールへの返信をもってフィードバックする						
アクティブラーニング	授業内におけるフロアとの質疑応答のインターアクションをもってアクティブラーニングとします						
実務経験のある教員	「国際フレンドシップ協会」および「かめのり財団」の外部委託講師としてこれまでに170回以上の海外渡航経験あり						
担当者から一言	定期試験はマークシート方式のため1点でも足りないとは不可となりますので、普段から持ち込み可能なテキストへの書き込みやメモの作成等をこまめに行ってください。						